

資料 2－2

四 日 市 市

令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報「令和 5 年度版三重県市町要覧」「令和 4 年度版森林・林業統計書」による

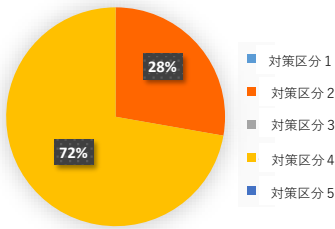
市町名	四日市市	三重県
人口（人）	302,460	1,731,863
年少人口割合（％）＊ 1	11.9%	11.6%
森林面積(ha)	2,805.64	372,030.08
民有林面積(ha)＊ 2	2,497.56	348,561.87
森林率(％)	14.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊ 3	10.3	10.6

＊ 1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊ 2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊ 3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）					
				小計	対策区分 1	対策区分 2	対策区分 3	対策区分 4	対策区分 5
1	2	都市公園危険木処理事業	4,988,500	4,988,500		4,988,500			
2	2	危険木等除去支援事業	44,000	33,000		33,000			
3	2	里山・竹林環境保全支援事業	1,005,939	711,000		711,000			
4	2	災害からライフラインを守る事前伐採事業	10,717,300	2,679,325		2,679,325			
5	4	市民活動センター運営事業	4,950,000	4,950,000				4,950,000	
6	4	一般備品整備事業(小学校)	8,933,760	8,933,760				8,933,760	
7	4	一般備品整備事業(中学校)	8,003,160	8,003,160				8,003,160	
計			38,642,659	30,298,745	0	8,411,825	0	21,886,920	0

3. 令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量 (ha・m)	事業費 (円)	内交付金充当 額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業	153本	10,717,300	2,679,325	

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	本市は、東側に伊勢湾、西側に鈴鹿山脈に接し伊勢湾沿いには石油化学工業等の発達した中核都市です。四日市市総合計画の基本構想で「環境・防災先進都市」を将来都市像の一つに位置付けており、公害の歴史と教訓から、豊かな環境を基本とした都市整備と、防災力強化を両軸に、快適性と安全・安心が高い水準で保たれたまちづくりを目指しています。 みえ森と緑の県民税市町交付金を活用することにより、都市公園や地域の里山や竹林を整備し、緑にふれあう環境を整えるとともに、公共施設等での県産材の利用を進めることにより、森への関心、木材利用の意義への理解を深め、緑を身近に感じ大切にしていくことのできる社会づくりを推進します。
事業実施により期待される効果	森林整備を行ったことにより、地域住民の生活の安全性が確保されたとともに、整備された場所は子供の遊び場としても利用され、子供が森林にふれあう場を作ることができた。 また、木製備品を導入したことにより、施設利用者に森林や木材について学び、ふれあう場を提供することができた。
情報発信への取組	みえ森と緑の県民税を活用した事業であることの周知を図るためHPの掲載や、導入した木製備品へのロゴマークの焼き印などをつけた。

第 1 1 号様式（その 1）（参考資料）

令和 5 年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税（千円）
1	③ 私有林整備	500	500
2	⑭ 基金積立（木材利用等）	35,774	35,774
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	36,274	36,274

【記載要領】

ア、事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備（財産区有林含む）
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他（森林整備）
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他（人材育成等）
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他（木材・普及啓発関係）
⑰ 基金積立（森林整備等）
⑱ 基金積立（人材育成等）
⑲ 基金積立（木材利用等）
⑳ 基金積立（執行残額等）

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	都市公園危険木処理事業				
事 業 費	4,988,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,988,500		

1. 事業の目的

垂坂公園・羽津山緑地、南部丘陵公園、泊山公園、泊山霊園緑地において、危険木の伐採をおこなうことで、台風起因する倒木や枝折れを未然に防ぎ、利用者の安全を確保する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

垂坂公園・羽津山緑地、南部丘陵公園、泊山公園、泊山霊園緑地における樹木等の伐採作業等について、業者に委託する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

四日市市

【実施箇所及び箇所数】

垂坂公園・羽津山緑地、南部丘陵公園、泊山公園、泊山霊園緑地

【事業量】

危険木伐採工 54 本、支障木伐採 100 m²、倒木撤去 3 本、折れ枝撤去 2 箇所、支障木剪定 18 本

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

利用者及び通行者の安全性が確保され、利用者が安心して公園を利用することができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

利用者が多い箇所に近接する枯木を優先的に伐採する。

【新たな対策・視点及び改善点】

枯れそうな樹木を早期に発見し、倒木による事故を未然に防ぐよう努める。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	------	---------	----

番 号	事 業 名				
1	都市公園危険木処理事業				
事 業 費	4,988,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,988,500		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	造園業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

園路脇等の伐採作業は高度の技術を要するため、現場経験豊富な地元造園業者へ委託した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	利用者（約30万人）
期待する波及効果	今後の都市公園利用者及び周辺の住居等の安全が確保される

【公的関与の必要性】

公共施設である公園等の利用者の安全を確保する必要があるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

特になし。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
施工看板に掲示	実施中	みえ森と緑の県民税を活用した事業である施工看板を設置。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

地元自治会や公園利用者から、安全に公園を利用できるようになったという声が寄せられた。

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市
事業名	都市公園危険木処理事業		

4. 効率性：主な経費内訳

泊山霊園緑地①

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
危険木伐採	本	3	100,000	300,000	
支障木剪定	本	2	60,000	120,000	
諸経費	式	1	30,000	30,000	
消費税	式	1		45,000	
事業費				495,000	

南部丘陵公園①

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
危険木伐採(運搬処分含む)	本	4	80,000	320,000	
樹木剪定(運搬処分含む)	本	2	30,000	60,000	
諸経費	式	1	20,000	20,000	
消費税	式	1		40,000	
事業費				440,000	

垂坂公園・羽津山緑地①

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
危険木伐採(運搬処分含む)	本	1	250,000	250,000	
諸経費	式	1	45,000	45,000	
消費税	式	1		29,500	
事業費				324,500	

泊山霊園緑地②

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
危険木伐採	本	4	75,000	300,000	
支障木剪定	本	3	40,000	120,000	
諸経費	式	1	30,000	30,000	
消費税	式	1		45,000	
事業費				495,000	

南部丘陵公園②

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
倒木撤去	本	3	90,000	270,000	
機械経費・諸経費	式	1	50,000	50,000	
消費税	式	1		32,000	
事業費				352,000	

泊山公園

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
支障木伐採	m ²	100	4,000	400,000	
機械経費・諸経費	式	1	50,000	50,000	
消費税	式	1		45,000	
事業費				495,000	

南部丘陵公園③

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
危険木伐採	本	13	21,000	273,000	
折れ枝撤去	箇所	2	10,000	20,000	
諸経費	式	1	107,000	107,000	
消費税	式	1		40,000	
事業費				440,000	

垂坂公園・羽津山緑地②

作 業 内 容	単位	数量	単価	金額	備 考
危険木伐採 ($30 \leq C < 60$)	本	8	4,130	33,040	
危険木伐採 ($60 \leq C < 90$)	本	10	10,252	102,520	
危険木伐採 ($90 \leq C < 120$)	本	6	19,462	116,772	
危険木伐採 ($120 \leq C < 150$)	本	2	45,000	90,000	
危険木伐採 ($150 \leq C < 180$)	本	3	61,995	185,985	
支障木剪定 ($60 \leq C < 90$)	本	5	6,570	32,850	
支障木剪定 ($90 \leq C < 120$)	本	1	17,130	17,130	
支障木剪定 ($120 \leq C < 150$)	本	2	31,845	63,690	
支障木剪定 ($150 \leq C < 180$)	本	3	53,295	159,885	
仮設工(交通誘導警備員)	式	1	72,975	72,975	
運搬・処分費	式	1	24,027	24,027	
諸経費	式	1	871,126	871,126	
消費税	式	1		177,000	
事業費				1,947,000	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	------	---------	----

事業名	都市公園危険木処理事業
-----	-------------

7の(1). 写真



写真1

泊山霊園緑地① 施工前



写真2

泊山霊園緑地① 施工後



写真3

南部丘陵公園① 施工前



写真4

南部丘陵公園① 施工後



写真5

垂坂公園・羽津山緑地① 施工前



写真6

垂坂公園・羽津山緑地② 施工後

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	------	---------	----

事業名	都市公園危険木処理事業
-----	-------------

7の(1).写真



写真1

泊山霊園緑地② 施工前



写真2

泊山霊園緑地② 施工後



写真3

南部丘陵公園② 施工前



写真4

南部丘陵公園② 施工後



写真5

泊山公園 施工前



写真6

泊山公園 施工後

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	------	---------	----

事業名	都市公園危険木処理事業
-----	-------------

7 の（ 1 ）．写真



写真1
南部丘陵公園③ 施工前



写真2
南部丘陵公園③ 施工後

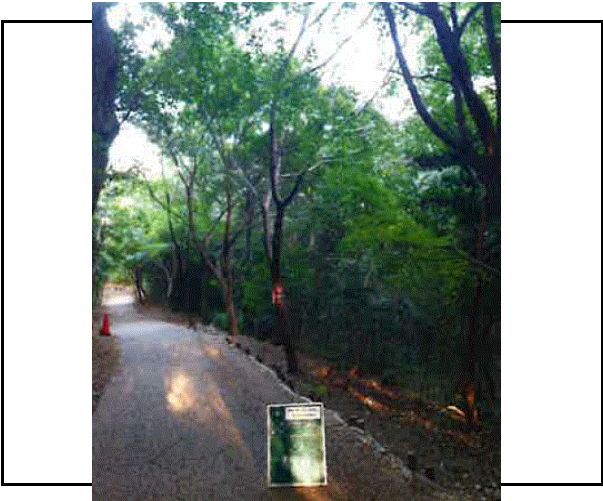


写真3
垂坂公園・羽津山緑地② 施工前



写真4
垂坂公園・羽津山緑地② 施工後



写真5

写真5



写真6

写真6

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名						
2	危険木等除去支援事業						
事 業 費	44,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他		
			33,000		11,000		

1. 事業の目的	
地域において緑豊かで安全な生活環境を保全するため、土地所有者等に代わって自治会等が実施する道路沿いの危険木等の伐採作業に対して支援する。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】 自治会等が実施する危険木等の伐採作業に対して、事業費の一部を支援する。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 自治会等の地域団体 【実施個所及び箇所数】 中野町 1ヶ所 【事業量】 危険木 1 本伐採	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【事業実施により期待される効果】 地域の安全性が確保される。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 市広報誌及びホームページにて周知を図る。 【新たな対策・視点及び改善点】 市民への事業のPR	

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	危険木等除去支援事業				
事 業 費	44,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			33,000		11,000

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	自治会等	3/4以内	100,000	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】				
公募による実施				
【主な経費内訳】				
(別紙のとおり)				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	地域住民			
期待する波及効果	約 5 2 1 名（中野町）			
【公的関与の必要性】				
通行の支障になりうる危険木を除去することで地域の安全性を確保することができる。				
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】				
当該地の転用規制等は困難であるが、適正利用について確認済みである。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
HP掲載	今後	みえ森と緑の県民税を活用した事業であることの周知を図る。		
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				
・ 小学校の通学路にあった、危険木が除去されたことにより安心して通学できるようになった。				

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市
事業名	危険木等除去支援事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
事業費補助(中野町連合自治会)		件	1.00	44,000	44,000	交付額 (33,000)
		合計				

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	------	---------	----

事業名	危険木等除去支援事業
-----	------------

7の（1）. 写真



写真1
伐採前

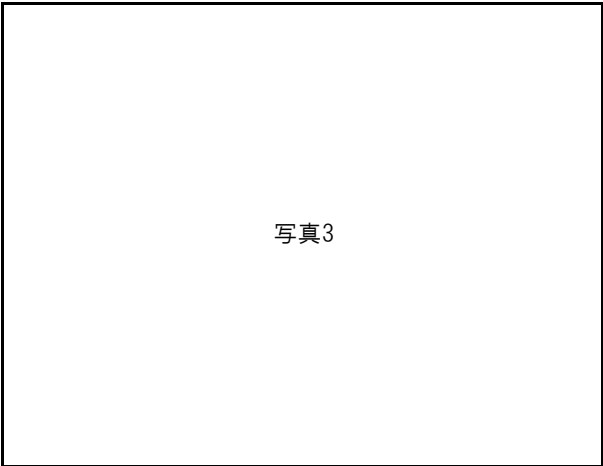


写真3

写真3



写真5

写真5



写真2
伐採後

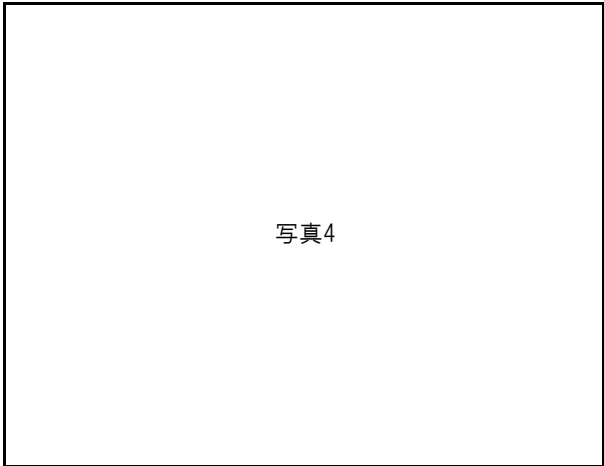


写真4

写真4



写真6

写真6

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
3	里山・竹林環境保全支援事業				
事 業 費	1,005,939 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			711,000		294,939

1. 事業の目的

市内の里山保全活動団体等が地域住民の憩いの場としての利用や安全性の確保を目的として、自主的に里山や竹林を整備する取組みを支援して、持続的な活動に資することを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市内の地域団体が自主的に里山や竹林を整備する取組みに対して、事業費の一部を支援する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

市内の里山保全活動団体等

【実施個所及び箇所数】

2箇所

【事業量】

<中村町自主防災クリーン隊> 事業費：282,479円 うち補助金：211,000円

<山一里地・里山クラブ> 事業費：723,460円 うち補助金：500,000円

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

荒廃した里山や竹林が再生され、憩いの場や安全性が確保されるとともに、生物多様性の保全に資することが期待できる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

ホームページにて周知を図る。

【新たな対策・視点及び改善点】

・市民への事業のPR

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
3	里山・竹林環境保全支援事業				
事 業 費	1,005,939 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			711,000		294,939

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	3/4以内	500,000	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】				
公募による実施 【主な経費内訳】 (別紙のとおり)				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	中村町：約439名 山之一色町：約544名			
期待する波及効果	倒竹除去により下草刈りが可能、道路の見通しがよくなる等			
【公的関与の必要性】				
荒廃した里山や竹林を再生させることで市民生活の安全性や生物多様性を確保することができる。 【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】 当該地の転用規制等は困難であるが、適正利用について確認済みである。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
HP掲載	今後（今秋）	みえ森と緑の県民税を活用した取組として、ホームページに掲載する。		
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				
・「スッキリしてきれいになった。」 ・「町内の景観が良くなった。」				

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市
事業名	里山・竹林環境保全支援事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
事業費補助(自主防災クリーン隊)		件	1.00		282,479	交付額 (211,000)
事業費補助(山一里地・里山クラブ)		件	1.00		723,460	交付額 (500,000)
		合計			1,005,939	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	------	---------	----

事業名	里山・竹林環境保全支援事業
-----	---------------

7の(1).写真

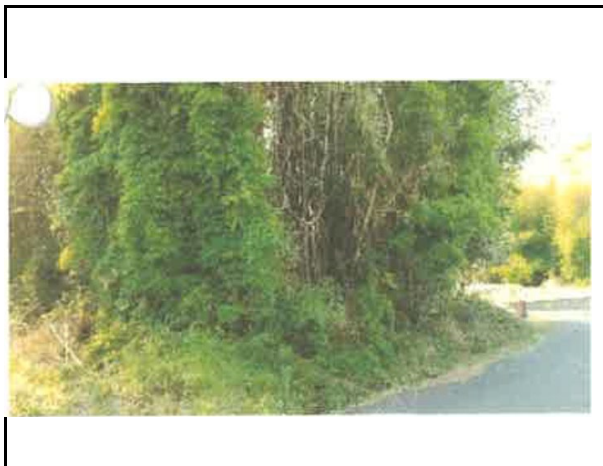


写真1

中村町自主防災クリーン隊活動前



写真2

中村町自主防災クリーン隊活動後



写真3

山一里地・里山クラブ活動前



写真4

山一里地・里山クラブ活動後



写真5

中村町自主防災クリーン隊



写真6

写真6

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
4	災害からライフラインを守る事前伐採事業				
事 業 費	10,717,300 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,679,325		8,037,975

1. 事業の目的

市内において、台風などの倒木被害により、電気などのライフラインが寸断される恐れのある樹木を事前に伐採し、ライフラインの維持及び住民の生命や財産を守ることを目的にする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

台風などの倒木被害により、電気などのライフラインが寸断される恐れのある樹木を事前に伐採する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

四日市市

【実施個所及び箇所数】

1 箇所

【事業量】

樹木伐採 1 5 3 本 樹木枝払 1 本

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

バックアップのないライフラインを災害時に寸断する恐れのある樹木を除去することで住民の生活の安全性が確保された。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

ライフライン事業者、県と協議し効果の高い事前伐採地域を選定し、伐採樹木についても事業効果が十分に発揮されるよう3者で協議を行った。

【新たな対策・視点及び改善点】

電力会社、県と共に伐採する地域、樹木の検討を早期から行った。また、伐採作業の際に、県民税の幟を立てることにより、県民税を活用した事業の啓発につながった。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
4	災害からライフラインを守る事前伐採事業				
事 業 費	10,717,300 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,679,325		8,037,975

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	造園業者	補助事業ではない		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】				
一般競争入札				
【主な経費内訳】				
(別紙のとおり)				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	山村町：約283名			
期待する波及効果	市民の安全性確保			
【公的関与の必要性】				
ライフラインが寸断される恐れのある樹木を除去することで市民の安全性を確保することができる。				
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】				
当該地の転用規制等は困難であるが、適正利用について確認済みである。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
HP掲載	今後(今秋)	みえ森と緑の県民税を活用した事業であることの周知を図る。		
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				
・「電線に覆いかぶさるように繁茂していた樹木が伐採され、火災や断線等の不安が解消された。」				

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市
事業名	災害からライフラインを守る事前伐採事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
樹木伐採		本	154.00	下記参照	4,228,524	
運搬		m3	128.00	2,175	278,400	
処分		t	51.00	12,000	612,000	
諸経費					5,598,376	
事業費					10,717,300	
作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
樹木伐採	枝払	本	1.00	55,500	55,500	
	幹周20cm以上30cm未満	本	46.00	2,189	100,694	
	幹周30cm以上60cm未満	本	51.00	11,990	611,490	
	幹周60cm以上90cm未満	本	25.00	25,610	640,250	
	幹周90cm以上120cm未満	本	17.00	44,870	762,790	
	幹周120cm以上150cm未満	本	6.00	78,800	472,800	
	幹周150cm以上200cm未満	本	6.00	173,200	1,039,200	
	幹周200cm以上250cm未満	本	2.00	272,900	545,800	
	計				4,228,524	
		合計			10,717,300	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	------	---------	----

事業名	災害からライフラインを守る事前伐採事業
-----	---------------------

7の(1).写真



写真1

伐採前



写真2

伐採後



写真3

伐採前



写真4

伐採後



写真5

伐採前



写真6

伐採後

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
5	市民活動センター運営事業				
事 業 費	4,950,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,950,000		

1. 事業の目的

市民活動の拠点である市民活動センター「なやプラザ」において、施設の利用促進を目的として、来館者にとってさらに魅力のある空間とするために三重県材を活用した木製家具を導入することで、施設利用者に対して森林教育の機会及び木材にふれあう機会を提供し、森林に対する県民の意識向上に繋げる。

2. 事業実績概要

【事業内容】

令和元年度から継続して木製家具・木製内装パネルを導入している市民活動センター「なやプラザ」において、玄関エリアに県産材を使用した木製家具を新たに導入し、施設利用者に対する森林教育に繋げる。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

四日市市

【実施個所及び箇所数】

1 箇所

【事業量】

下足棚（片面）：2 台、下足棚（両面）：1 台、踏み台：1 台

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

三重県材を活用した家具を配置するとともに県民税の概要・森林の役割について学ぶことができるポスターを併せて掲示することにより、施設利用者に対して森林教育の機会及び木材にふれあう機会を提供し、森林の役割や木材利用の意義について考えるきっかけとなることが期待される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

施設利用者に対し、掲示したポスターで県産材を活用している旨を呼び掛け、森林について考える機会を提供するとともに、令和 4 年度以前に市民活動センター及びフリースペースに導入した木製設備・家具についても併せて周知する。また、環境分野の市民活動団体の資料を施設内に配架するなど森林や木材について学べる場所としても展開していく。

【新たな対策・視点及び改善点】

来館者にとって魅力ある空間となるよう、三重県材を活用したエリアをさらに拡充した。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	------	---------	----

番 号	事 業 名				
5	市民活動センター運営事業				
事 業 費	4,950,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,950,000		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	その他	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

本市の過去の交付金事業において入札のあった事業者など、県産材を活用した事業について対応可能な事業者から、見積合せにより選定。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	施設利用者（R5年度：約40,300人/年間）
期待する波及効果	施設利用者からの口コミによる波及効果も期待できる

【公的関与の必要性】

本市が管理する公的施設の施設整備の一環として実施する事業であるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

長期にわたり利用できるよう市として適正に管理を行う。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ロゴマーク掲示（シール・プレート等）	実施後	「みえ森と緑の県民税」を活用して導入した品であることを示すシールを木製家具に貼付する。
ポスター掲示	実施後	設置した木製家具に「みえ森と緑の県民税」を活用して木製家具を導入したことを掲載したポスターを掲示し周知を図る。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

木の温もりを感じる、よい香りがすると好評である。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市
事業名	市民センター運営事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
なやプラザ	下足棚(片面) W1620*D320*H1661	台	1.00	1,081,630	1,081,630	県産材使用
なやプラザ	下足棚(両面) W1620*D640*H1661	台	1.00	2,200,000	2,200,000	県産材使用
なやプラザ	下足棚(片面) W1410*D320*H1661	台	1.00	1,118,370	1,118,370	県産材使用
なやプラザ	踏み台 W2500 D500・D200 H800	台	1.00	476,630	476,630	県産材使用
なやプラザ	撤去費	式	1.00	73,370	73,370	
		合計			4,950,000	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	------	---------	----

事業名	市民活動センター運営事業
-----	--------------

7の(1). 写真



写真1

設置時写真（下足棚）



写真2

設置時写真（踏み台）

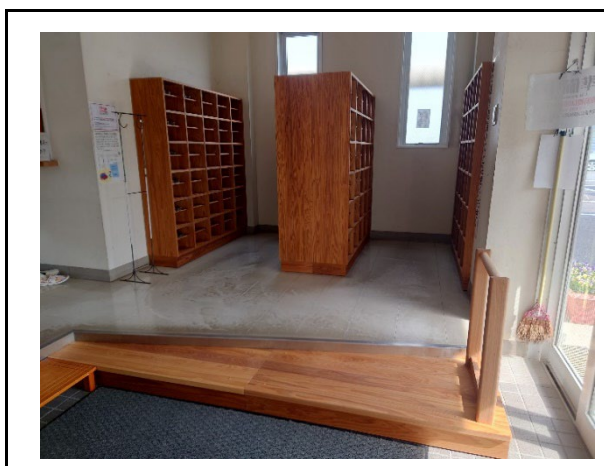


写真3

設置時写真（下足棚・踏み台）

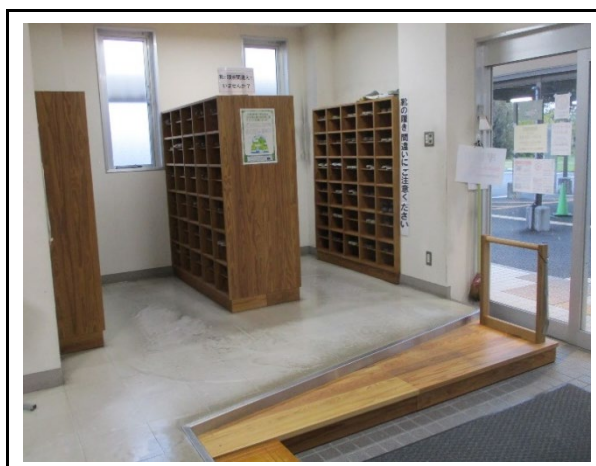


写真4

ポスター掲示①



写真5

ポスター掲示②



写真6

写真6

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	------	---------	----

事業名	市民活動センター運営事業
-----	--------------

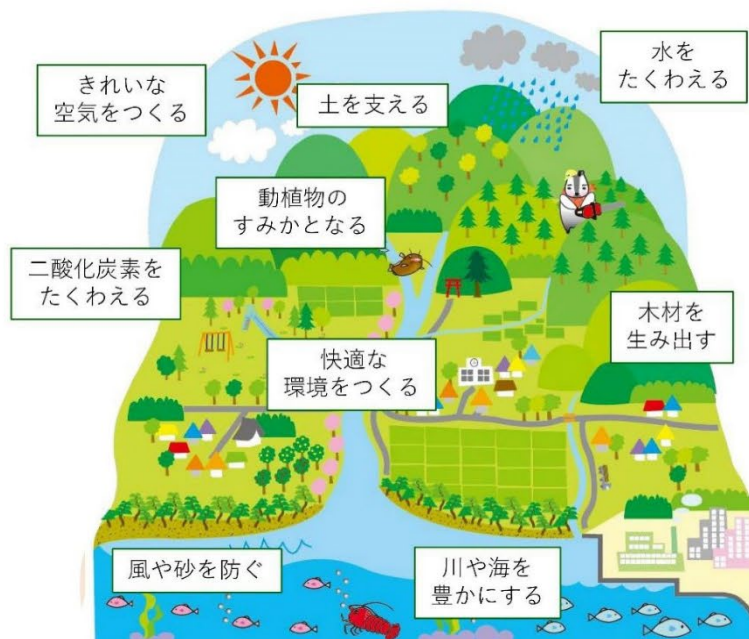
7の(2). その他資料

掲示ポスター

玄関の靴箱・踏み台は 「みえ森と緑の県民税」を 活用して設置しました！

三重県では、平成26年度から「みえ森と緑の県民税」を導入し「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」に取り組んでいます。

今回、この県民税を活用して、三重県産の杉を使用した靴箱・踏み台を設置しました。1階市民活動センター、2階のふらっとサロンにも県産材の木製家具を導入しているので、ぜひ立ち寄ってみてください。



三重県みえ森と緑の県民税パンフレットより

森林を育てるために、木を使用しましょう！

みえ森と緑の県民税



第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
6	一般備品整備事業（小学校）				
事 業 費	8,933,760 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			125,069	8,808,691	

1. 事業の目的	
市内小学校に、三重県材を用いた図書室の机と椅子を導入することにより、児童が木にふれあい、森林や木材について学ぶことのできる場を提供する。 本市小学校では、森林と環境保全の関係についての学習や自然教室において里山保全活動や創作活動を実施するなど、森林教育を行っている。実際に三重県材を用いた図書室の机と椅子に触れることや、それらを活用し、調べ学習を行い、学習内容、体験活動等との関係性をより実感させることにより、森林教育としての効果を高める。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】 市内 2 校の小学校の図書室に三重県材を用いた机及び椅子を導入することにより、学習内容、体験活動との関係性をより実感させることにより、森林教育としての効果を高める。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 四日市市 【実施個所及び箇所数】 川島小学校 塩浜小学校 計 2 校 【事業量】 川島小学校 図書室 机 12台 椅子 48脚 塩浜小学校 図書室 机 12台 椅子 48脚 計 机 24台 椅子 96脚	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【事業実施により期待される効果】 三重県材を活用した備品を配置することにより、児童が森林や木材について学び、ふれあう機会を提供し、森や木への理解を深めることが期待できる。 実際に三重県材を用いた図書室の机と椅子に触れることや、それらを活用し、調べ学習を行い、学習内容、体験活動等との関係性をより実感させることにより、森林教育としての効果を高めることが期待できる。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 学校ホームページや学校だより等で紹介することにより、保護者や地域住民等への情報発信を行う。 【新たな対策・視点及び改善点】 三重県材を活用した備品を配置し、実際に触れることや、それらを活用し、調べ学習を行い、学習内容、体験活動等との関係性をより実感させることにより、森林教育としての効果を高めていく。	

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
6	一般備品整備事業（小学校）				
事 業 費	8,933,760 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			125,069	8,808,691	

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	木工製造業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

購入先の決定は、指名競争入札による。

三重県産木材におけるひのき材の備品選定理由について

三重県産木材で、公共施設における机、椅子等の備品に用いられるものとしては、ひのきと杉が代表的なものとなっている。

ひのきと杉の特性を考察した場合、

1. ひのきは、杉と比較して、強度が高く、耐久性に優れている。一方、杉は傷がつきやすく、反りやすく、われやすい面がある。

2. ひのきは木目がきれいであり、色は白か淡いピンクの為、色味を合わせやすい。一方、杉は木目が粗く、色味が白・赤・黒等ばらつきがある。

3. 杉の場合は、傷のつきやすさや色味のばらつき等の欠点をクリアするためには、材料の選木や強度を出すための前処理等、家具の組立前にかかる工程が多いなど、コスト増につながる。

以上のことから、ひのき製品を採用した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	川島小学校全児童数：約500人、塩浜小学校全児童数：約170人
期待する波及効果	三重県材を活用した備品を配置することにより、児童が森林や木材について学び、ふれあう機会を提供し、森や木への理解を深めることが期待できる。

【公的関与の必要性】

公立小学校へ導入のため

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

みえ森と緑の県民税を活用した事業であることを示したプレートを取り付けており、公有財産として適正に管理を行う。

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
6	一般備品整備事業（小学校）				
事 業 費	8,933,760 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			125,069	8,808,691	

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ロゴマーク掲示(シール・プレート等)	実施前	机、椅子作成時にみえ森と緑の県民税を活用した事業であることを示したプレートを取り付け、児童の関心を深めるきっかけとする。
HP掲載	実施後	実施後に学校ホームページで紹介する。
学校だより等掲載	実施後	実施後に学校だよりで紹介する。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

児童からも「木のいい香りがする」「触り心地がいい」「木目や色が明るくきれい」といった感想が聞かれ、木のぬくもりを感じながら落ち着いた雰囲気での読書、学習環境の向上につながっている。
また、児童だけでなく職員やPTA、地域の方が参加するコミュニティースクール等の会議でも活用され、児童同様に大変好評である。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市
事業名	一般備品整備事業（小学校）		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
川島小学校	図書机	台	12.00	169,200	2,030,400	県産材使用
	椅子	脚	48.00	42,300	2,030,400	県産材使用
塩浜小学校	図書机	台	12.00	169,200	2,030,400	県産材使用
	椅子	脚	48.00	42,300	2,030,400	県産材使用
		小計			8,121,600	
		消費税及び地方税相当額			812,160	10%
		合計			8,933,760	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	------	---------	----

事業名	一般備品整備事業（小学校）
-----	---------------

7の（1）. 写真



写真1

図書室 机、椅子



写真2

表示プレート

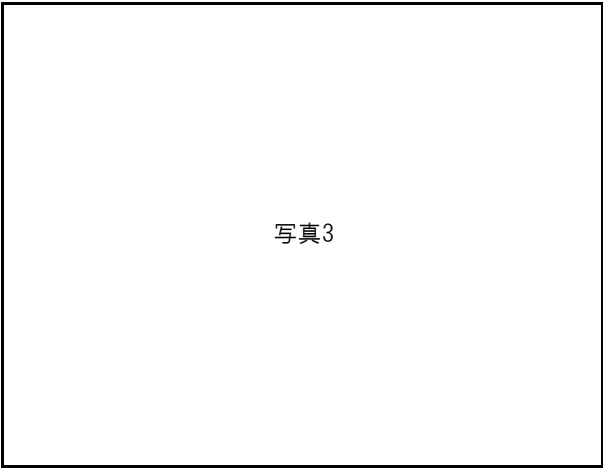


写真3

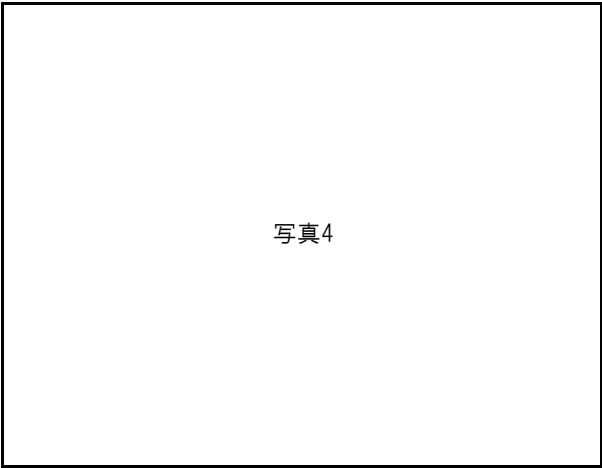


写真4



写真3



写真4

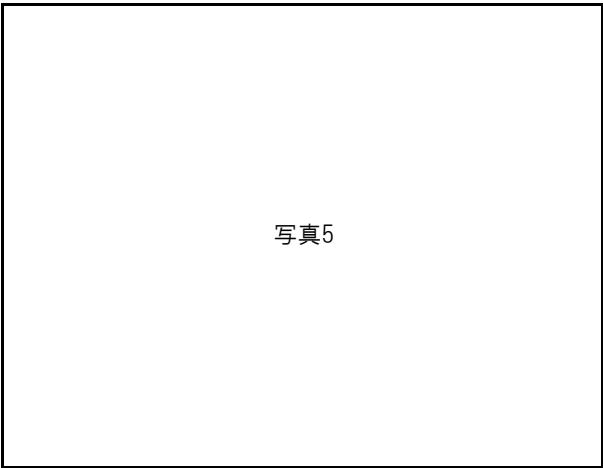


写真5

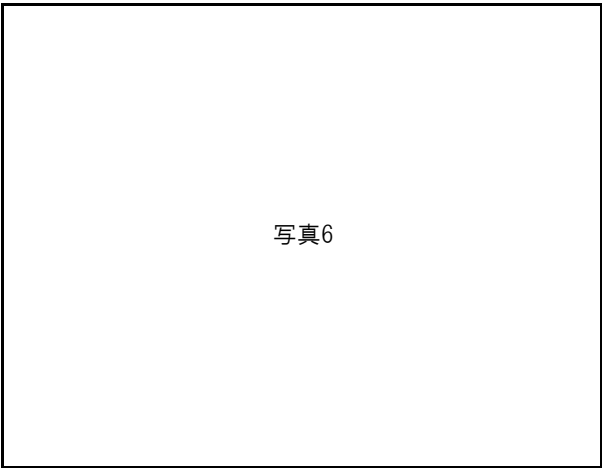


写真6



写真5



写真6

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	------	---------	----

事業名	一般備品整備事業（小学校）
-----	---------------

7 の（2）. その他資料

川島小学校 学校通信 掲載資料（令和 6 年 4 月 10 日付）

としょしつ つくえ いす あたら 図書室の机・椅子が新しくなりました。

ばるやす めいた としよしつ つくえ いす めたら
春休みの間に図書室の机・椅子が新しくなりました。これは、県の「みえ森と緑の県民税」の取り組みによるもので、机 12 脚と椅子 48 脚が新しく図書室に置かれました。

としよしつ はい ざ かお こ
図書室に入ると木のいい香りがしていて、子どもたちが図書室に行くのが楽しくなること間違いなしです。図書室での読書をこれまで以上に楽しんでくれることと思います。



第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
7	一般備品整備事業（中学校）				
事 業 費	8,003,160 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			8,003,160		

1. 事業の目的

市内中学校に、三重県材を用いた図書室の机と椅子を導入することにより、生徒が木にふれあい、森林や木材について学ぶことのできる場を提供する。

本市中学校では、森林と環境保全の関係についての学習や自然教室において里山保全活動や創作活動を実施するなど、森林教育を行っている。実際に三重県材を用いた図書室の机と椅子に触れることや、それらを活用し、調べ学習を行い、学習内容、体験活動等との関係性をより実感させることにより、森林教育としての効果を高める。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市内 2 校の中学校の図書室に三重県材を用いた机及び椅子を導入することにより、学習内容、体験活動との関係性をより実感させることにより、森林教育としての効果を高める。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

四日市市

【実施個所及び箇所数】

中部中学校 羽津中学校 計 2 校

【事業量】

中部中学校 図書室 机 9 台 椅子 40 脚 羽津中学校 図書室 机 12 台 椅子 48 脚
計 机 21 台 椅子 88 脚

3. 有効性【2 つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

三重県材を活用した備品を配置することにより、生徒が森林や木材について学び、ふれあう機会を提供し、森や木への理解を深めることが期待できる。

実際に三重県材を用いた図書室の机と椅子に触れることや、それらを活用し、調べ学習を行い、学習内容、体験活動等との関係性をより実感させることにより、森林教育としての効果を高めることが期待できる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

学校ホームページや学校だより等で紹介することにより、保護者や地域住民等への情報発信を行う。

【新たな対策・視点及び改善点】

三重県材を活用した備品を配置し、実際に触れることや、それらを活用し、調べ学習を行い、学習内容、体験活動等との関係性をより実感させることにより、森林教育としての効果を高めていく。

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
7	一般備品整備事業（中学校）				
事 業 費	8,003,160 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			8,003,160		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	木工製造業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

購入先の決定は、指名競争入札による。

三重県産木材におけるひのき材の備品選定理由について

三重県産木材で、公共施設における机、椅子等の備品に用いられるものとしては、ひのきと杉が代表的なものとなっている。

ひのきと杉の特性を考察した場合、

1. ひのきは、杉と比較して、強度が高く、耐久性に優れている。一方、杉は傷がつきやすく、反りやすく、われやすい面がある。

2. ひのきは木目がきれいであり、色は白か淡いピンクの為、色味を合わせやすい。一方、杉は木目が粗く、色味が白・赤・黒等ばらつきがある。

3. 杉の場合は、傷のつきやすさや色味のばらつき等の欠点をクリアするためには、材料の選木や強度を出すための前処理等、家具の組立前にかかる工程が多いなど、コスト増につながる。

以上のことから、ひのき製品を採用した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	中部中学校全児童数：約290人、羽津中学校全児童数：約500人
期待する波及効果	三重県材を活用した備品を配置することにより、生徒が森林や木材について学び、ふれあう機会を提供し、森や木への理解を深めることが期待できる。

【公的関与の必要性】

公立中学校へ導入のため

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

みえ森と緑の県民税を活用した事業であることを示したプレートを取り付けており、公有財産として適正に管理を行う。

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり		市町名	四日市市		新規・継続の別	継続
------	-------------------	--	-----	------	--	---------	----

番 号	事 業 名				
7	一般備品整備事業（中学校）				
事 業 費	8,003,160 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			8,003,160		

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ロゴマーク掲示(シール・プレート等)	実施前	机、椅子作成時にみえ森と緑の県民税を活用した事業であることを示したプレートを取り付け、生徒の関心を深めるきっかけとする。
HP掲載	実施後	実施後に学校ホームページで紹介する。
学校だより等掲載	実施後	実施後に学校だよりで紹介する。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

生徒からも「木のいい香りがする」「触り心地がいい」「木目や色が明るくきれい」といった感想が聞かれ、木のぬくもりを感じながら落ち着いた雰囲気での読書、学習環境の向上につながっている。

また、生徒だけでなく職員やPTA、地域の方が参加するコミュニティースクール等の会議でも活用され、生徒同様に大変好評である。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市
事業名	一般備品整備事業（中学校）		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
中部中学校	図書机	台	9.00	169,200	1,522,800	県産材使用
	椅子	脚	40.00	42,300	1,692,000	県産材使用
羽津中学校	図書机	台	12.00	169,200	2,030,400	県産材使用
	椅子	脚	48.00	42,300	2,030,400	県産材使用
		小計			7,275,600	
		消費税及び地方税相当額			727,560	10%
		合計			8,003,160	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	------	---------	----

事業名	一般備品整備事業（中学校）
-----	---------------

7の（1）. 写真



写真1

図書室 机、椅子



写真2

図書室 机、椅子



写真3

図書室 机、椅子



写真4

表示プレート



写真5

写真5



写真6

写真6

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	------	---------	----

事業名	一般備品整備事業（中学校）
-----	---------------

7 の（2）. その他資料

中部中学校 ホームページ掲載資料（令和 6 年 3 月 29 日付）

2024/03/29^{NEW} 図書館リニューアル！

| by 中部中学校

修了式の日、実は図書委員と有志の生徒に活躍してもらいました。
 図書館の古い机やいすの運搬作業を手伝ってもらったのです。
 小雨降る中、重い大変な仕事をしてくれてありがとう、皆さん。

そのおかげもあって……。

春休み中に、図書館の机といすが新しくなりました！



ご覧ください、この美しい木目。手触りはとても滑らかです。
 新年度、生徒の皆さんに利用してもらえる日が待ち遠しい……。

三重県で育てられた「ヒノキ」を使った机といすです。
 新しさはもちろんですが、「ヒノキ」の香りや触り心地を楽しんでもらいたいと思います。
 図書館で本を読みながら、森林浴をしてみませんか？



三重県の「みえ森と緑の県民税」を活用して、新しく設置していただきました。
 この税金は「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」のために、県民の皆さんから納めていただいているものです。
 森林や木材について学ぶ場として活用してもらえるように……との願いが込められています。

それを受けて、新年度には森林に関する書籍のコーナーを設ける予定です。
 お楽しみに！

資料 2－2

桑 名 市

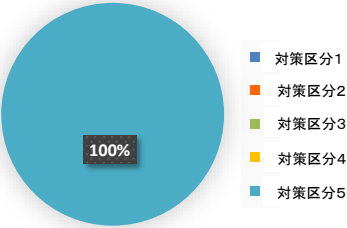
令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報「令和 5 年度版三重県市町要覧」「令和 4 年度版森林・林業統計書」による

市町名	桑名市	三重県
人口（人）	136,322	1,731,863
年少人口割合（％）＊ 1	12.4%	11.6%
森林面積(ha)	2,960.03	372,030.08
民有林面積(ha)＊ 2	2,871.36	348,561.87
森林率(%)	22.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊ 3	9.4	10.6

＊ 1：全人口に占める15歳未満の人の割合
＊ 2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）
＊ 3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 （円）	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分 1	対策区分 2	対策区分 3	対策区分 4	対策区分 5	基金積立
1	5	播磨 2 号緑地里山整備事業	534,000	534,000	0	0	0	0	534,000	0
2	5	多度山ハイキングコース 安全性・快適性向上事業	10,450,000	10,450,000	0	0	0	0	10,450,000	0
計			10,984,000	10,984,000	0	0	0	0	10,984,000	0

3. 令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量 (ha・m)	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	桑名市北部に位置する多度山は、古くから地域住民や観光客が気軽に訪れることができる身近な山として親しまれてきたが、遊歩道や見晴台の整備等が充分に行えていない状況にある。来訪者に森林への関心を持っていただくためにも、県民税の活用による環境整備を推進し、より多度山の魅力を感じていただき、県民全体で森林を支える社会づくりを推進する。 また、前年度に引き続き、播磨 2 号緑地の里山整備も実施し、2 つの事業について、県民税がどの様に県民の暮らしに役立てられているかを広報等によって周知する。
事業実施により期待される効果	事業実施により、地域住民や公園利用者、児童、生徒に森林を身近に感じていただくことで、森林の持つ機能や、森林整備の必要性についての理解を深めてもらう。
情報発信への取組	みえ森と緑の県民税の活用方法について広報誌とホームページにより周知を実施し、「災害に強い森林づくり」や「県民全体で森林を支える社会づくり」については、パネル展示を実施。

第 1 1 号様式（その 1）（参考資料）

令和5年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		（千円）	内、譲与税（千円）
1	⑯ その他（木材・普及啓発関係）	14,522	14,379
2	⑩ 専門員の雇用	912	912
3	⑰ 基金積立（森林整備等）	3,661	3,661
	合計	19,095	18,952

【記載要領】

ア、事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備（財産区有林含む）
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他（森林整備）
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他（人材育成等）
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他（木材・普及啓発関係）
⑰ 基金積立（森林整備等）
⑱ 基金積立（人材育成等）
⑲ 基金積立（木材利用等）
⑳ 基金積立（執行残額等）

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	桑名市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	播磨 2 号緑地里山整備事業				
事 業 費	534,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			534,000	0	0

1. 事業の目的					
里山の整備を行い、緑と身近にふれあう環境をつくり、地域住民の自然学習や、地域活性、健康づくりの場として活用する。					
2. 事業実績概要					
【事業内容】 枯木・危険木の撤去、樹木の間伐、樹木剪定、剪定枝等をチップ化した木チップを利用した散策路の整備、湧水(水路)の整備 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 桑名市 【実施個所及び箇所数】 播磨 2 号緑地 1 か所 【事業量】 里山整備0.04ha・里山簡易整備1.65ha					
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】					
【事業実施により期待される効果】 樹木剪定や水路整備等を行い、地域住民や公園利用者が安全に里山にふれあい身近に感じていただくことで、里山整備の必要性についての理解を深めてもらう。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 年 1 回 3 月頃に、ホタル幼虫の放流会を通じて里山の大切さを周知する。 また、年 1 回ゲンジボタルの飛翔観察会を通じて里山の大切さを周知する。 【新たな対策・視点及び改善点】 県民税利用の周知について、のぼり設置や、イベント実施時の周知等、県民税の活用について広く県民に知ってもらう。					

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり		市町名	桑名市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	播磨 2 号緑地里山整備事業				
事 業 費	534,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			534,000	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	活動団体	補助事業ではない		地元ボランティア団体「ホテルとなかまの会」へ委託

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

事業実施前から、地元ボランティア団体が一定の管理を行っているため、地域性、効率性を鑑みて当該団体へ委託した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	利用者(年間約5千人)
期待する波及効果	事業を通じて緑地利用者が森林について考え、行動することで他の森林・緑地での環境保全等の行動につなげていただく。

【公的関与の必要性】

地元ボランティア団体が緑地の整備をおこなっているものの、無償であり、団体独自の活動のみでは限界があるため公的支援が必要でな状況である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

実施後も引き続き市が所有し、地元団体が整備をしていく。これまで目的外使用の申請実績は無く、規制する予定はない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	播磨 2 号緑地の建屋前にのぼりを設置。
標識・標柱等設置	実施中	播磨 2 号緑地の建屋、ゲート前に県民税を活用した事業である旨を掲載。
その他	実施中	イベント実施中に司会から県民税を活用した取組であることを参加者に周知。
広報誌掲載	実施後	広報誌にて県民税の使い道についての記事を掲載。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	桑名市
------	--------------------	-----	-----

事業名	播磨 2 号緑地里山整備事業
-----	----------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
人件費		時間	450.00	902	405,900	延べ180人×2.5時間
諸雑費		式	1.00	128,100	128,100	燃料代、消耗品
		合計			534,000	

第11号様式(その2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	桑名市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	播磨2号緑地里山整備事業
-----	--------------

7の(1). 写真



写真1

水路整備（伐木・除草実施前）



写真2

水路整備（伐木・除草実施後）

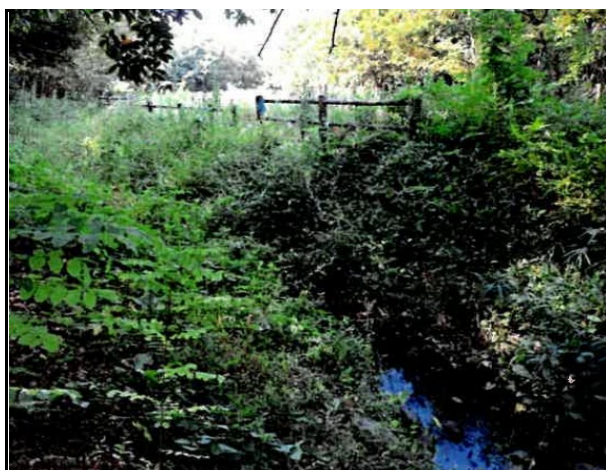


写真3

水路整備（伐木・除草実施前）

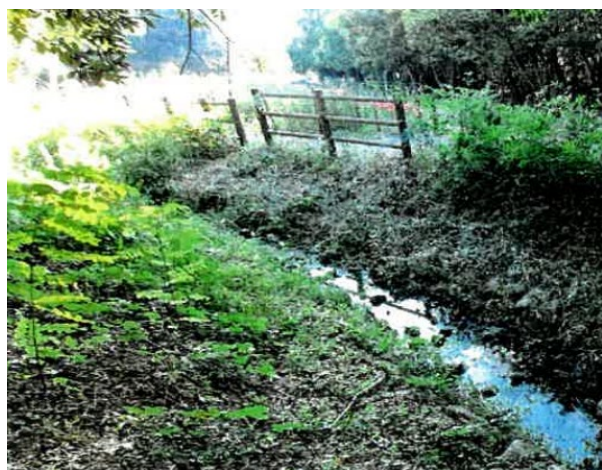


写真4

水路整備（伐木・除草実施後）

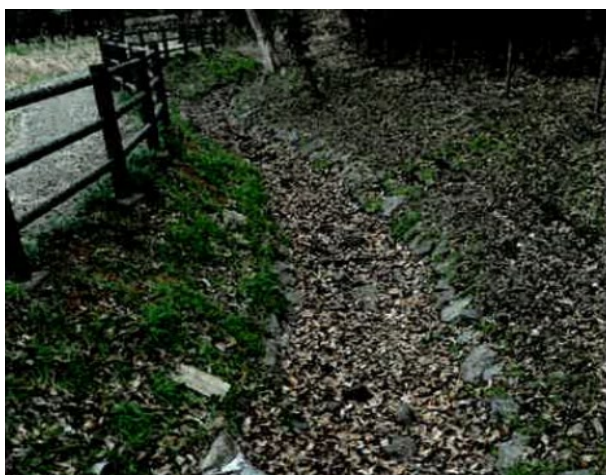


写真5

水路整備（枯葉清掃実施前）



写真6

水路整備（枯葉清掃実施後）

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	桑名市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
2	多度山ハイキングコース安全性・快適性向上事業				
事 業 費	10,450,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			9,128,000	1,322,000	

1. 事業の目的

多度山については気軽に登ることができる山として、従来から児童、生徒の森林教育の場として活用されているが、多度山の持つポテンシャルをより活かすことで、森林教育の場としての機能向上が可能であると考え、木質化等のより森林教育を意識したリニューアルを実施し、森林教育の場としてのさらなる活用を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

多度山は従来から児童、生徒の森林教育の場として活用されており、ハイキングコース中の多度山上公園までの利用が主となっているため、山上公園までの 5 箇所の見晴台について、東屋の木質化等によるリニューアルを実施することや、ハイキングコース入口付近に、森林の働きや、多度山の植物について紹介する森林教育に関する看板を設置することで、森林教育の場としての機能向上を図る。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

桑名市

【実施箇所及び箇所数】

多度山見晴台 5 箇所

【事業量】

森林教育看板 1 基・見晴台リニューアル 5 箇所

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

事業実施により、森林教育の場として機能をさらに向上させることで、より多くの児童、生徒に活用してもらい、森林の持つ機能や、森林整備の重要性についてのより理解を深めていただく。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

児童、生徒に対し、県民税で整備したハイキングコースを実際に登ってもらいながら、講師から森林環境保全の重要性などについての講義を実施する。県民税整備設備の活用については、ハイキングコース入口の森林教育看板で森林が持つ多面的な機能についての説明を行い、リニューアルした東屋で県産材備品に触れながら木材利用の現況について説明を行い、適切な森林整備の重要性の説明を行う予定である。

【新たな対策・視点及び改善点】

東屋等の木質化で多度山の持つ森林教育の場としての機能をさらに向上させることにより、森林教育を通じて、県民全体で森林を支える社会づくりを推進する。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり		市町名	桑名市	新規・継続の別	新規
------	--------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
2	多度山ハイキングコース安全性・快適性向上事業				
事 業 費	10,450,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			9,128,000	1,322,000	

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
工事請負	建設業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

プロポーザル方式による最適業者への随意契約

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	森林教対象者約2,400人（市内小学校高学年1学年約1,150人 +中学校1学年約1,200人+一般公募約50人）
期待する波及効果	受益者の中心を小中学生と想定しているため、保護者を含め、周りを巻き込みながら、将来の森林環境保全等の行動につなげてもらう。

【公的関与の必要性】

市が管理するハイキングコースの整備であり、利用者に与える影響を鑑みても、公的支援が必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

実施後も引き続き市が管理を行う。これまで目的外使用の申請実績は無く、規制する予定はない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	工事実施中に現場にのぼりを設置
ロゴマーク掲示(シール・プレート等)	実施後	設置する森林教育看板に県民税のロゴマークを記載。
HP掲載	実施後	HPにて本事業についての記事を掲載。
広報誌掲載	実施後	広報誌にて県民税の使い道についての記事を掲載。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	桑名市
事業名	多度山ハイキングコース安全性・快適性向上事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
工事請負費	設計業務費	式	1.00	110,000	110,000	
工事請負費	工事管理業務費	式	1.00	252,000	252,000	
工事請負費	土木工事費	式	1.00	7,113,000	7,113,000	
土木工事費内訳	コンパクトパーゴラ	基	1.00	1,246,000	1,246,000	県産材使用 W=3800mm D=2000mm H=2428mm
土木工事費内訳	ベンチ	基	5.00	284,000	1,420,000	県産材使用 W=1200mm D=960mm H=800mm
土木工事費内訳	木製遊具	基	1.00	246,000	246,000	県産材使用 W=800mm D=404mm H=2200mm
土木工事費内訳	テーブルベンチ	基	2.00	320,000	640,000	県産材使用 W=1800mm D=1370mm H=700mm
土木工事費内訳	案内看板	基	5.00	65,000	325,000	アルミ製 表示面W=450mm H=450mm
土木工事費内訳	その他付帯工事	式	1.00	3,236,000	3,236,000	
工事請負費	諸経費	式	1.00	2,025,000	2,025,000	
		小計			9,500,000	
		消費税及び地方税相当額			950,000	10%
		合計			10,450,000	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	桑名市	新規・継続の別	新規
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	多度山ハイキングコース安全性・快適性向上事業
-----	------------------------

7の（1）. 写真



写真1

森林教育看板



写真2

第3見晴台

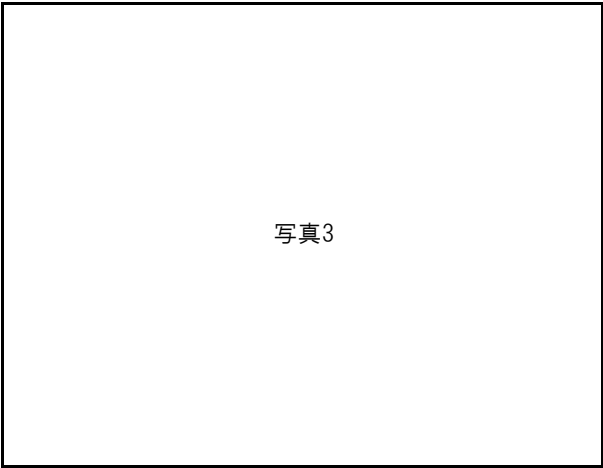


写真3

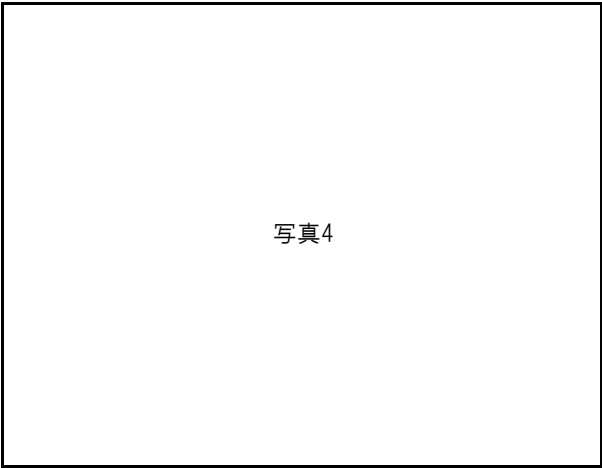


写真4



写真3



写真4

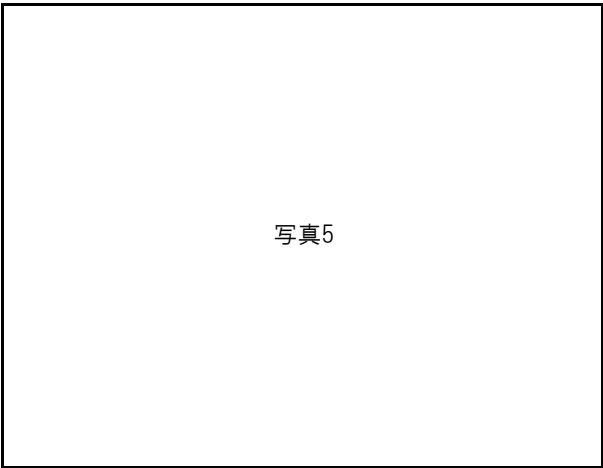


写真5

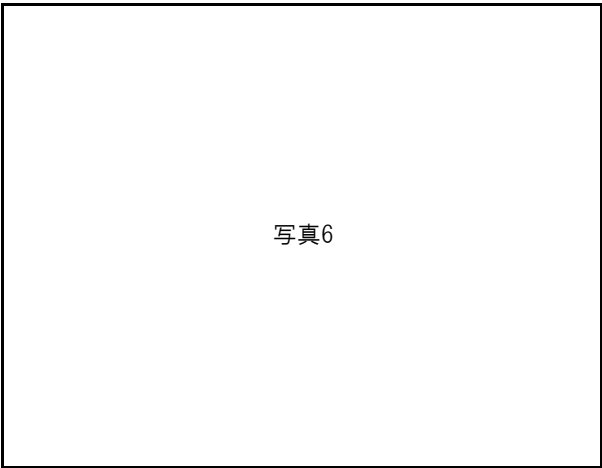


写真6



写真5



写真6

資料 2－2

鈴 鹿 市

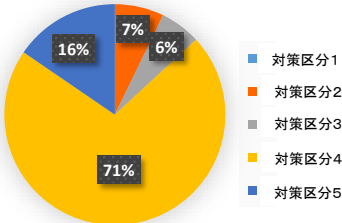
令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報「令和 5 年度版三重県市町要覧」「令和 4 年度版森林・林業統計書」による

市町名	鈴鹿市	三重県
人口（人）	192,354	1,731,863
年少人口割合（％）＊ 1	11.4%	11.6%
森林面積(ha)	3,596.55	372,030.08
民有林面積(ha)＊ 2	3,420.75	348,561.87
森林率(%)	18.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊ 3	10.6	10.6

＊ 1：全人口に占める15歳未満の人の割合
＊ 2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）
＊ 3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						基金積立
				小計	対策区分 1	対策区分 2	対策区分 3	対策区分 4	対策区分 5	
1	2	暮らしを守る森林保全事業	965,034	965,034		965,034				
2	2	災害からライフラインを守る事前伐採事業	3,589,300	897,325		897,325				
3	3	緑に親しむ記念樹配布事業	514,250	440,000			440,000			
4	3	森と緑の生涯学習講座	725,592	725,592			725,592			
5	3	里山保全ボランティア育成事業	369,845	369,845			369,845			
6	4	公立保育所及び公立幼稚園等設置及び木育推進事業	9,185,000	9,185,000				9,185,000		
7	4	子育て支援センター（りんりん）木製玩具及び木製備品設置事業	6,284,040	6,284,040				6,284,040		
8	4	児童センター等木製品設置及び森林環境教育推進事業	3,008,325	3,008,325				3,008,325		
9	5	ふるさとの木（名木古木）保存活用事業補助事業	2,680,000	2,680,000					2,680,000	
10	5	緑と人を育む長太の大楠再生プロジェクト	1,320,000	1,320,000					1,320,000	
計			28,641,386	25,875,161	0	1,862,359	1,535,437	18,477,365	4,000,000	0

3. 令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量 (ha・m)	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業	43本	3,589,300	897,325	台風などの倒木被害により、ライフラインを寸断する恐れのある樹木を事前に伐採

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	本市は、東に伊勢湾、西に鈴鹿山脈があり、市の中央には鈴鹿川が流れる、豊かな自然環境の下で発展してきた都市です。この恵まれた自然環境は、市民生活や経済活動に多大な恩恵をもたらしており、美しい風景や豊かな生態系は、本市にとって貴重な財産であるといえます。 このことを踏まえ、みえ森と緑の県民税市町交付金を活用し、市民に親しまれている海岸林の保全や、利用頻度の高い公共施設等への県産材利用を通じ、多くの市民が森林の恩恵を享受することができ、森や緑の大切さを学ぶ機会を設け、県民全体で森林を支える社会づくりを推進する事業を進めています。
事業実施により期待される効果	子どもを中心とした市民を対象に、森林について学ぶ場や緑や木にふれあう機会を提供することにより、森や緑の大切さや森林環境への理解を深めることができ、森林づくりに積極的に関わる人材の増加が期待できる。地域にある身近な緑や里山を大切にすることは、自然環境とふれあう場の確保に繋がり、自然と共生する意識がうまれる。 また、人家周辺の森林や樹木を適切に管理することで、市民の暮らしの安心・安全を確保することができる。
情報発信への取組	市広報にて本市におけるみえ森と緑の県民税の活用状況について周知を図った。 また、事業実施の際は、県民税のぼりやロゴマークを掲出するなどして、みえ森と緑の県民税活用事業であることの周知に努め、啓発物品を配布することでみえ森と緑の県民税制度の理解を深めてもらえるよう取り組んだ。 県民税の県内での活用事例紹介や森林のもつ多様性についての展示を市民ギャラリーにて実施し、来庁者への情報発信を行った。

第 11 号様式（その 1）（参考資料）

令和 5 年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	⑫ その他（人材育成等）	174	174
2	③ 私有林整備	1,309	1,309
3	③ 私有林整備	66	66
4	③ 私有林整備	5,940	5,940
5	② 意向調査	1,160	1,160
6	③ 私有林整備	4,070	4,070
7	⑦ その他（森林整備）	693	693
8	⑥ 林道・林専道の整備等	5,547	5,547
9	⑮ 森林・林業・木材普及活動等	0	0
10	⑮ 森林・林業・木材普及活動等	6,354	6,354
	合計	25,313	25,313

【記載要領】

ア、事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備(財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他(森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他(人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他(木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立(森林整備等)
⑱ 基金積立(人材育成等)
⑲ 基金積立(木材利用等)
⑳ 基金積立(執行残額等)

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	暮らしを守る森林保全事業				
事 業 費	965,034 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			183,469	781,565	

1. 事業の目的

本市東部には伊勢湾に面する長い海岸があり、そこに植生する松林が防潮・防風・飛砂防止・津波軽減などの働きにより周辺住民の暮らしを守っている。しかし、病虫害被害で枯松化が拡大し、台風時の倒木や枝の飛散等、住居や人身への被害が懸念されている。このような状況を改善するため、人家周辺における病虫害被害木を積極的に伐採・除去することで海岸林の維持保全を行い、通行の安全や住民の暮らしの安全を確保する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

過去にみえ森と緑の県民税を活用して植樹した松が過密状態にあり、優勢木の成長を妨げていることから、海岸松林の健全な育成のために、本数調整を実施する。また、松くい虫の被害を受けている松については、早急に伐採・除去を行い、被害拡大防止のために樹幹注入及び薬剤散布による防除を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

鈴鹿市

【実施個所及び箇所数】

鼓ヶ浦海岸内の市管理地

【事業量】

海岸松間伐（122本）及び病虫害防除（土壌灌注、148本）、伐採：約1本

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

病虫害被害木の伐倒・駆除及び被害防止のための樹幹注入・薬剤散布を実施することで、台風等による倒木被害の防止につながり、健全な松林を整備することは防潮・防風・飛砂防止など周辺住民の暮らしの安全を守ることにつながる。また、景観を維持することで訪れる県内外の人々に海岸林の保全に対する理解が広がる波及効果も期待される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

定期的に被害状況を確認し、必要に応じて特別伐倒駆除を行った。また、効果的に病虫害による被害を軽減するため、計画的に薬剤による土壌灌注を行った。

【新たな対策・視点及び改善点】

樹木医に定期的に助言いただき、樹幹注入の必要な松の検討、松枯れの原因の究明等を行い、効果的に海岸林の維持保全を行っていく。

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	暮らしを守る森林保全事業				
事 業 費	965,034 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			183,469	781,565	

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	造園業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

病虫害被害木の伐採、薬剤による土壌灌注には専門的な知識・技術が必要なことから、造園業者を選定。指定競争入札

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	鼓ヶ浦海岸付近在住の市民（約2,000世帯4,700人）
期待する波及効果	広報やHP、事業看板等により本事業を知った住民に県民税の理解が深まる

【公的関与の必要性】

事業地は市有地であることから、公的関与が必須である。また、事業地周辺は、松くい虫による病虫害被害により、台風時に倒木や枝の飛散等での住居や人身への被害が懸念され、本事業によって周辺住民に対し安心・安全な住環境を寄与できることから、公的関与が必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

市有地のため、転用等が想定されず、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
施工看板に掲示	実施中・後	伐倒及び樹幹注入実施箇所・周辺住民・県民税の活用について
のぼり設置	実施中	伐倒及び樹幹注入実施箇所・周辺住民・県民税の活用について
広報誌掲載	実施後	広報すずか（ミニ特集）・市民・県民税の活用について
その他	今後	記者発表：市政記者クラブ・マスメディア・植樹活動や県民税の活用について

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

周辺住民から感謝されるとともに、今後も継続して適正な維持管理をしていくよう依頼を受けた。

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鈴鹿市
事業名	暮らしを守る森林保全事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
枯れ松伐倒	伐倒、搬出、運搬含む	式	1.00	299,200.00	299,200	
植樹松の間伐	伐採、搬出、運搬、処分費含む	式	1.00	218,000.00	218,000	間伐（122本）
植樹松の病害虫防除	土壌灌注手間	式	148.00	150.00	22,200	病害虫防除（土壌灌注、148本）
植樹松の病害虫防除	ネマバスター薬剤	L	18.00	14,800.00	266,400	病害虫防除（土壌灌注、148本）
諸経費		式	1.00	153,400.00	153,400	
消耗品費	ビス	袋	1.00	398.00	398	危険木注意喚起用
消耗品費	丸カン	個	8.00	88.00	704	危険木注意喚起用
消耗品費	角杭	個	8.00	248.00	1,984	危険木注意喚起用
消耗品費	標識ロープ	個	2.00	1,280.00	2,560	危険木注意喚起用
消耗品費	ロックタイ	袋	1.00	188.00	188	危険木注意喚起用
		合計			965,034	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	暮らしを守る森林保全事業
-----	--------------

7の(1).写真



写真1

枯れ松伐倒前



写真2

枯れ松伐倒作業状況

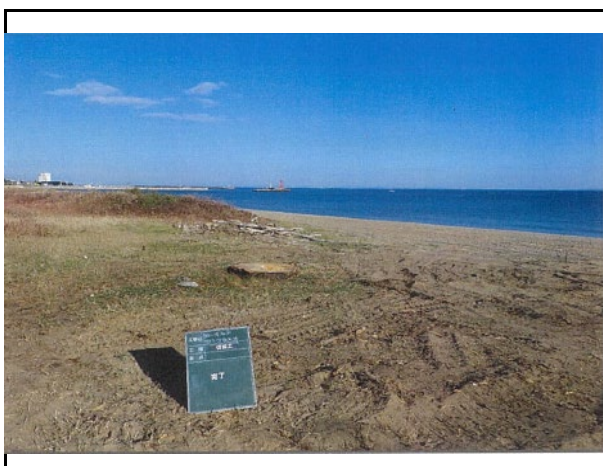


写真3

枯れ松伐採後



写真4

土壌灌注作業状況



写真5

間伐前



写真6

間伐後

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	暮らしを守る森林保全事業
-----	--------------

7の(2). その他資料

●市広報 3/5号 情報館掲載



情報館 ⑤ みえ森と緑の県民税事業
 農林水産課 ☎382-9017 ☎382-7610
 ✉norin@city.suzuka.lg.jp



令和5年度みえ森と緑の県民税を活用した事業についてお知らせします

本市では、平成26年4月から導入された「みえ森と緑の県民税」を活用し、「災害に強い森林づくり」と「県民全員で森林を支える社会づくり」に取り組んでいます。

市内で実施した事業を紹介します

令和5年度は、「みえ森と緑の県民税」を活用し、市内で10事業を実施しました。

●里山保全ボランティア育成事業
 人材育成のため、「里山保全基礎講座」を開講しました。また、多くの方が里山保全に興味を持ち、活動に参加してもらうために「里山保全体験」を実施し、市民参加を促しました。



●森と緑の生涯学習講座
 市内の公民館で、小学生を中心とした子どもと保護者を対象に、間伐材を利用した木工工作、フィールドワーク、木のおもちゃに触れるなどの森林環境学習を行いました。



●ふるさとの木(名木古木)保存活用事業補助事業
 ふるさとの木(市内の天然記念物や地域緑化のシンボルとなっている樹木・樹木群)の所有者などに対して、樹木診断や樹木治療などを実施するための経費を補助しました。



●子育て支援センターりんりん木製玩具および木製備品設置事業
 三重県産木材を使用した玩具、椅子、ベビーベッド、テーブル、くつ箱などを施設内に設置し、木育の場として整備して「みえ森林教育ステーション」として認定されました。



●公立保育所および公立幼稚園等設置および木育推進事業
 三重県産木材を使用した棚や下駄箱などを保育所と幼稚園へ設置し、木育の場として整備しました。



●緑と人を育む長太の大楠再生プロジェクト
 長太の大楠の樹勢回復を目的として、樹木治療や土壌改良などを行いました。



●児童センター等木製品設置および森林環境教育推進事業
 児童センターおよび男女共同参画センターの「こどもの部屋」に三重県産木材を使用した玩具・遊具・棚などを設置し、木育・森林環境教育を推進する場を整備しました。



●緑に親しむ記念樹配布事業
 新築や新入学などの節目を迎えた市民に対して、本市で生産された植木を記念樹として配布しました。



●暮らしを守る森林保全事業
 海岸の松林で、枯木の伐倒駆除および過去に植樹した松の間伐並びに病害虫防除を行いました。



●災害からライフラインを守る事前伐採事業
 台風などが原因の倒木により、過去に停電被害があった箇所について、倒木するとライフラインを寸断する可能性がある樹木を事前に伐採しました。



令和6年度も、引き続き「みえ森と緑の県民税」を活用し、地域の実情に応じて創意工夫した森林づくりや県と連携した災害に強い森林づくりなどの施策を実施していきます。なお、国から譲与される「森林部施業料」とは、用途をすみ分けた上で双方を有効に活用しています。

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	災害からライフラインを守る事前伐採事業				
事 業 費	3,589,300 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			897,325		2,691,975

1. 事業の目的					
台風などの倒木被害により、電気などのライフラインが寸断される恐れのある樹木を事前に伐採することでライフラインを保全する。					
2. 事業実績概要					
【事業内容】 過去に台風等が原因の倒木により停電被害があった箇所にある危険木について、地権者の了解の下、事前に伐採し、倒木による停電被害を予防する。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 鈴鹿市、三重県、ライフライン事業者（中部電力パワーグリッド株式会社） 【実施箇所及び箇所数】 3 か所（下大久保町、国府町、三宅町） 【事業量】 危険木43本の伐採					
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】					
【事業実施により期待される効果】 台風等による倒木により停電を起こす可能性がある危険木を事前に伐採することにより、停電被害を未然に防ぐことができる。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 市・県・ライフライン事業者の三者で、相互の連携による事業の円滑な実施を目的とした協定を締結し、この協定に基づき、三者が構成員となった協議会を設置し、市が作成する事業計画についての協議や他事業との調整等を行い、事業を進める。 【新たな対策・視点及び改善点】 工事施工中に県民税を活用した事業である旨を記した工事看板を設置し、また、周辺住民に対して回覧板を回覧し、県民税を活用した事業であることを周知するとともに、森林の適正管理等についての意識熟成を図る。					

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	災害からライフラインを守る事前伐採事業				
事 業 費	3,589,300 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			897,325		2,691,975

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	その他	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

ライフライン沿いの伐採作業であり、伐採に高度な技術が必要かつ実施箇所に精通している必要があることから、鈴鹿市に入札参加資格登録している土木一式の届出がある近隣業者を選定。

指名競争入札により選定。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	①国府町：国府地区浄化センター、社会福祉法人伊勢亀鈴会八野生活介護センターなど計474戸②三宅町：JR踏切7か所 など計916戸③下大久保町：鈴鹿市水道局榑一宮配水池、鈴鹿市立鈴西小学校、社会福祉法人鈴鹿福祉会鈴鹿グリーンホームなど計417戸
期待する波及効果	広報やHP等を見た市民が本事業の内容を知ること、県民税の理解を深める。

【公的関与の必要性】

台風等の影響により電線等のライフラインを寸断する恐れのある樹木を事前に伐採する事業は、非常に公益性が高く、公的関与が妥当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
回覧板・掲示板	実施前	施工箇所の周辺住民に対して、工事に関するお知らせを回覧する際に、みえ森と緑の県民税を活用した事業であることを告知した。
広報誌掲載	実施後	みえ森と緑の県民税を活用した事業について、広報すずか（ミニ特集）に掲載し、本市における活用状況を市民に周知した。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

周辺住民からは、「この地域の住民がよく利用する道でもあり、通学路にもなっている道だったので、背の高い危険木が無くなって、安心した。全国的にも台風や集中豪雨による災害が近年頻発しているので、この地域に限らず、今後も継続的に事業を実施してほしい。」との意見がありました。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鈴鹿市
事業名	災害からライフラインを守る事前伐採事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
直接工事費	伐採・運搬	本	15.0	9,595	143,925	幹周30cm以上60cm未満
		本	5.0	21,210	106,050	幹周60cm以上90cm未満
		本	5.0	37,900	189,500	幹周90cm以上120cm未満
		本	3.0	56,860	170,580	幹周120cm以上150cm未満
		本	1.0	79,140	79,140	幹周150cm以上180cm未満
	交通誘導警備員	人	3.0	16,800	50,400	A
		人	7.0	13,900	97,300	B
	処分	kg	12310.0	15	184,650	
共通仮設費		式	1.0	112,000	112,000	
現場管理費		式	1.0	459,000	459,000	
一般管理費等		式	1.0	355,455	355,455	
		小計			1,948,000	工事価格
		消費税及び地方税相当額			194,800	10%
		合計			2,142,800	設計金額（予定価格）
		契約金額			1,895,300	落札率 約88.44%

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鈴鹿市
事業名	災害からライフラインを守る事前伐採事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
直接工事費	伐採・運搬	本	0.0	9,595	0	幹周30cm以上60cm未満
		本	2.0	21,210	42,420	幹周60cm以上90cm未満
		本	5.0	37,900	189,500	幹周90cm以上120cm未満
		本	3.0	56,860	170,580	幹周120cm以上150cm未満
		本	4.0	79,140	316,560	幹周150cm以上180cm未満
	交通誘導警備員	人	0.0	16,800	0	A
		人	13.0	13,900	180,700	B
	処分	kg	10125.0	15	151,875	
共通仮設費		式	1.0	120,000	120,000	
現場管理費		式	1.0	492,000	492,000	
一般管理費等		式	1.0	381,365	381,365	
		小計			2,045,000	工事価格
		消費税及び地方税相当額			204,500	10%
		合計			2,249,500	設計金額（予定価格）
		契約金額			1,694,000	落札率 約75.30%

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	災害からライフラインを守る事前伐採事業
-----	---------------------

7の(1). 写真



対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	災害からライフラインを守る事前伐採事業
-----	---------------------

7 の（2）. その他資料

●周辺地域への回覧用紙

回覧

関係者各位

令和5年8月5日

災害からライフラインを守る事前伐採事業のお知らせ

平素より、本市の公共事業につきまして格別の御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。
下大久保町において、災害からライフラインを守る事前伐採事業を実施することになりました。
つきましては、下記のとおり樹木の伐採を進めさせていただきます。
大変御迷惑をおかけしますが、御理解と御協力のほど宜しくお願いします。

※この事業は、「みえ森と緑の県民税」を利用して、実施しています。

配

事業概要

「災害に強い森林づくり」をより一層強化するという「みえ森と緑の県民税」の趣旨に則り、台風等の倒木被害により、電気などのライフラインが寸断される恐れのある樹木を事前に伐採する取組をライフライン事業者（中部電力パワーグリッド株式会社）及び三重県と連携して実施しています。

工事期間

令和5年8月21日 から 令和5年8月25日まで の5日間
※ 悪天候の場合は工事期間を延長する可能性があります。
※ 作業実施日の作業時間内は、原則車両・歩行者とも通行止めになります。
交通誘導員を配置しますので、誘導員の指示に従ってください。

作業時間

午前 8時30分 から 午後 5時00分 まで
※ 工事内容により作業時間を延長する場合があります。

工事箇所

裏面位置図参照

工事担当

産業振興部 耕地課 土地改良グループ 黒田 学司
連絡先 059-382-7653

施工業者

コサカグリーン株式会社 小坂 佳孝
連絡先 059-378-3566

●市広報 3/5号 情報館掲載

情報館

みえ森と緑の県民税事業

農林水産課 ☎382-9017 📠382-7610
✉norin@city.suzuka.lg.jp

令和5年度みえ森と緑の県民税を活用した事業についてお知らせします

本市では、平成26年4月から導入された「みえ森と緑の県民税」を活用し、「災害に強い森林づくり」と「県民全員で森林を支える社会づくり」に取り組んでいます。

市内で実施した事業を紹介します

令和5年度は、「みえ森と緑の県民税」を活用し、市内で10事業を実施しました。

●里山保全ボランティア育成事業

人材育成のため、「里山保全基礎講座」を開設しました。また、多くの方が里山保全に興味を持ち、活動に参加してもらうために「里山保全体験」を実施し、市民参加を促しました。

●森と緑の生涯学習講座

市内の公民館で、小学生を中心とした子どもと保護者を対象に、間伐材を利用した木工工作、フィールドワーク、木のおもちゃに触れるなどの森林環境学習を行いました。

●ふるさとの木（名木古木）保存活用事業補助事業

ふるさとの木（市内の天然記念物や地域緑化のシンボルとなっている樹木・樹木群）の所有者などに対して、樹木診断や樹木治療などを実施するための経費を補助しました。

●公立保育所および公立幼稚園等設置および木育推進事業

三重県産木材を使用した棚や下駄箱などを保育所と幼稚園へ設置し、木育の場として整備しました。

●児童センター等木製品設置および森林環境教育推進事業

児童センターおよび男女共同参画センターの「こどもの部屋」に三重県産木材を使用した玩具・遊具・棚などを設置し、木育・森林環境教育を推進する場を整備しました。

●暮らしを守る森林保全事業

海岸の松林で、枯木の伐倒駆除および過去に倒壊した松の間伐並びに病害虫防除を行いました。

●緑と人を育む長太の大樹再生プロジェクト

長太の大樹の樹勢回復を目的として、樹木治療や土壌改良などを行いました。

●緑に親しむ記念樹配布事業

新築や新入学などの節目を迎えた市民に対して、本市で生産された苗木を記念樹として配布しました。

●災害からライフラインを守る事前伐採事業

台風などが原因の倒木により、過去に停電被害があった箇所について、倒木するとライフラインを寸断する可能性がある樹木を事前に伐採しました。

令和5年度も、引き続き「みえ森と緑の県民税」を活用し、地域の発展に貢献した森林づくりや県と連携した災害に強い森林づくりなどの施策を実施していきます。なお、国から提供される「森林取組補助金」とは、使途をすみ分けした上で双方を有効に活用しています。

10 2024-3-5

- 220 -

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名						
3	緑に親しむ記念樹配布事業						
事 業 費	514,250 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他		
			440,000		74,250		

1. 事業の目的

市内の市街地に居住する若年層の市民にとって、森林との関わりは年々希薄になってきており、森林の有する公益的機能やその享受についても把握していないことが懸念される。「県民全体で森林を支える社会づくり」のためにも、その第 1 歩として身近にある緑や木を大切に思う意識付けをする必要がある。

そこで、1 番身近にある緑として自宅に植える記念樹を配布することで、緑や木に対する愛着心が醸成され、森林と人々の暮らしの繋がりについても興味関心を持ってもらい、積極的に森林づくりに関わる人材の増加を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

生産者と消費者の交流を通じて、人と緑のふれあいを高めることを目的として開催されている「鈴鹿市植木まつり」の会場において、新築や新入学等の記念を迎えた市民に対し、全国有数の植木産地である鈴鹿市で生産された植木を記念樹として配布し、併せて県産材で作製した県民税ロゴ入り記念プレートを配布する。

また、記念樹の配布列の横に「森のはたらきパネル」を展示し、森林が有する公益的機能及び木材利用による緑の循環についての啓発を行い、加えて、受付時に森林との関わりについてのアンケート調査を実施することで、森林環境についての理解を深める機会を提供した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

鈴鹿市

【実施個所及び箇所数】

1か所（鈴鹿フラワーパーク）

【事業量】

記念樹：200本、木製記念プレート200枚

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

人生の節目を記念して自らの手で植樹することで、緑や木を大切に思う気持ちが育まれ、庭木として植えることにより、植樹者本人だけでなく家族全体の緑化意識の向上が期待できる。

また、記念樹の配布列の横に「森のはたらきパネル」を設置することにより、森林が有する公益的機能及び木材利用による緑の循環など森林づくりへの関心を深めることが期待できる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

配布樹種には、より愛着心が湧くように、地元鈴鹿市で生産された植木を選定した。

また、県民税ロゴ入り記念プレート（吊下げ用）を配布することで、記念樹の手入れをする度に、県民税制度のことなど植樹した経緯がリマインドできるように工夫した。

【新たな対策・視点及び改善点】

配布列の横に「森のはたらきパネル」を設置し、配布前の待ち時間や配布終了後にも、森林が有する公益的機能及び木材利用による緑の循環など、森林に関する理解を深めてもらえるよう取り組んだ。

また、配布の際に実施していた森林に関するアンケートについても、森林づくりのために自分にもできることがあるということを分かってもらえるような内容に修正した。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
3	緑に親しむ記念樹配布事業				
事 業 費	514,250 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			440,000		74,250

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
直営		補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

該当なし

【主な経費内訳】

別紙のとおり

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	新生・新築など人生の節目を迎えた市民200人及びその家族（計800人想定）
期待する波及効果	1万5千人以上が集まる大きなイベントで事業実施することで、「森のはたらしパネル」設置による効果は直接の受益者数以上に及ぶ。 また、記念樹が受益者の家庭に存在し続けることで、本事業の効果は家族や友人などに継続的に波及されることが期待できる。

【公的関与の必要性】

森林との関わりが希薄な若年層に対し、森林環境に関する理解を深めるきっかけを作るには、行政の積極的な関与が必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

該当なし

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	配布場所にはみえ森と緑の県民税ののぼりを設置することで、みえ森と緑の県民税を活用した事業であることをPRした。
アンケート実施	実施中	受付時には森林に関するアンケートを実施し、森林づくりのために何ができるかなど森林に対する意識の醸成に取り組んだ。併せて、みえ森と緑の県民税のロゴマークを配置し、県民税についての質問も加え、県民税事業であることを強調した。

資料 2-2

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名					
3	緑に親しむ記念樹配布事業					
事 業 費	514,250 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			440,000		74,250	
啓発物品配布	実施中	みえ森と緑の県民税の啓発物品を併せて配布することで、みえ森と緑の県民税を活用した事業であることをPRするとともに、森林づくりの重要性について啓発を実施した。				
ロゴマーク掲示 (シール・プレート等)	実施中・後	県民税ロゴ入り記念プレート（吊下げ用）を配布することで、記念樹の手入れをする度に、県民税制度のことなど植樹した経緯がリマインドできるように工夫した。				
広報誌掲載	実施後	みえ森と緑の県民税を活用した事業について、広報すずか（ミニ特集）に掲載し、本市における活用状況を市民に周知した。				
7. 写真及びその他資料						
別紙のとおり						
8. その他特記事項（受益者の反応等）						
「いただいた記念樹のおかげで、日々の生活において緑を身近に感じることができており、子どもが豊かな心を育む一助となればと思っています。（生誕記念）」						
「この記念樹をもらうまでみえ森と緑の県民税を知らなかった。みんなで森林を大切にしていけないといけない。（新築）」						

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
事業名	緑に親しむ記念樹配布事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
苗木代	三色ツツジ	本	50.00	2,000	100,000	鈴鹿市産
	オリーブ	本	50.00	2,000	100,000	鈴鹿市産
	プリペット	本	50.00	2,000	100,000	鈴鹿市産
	ニューサイラン	本	50.00	2,000	100,000	鈴鹿市産
プレート代	木製記念プレート	枚	150.00	450	67,500	三重県産材
		小計			467,500	
		消費税及び地方消費税相当額			46,750	10%
		合計			514,250	

第11号様式(その2) (評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
事業名	緑に親しむ記念樹配布事業				
7の(1). 写真					
					
写真1 配布の様子		写真2 森のはたらきパネルを見てお勉強			
					
写真3 森のはたらきパネルを見て親子でお勉強①		写真4 森のはたらきパネルを見て親子でお勉強②			
					
写真5 みえ森と緑の県民税の啓発物品を併せて配布		写真6 県民税ロゴ入り記念プレート（吊下げ用）を配布			
					
写真7 追跡調査		写真8			

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	緑に親しむ記念樹配布事業
-----	--------------

7 の（2）. その他資料

●実施したアンケート用紙



ハローツリー（記念樹）配布事業は、「みえ森と緑の島民税」を活用して実施しています。

「みえ森と緑の島民税」は、「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるために、平成 26 年 4 月から三重県が導入した税金です。

記念樹の植樹をきっかけに、緑や木を大切に思う気持ちを醸成し、森林と人々の暮らしとのつながりについて関心を持ち、積極的に森林づくりに関わる人材の増加を目的としています。

☆以下のアンケートの記入にご協力をお願いいたします。（該当する項目に✓をしてください。）

- あなたは「みえ森と緑の島民税」を知っていますか。
☐ 知っている ☐ 名前は知っているが内容は分からない ☐ 今回初めて知った
- あなたは森林についてどのように感じていますか。
☐ 森林は大切だから積極的に関わりたい ☐ 森林は大切だから機会があれば関わりたい
☐ 森林は大切だけどあまり関わろうとは思わない ☐ 森林が大切だとは思わない
- 現在のあなたと森林の関わりを教えてください。
☐ 地域の植樹活動や里山整備などに参加している ☐ 休日に森林や山とふれあう機会がある
☐ 森林に直接関わることはないが木造や木製品に興味がある ☐ 森林と関わることはない
- 「県民全体で森林を支える社会づくり」のためにあなたができることは何ですか。（複数選択可）
☐ 木製品などを積極的に活用する ☐ 植樹活動や里山保全活動に参加する
☐ 身近にある緑や木を大切に使う ☐ 市や県が実施する森林教育に参加する
☐ 緑や森林の大切さを後世に伝える
- 今回の記念樹配布をきっかけとして、あなたの森林に対する意識に変化はありますか。
☐ 森林づくりに積極的に関わりたい ☐ 森林を支えるために自分にできることを探したい
☐ 森林と人々の暮らしが密接に関わっていることを理解した ☐ 今までと特に変わらない
- あなたが記念樹を選ぶ際に最も重要視する要素は何ですか。
☐ 病害虫に強い ☐ 家の外観に合う、見た目 ☐ 育てやすさ
☐ 樹種に込められた意味 ☐ 花、実がなる

●市広報 3/5号 情報館掲載



情報館 **みえ森と緑の島民税事業**
農林水産課 ☎382-9017 ☎382-7610
✉norin@city.suzuka.lg.jp

令和5年度みえ森と緑の島民税を活用した事業についてお知らせします

本市では、平成26年4月から導入された「みえ森と緑の島民税」を活用し、「災害に強い森林づくり」と「県民全員で森林を支える社会づくり」に取り組んでいます。

市内で実施した事業を紹介します

令和5年度は、「みえ森と緑の島民税」を活用し、市内で10事業を実施しました。

- 里山保全ボランティア育成事業**
人材育成のため「里山保全基礎講座」を開講しました。また、多くの方が里山保全に興味を持ち、活動に参加してもらうために「里山保全体験」を実施し、市民参加を促しました。
- 森と緑の生涯学習講座**
市内の公民館で、小学生を中心とした子どもと保護者を対象に、間伐材を利用した木工工作フィールドワーク、木のおもちゃに触れるなどの森林環境学習を行いました。
- ふるさと木（名木古木）保存活用事業補助事業**
ふるさと木（市内の天然記念物や地域緑化のシンボルとなっている樹木・樹木の所有者などに対して、樹木診断や樹木治療などを実施するための経費を補助しました。
- 子育て支援センターりんりん木製玩具および木製備品設置事業**
三重県産木材を使用した玩具、椅子、ベビーベッド、テーブル、くつ箱などを施設内に設置し、木育の場として整備して「みえ森林教育ステーション」として認定されました。
- 公立保育所および公立幼稚園等設置および木育推進事業**
三重県産木材を使用した園や下駄箱などを保育所と幼稚園へ設置し、木育の場として整備しました。
- 緑と人を育む長太の大橋再生プロジェクト**
長太の大橋の樹勢回復を目的として、樹木治療や土壌改良などを行いました。
- 児童センター等木製品設置および森林環境教育推進事業**
児童センターおよび男女共同参画センターのこどもの部屋に三重県産木材を使用した玩具・遊具・棚などを設置し、木育・森林環境教育を推進する場を整備しました。
- 緑に親しむ記念樹配布事業**
新築や新入学などの節目を迎えた市民に対して、本市で生産された楠木を記念樹として配布しました。
- 暮らしを守る森林保全事業**
海岸の松林で、枯木の伐倒撤除および過去に植樹した松の間伐並伐に病害虫防除を行いました。
- 災害からライフラインを守る事前伐倒事業**
台風などが原因の断木により、過去に停電被害があった箇所について、倒木するライフラインを寸断する可能性がある断木を事前に伐倒しました。

令和5年度も、引き続き「みえ森と緑の島民税」を活用し、地域の発展に資する森林づくりや県と連携した災害に強い森林づくりなどの事業を実施しています。なお、国から提供される「森林整備補助金」は、使途を定められた上で取方を有効に活用しています。

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	緑に親しむ記念樹配布事業
-----	--------------

7の(2). その他資料

●アンケート結果

令和5年度「記念樹配布事業」に係る市民アンケート結果

実施年月日:令和5年4月8, 9, 15, 16日

実施場所:鈴鹿フラワーパーク「植木まつり」会場

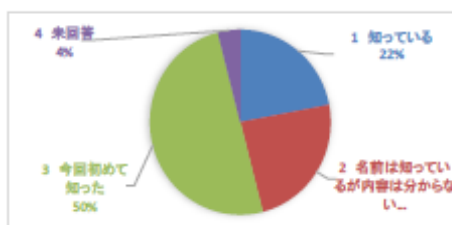
記念樹配布数 200本
 アンケート依頼数 200人
 アンケート回収数 200人 (回収率100%)



1 あなたは「みえ森と緑の里民様」を知っていますか。

回答	人数(人)	割合(%)
1 知っている	44	22.0
2 名前は知っているが内容は分からない	48	24.0
3 今回初めて知った	100	50.0
4 未回答	8	4.0

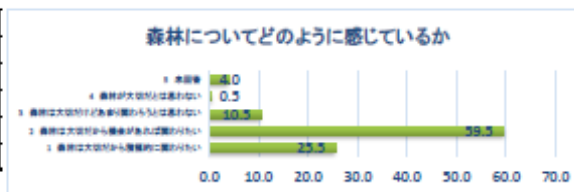
n = 200



2 あなたは森林についてどのように感じていますか。

回答	人数(人)	割合(%)
1 森林は大切だから積極的に関わりたい	51	25.5
2 森林は大切だから機会があれば関わりたい	119	59.5
3 森林は大切だけれどあまり関わろうとは思わない	21	10.5
4 森林が大切だとは思わない	1	0.5
5 未回答	8	4.0

n = 200



3 現在のあなたと森林の関わりを教えてください。

回答	人数(人)	割合(%)
1 地域の植樹活動や里山整備などに参加している	5	2.5
2 休日に森林や山とふれあう機会がある	59	29.5
3 森林に直接関わることはないが木造や木製品に興味がある	75	37.5
4 森林に関わることがない	53	26.5
5 未回答	8	4.0

n = 200



4 「県民全体で森林を支える社会づくり」のためにあなたができることは何ですか。(複数選択可)

回答	人数(人)	割合(%)
1 木製品などを積極的に活用する	68	34.0
2 植樹活動や里山保全活動に参加する	20	10.0
3 身近にある緑や木を大切にす	156	78.0
4 市や県が実施する森林教育に参加する	26	13.0
5 緑や森林の大切さを後世に伝える	55	27.5
6 未回答	11	5.5

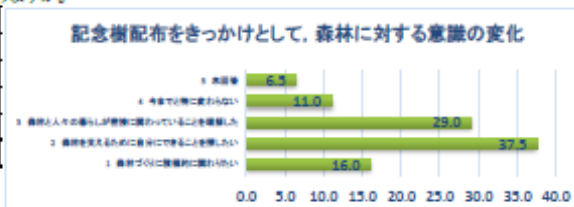
n = 200



5 今回の記念樹配布をきっかけとして、あなたの森林に対する意識に変化はありますか。

回答	人数(人)	割合(%)
1 森林づくりに積極的に関わりたい	32	16.0
2 森林を支えるために自分にできることを探したい	75	37.5
3 森林と人々の暮らしが密接に関わっていることを理解した	58	29.0
4 今までと特に変わらない	22	11.0
5 未回答	13	6.5

n = 200



6 あなたが記念樹を選ぶ際に最も重要視する要素は何ですか。

※複数選択あり

回答	人数(人)	割合(%)
1 病害虫に強い	48	24.0
2 家の外観に合う、見た目	86	43.0
3 育てやすさ	127	63.5
4 樹種に込められた意味	25	12.5
5 花、実がなる	30	15.0
6 未回答	8	4.0

n = 200



第11号様式（その2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
番号	事業名						
4	森と緑の生涯学習講座						
事業費	725,592 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他		
			725,592	-	-		

1. 事業の目的

小学生を中心とした子どもと保護者が、経験者である高齢者の手助けを得て、森や緑の大切さについて学び、森林にふれ、取り組みについて学ぶことにより、多くの世代の市民が、森林保全や持続可能な自然環境などの理解を深めることを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市立公民館において、社会教育事業を実施している団体（公民館運営委員会及び地域づくり協議会）に「森と緑の生涯学習講座」として委託し、小学生を中心とした子どもと保護者が、夏休み、冬休みなどの長期休暇を利用しながら、年間3回以上の定期講座として、講話、間伐材を利用した木工工作、森の資源を利用した工作、フィールドワーク、キノコの栽培等の森林環境学習を実施した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

地域づくり協議会、公民館運営委員会

【実施個所及び箇所数】

11館（椿、久間田、庄内、国府、住吉、清和、若松、飯野、栄、旭が丘、合川）

【事業量】

11館において1館3講座の開催

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

講話、木工教室などの森林学習により小学生を中心とした子どもとその保護者などが森林環境を身近に感じることができ、森林の現状やそこに生息する木や生き物による自然環境を守ることの大切さを理解することによって、地域全体で森や緑を大切に考える人づくりにつなげていくことができる。実施後アンケートでは、今後積極的にかわりたい、機会があれば関わりたいと答える子どもが多かった。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

施設の立地による特性を活かして講座内容を考えたり、基本小学生を対象としているため子供が興味を持つ工作を組み入れるなどの工夫をした。また、子どもを通して保護者を巻き込んだ講座で参加対象の幅を広げた。さらに、指導者として高齢者の参加を促す取り組みも行った。

【新たな対策・視点及び改善点】

森や緑の大切さを体験する中で、作って楽しいだけの事業とならないように森林学習の仕方を工夫する必要がある。アンケートの仕方も工作に偏らないように考える必要がある。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番号	事業名				
4	森と緑の生涯学習講座				
事業費	725,592 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			725,592	-	-

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	地域協議会等	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

地域づくり協議会や公民館運営委員会が、地域の生涯学習の場、地域の方の交流の拠点でもある公民館の事業運営を行っているため。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	参加者330人
期待する波及効果	環境に対する森林保全の重要性の理解、対策としての県の取り組みへの理解を高める。

【公的関与の必要性】

森林保全に関する情報、講師の案内、他市町の事業に関する情報などの提供。全県的な取り組みや方針など包括的な理解を促すため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

対象外

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	開催場所に掲示
ロゴマーク掲示 (シール・プレート等)	実施前	たよりなどに掲載
広報誌掲載	実施前・後	募集のたより、チラシ、事業報告などで地域全体及び地域の小学校へ周知 広報すずか（ミニ特集）に本市の県民税活用（全般）を掲載し、市民に周知
アンケート実施	実施後	間伐材などを使った工作に参加した小学生や大人に行う。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------	-----	-----

事業名	森と緑の生涯学習事業
-----	------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
委託事業	報償費、材料費など	館	10.00	70,000	700,000	
委託事業	報償費、材料費など	館	1.00	25,592	25,592	
		合計			725,592	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と緑の生涯学習講座
-----	------------

7の(1). 写真



写真1

栄公民館：からくり貯金箱



写真2

栄公民館：森の遊び



写真3

若松公民館：キノコの話



写真4

飯野公民館：マガジンラック



写真5

国府公民館：杉の木で看板作り①



写真6

国府公民館：杉の木で看板作り②

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と緑の生涯学習講座
-----	------------

7 の（2）. その他資料

●市広報 3/5号 情報館掲載

**情報館 ⑤ みえ森と緑の県民税事業**
農林水産課 ☎382-9017 ☎382-7610
✉norin@city.suzuka.lg.jp



みんなで作るみえの森林づくり
みえ森と緑の県民税

令和5年度みえ森と緑の県民税を 活用した事業についてお知らせします

本市では、平成26年4月から導入された「みえ森と緑の県民税」を活用し、「災害に強い森林づくり」と「県民全員で森林を支える社会づくり」に取り組んでいます。

市内で実施した事業を紹介します

令和5年度は、「みえ森と緑の県民税」を活用し、市内で10事業を実施しました。

**●里山保全ボランティア育成事業**

人材育成のため、「里山保全基礎講座」を開設しました。また、多くの方が里山保全に興味を持ち、活動に参加してもらうために「里山保全体験」を実施し、市民参加を促しました。



**●ふるさとの木(名木古木)保存活用事業補助事業**

ふるさとの木(市内の天然記念物や地域緑化のシンボルとなっている樹木・樹木群)の所有者などに対して、樹木診断や樹木治療などを実施するための経費を補助しました。



**●公立保育所および公立幼稚園等設置および木育推進事業**

三重県産木材を使用した棚や下駄箱などを保育所と幼稚園へ設置し、木育の場として整備しました。



**●児童センター等木製品設置および森林環境教育推進事業**

児童センターおよび男女共同参画センターの「こどもの部屋」に三重県産木材を使用した玩具・遊具・棚などを設置し、木育・森林環境教育を推進する場を整備しました。



**●暮らしを守る森林保全事業**

海岸の松林で、枯木の伐倒駆除および過去に植樹した松の間伐並びに病害虫防除を行いました。



**●森と緑の生涯学習講座**

市内の公民館で、小学生を中心とした子どもと保護者を対象に、間伐材を利用した木工工作、フィールドワーク、木のおもちゃに触れるなどの森林環境学習を行いました。



**●子育て支援センターりんりん木製玩具および木製備品設置事業**

三重県産木材を使用した玩具、椅子、ベビーベッド、テーブル、くつ箱などを施設内に設置し、木育の場として整備して「みえ森林教育ステーション」として認定されました。



**●緑と人を育む長太の大楠再生プロジェクト**

長太の大楠の樹勢回復を目的として、樹木治療や土壌改良などを行いました。



**●緑に親しむ記念樹配布事業**

新築や新入学などの節目を迎えた市民に対して、本市で生産された植木を記念樹として配布しました。



**●災害からライフラインを守る事前伐採事業**

台風などが原因の倒木により、過去に停電被害があった箇所について、倒木するとライフラインを寸断する可能性がある樹木を事前に伐採しました。



令和6年度も、引き続き「みえ森と緑の県民税」を活用し、地域の実情に応じて創意工夫した森林づくりや県と連携した災害に強い森林づくりなどの施策を実施していきます。なお、国から譲与される「森林財源贈与税」とは、用途をすみ分けた上で双方を有効に活用しています。

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	新規
番号	事業名				
5	里山保全ボランティア育成事業				
事業費	369,845 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			369,845		

1. 事業の目的					
平成22年から深谷公園において里山保全活動を市民ボランティアと共に実施しているが、参加者のさらなる知識・技術の向上などを目指した活動を推進し、市民の自然環境保全の意識向上を図ることで、森林づくりを担う人材を育成する。					
2. 事業実績概要					
【事業内容】 里山保全活動に必要な基礎的知識・技術を学ぶ場として、新たに「里山保全基礎講座」を開設し、里山保全を安全で確実に実践することができる人材を育成する。 また、多くの方が里山保全に興味を持ち、活動に参加してもらうことを目的に、これまで市民ボランティアを対象としていた里山保全活動を、より参加しやすい内容に改め、「里山保全体験」として実施し、市民参加を促していく。 【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】 市及びボランティア団体 【実施個所及び箇所数】 深谷公園、鈴鹿市役所本館、鈴鹿市男女共同参画センター 計3か所 【事業量】 里山整備 約7,000㎡					
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】					
【事業実施により期待される効果】 深谷公園が自然とふれあい、自然を学ぶ場として活かされ、里山林をはじめとした森林、自然環境との触れ合い、自然との共生の大切さに対する理解が進むことが期待できる。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 市民団体による保全活動としてだけでなく、市民の方が参加できる事業にするため、当地での自然環境の体験・学習を目的としたイベントを開催し、取組みの輪を広げていく取組みを行った。 【新たな対策・視点及び改善点】 目的別にこれまでの保全活動を「里山保全基礎講座」と「里山保全体験」に二分化し、活動の更なる発展を目指した。					

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	新規
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
5	里山保全ボランティア育成事業				
事 業 費	369,845 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			369,845		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	活動団体	定額補助		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

専門的な知識(森林インストラクターの資格等)を持ち合わせており、本市の自然環境にも精通しているため。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	当該活動に触れた人(95名)
期待する波及効果	自然や里山保全に興味を持つ人が増えることが期待される。また、公園利用者も効果が期待される。

【公的関与の必要性】

本市の計画・施策(豊かな自然環境の保全)の下に推進すべき事業である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

深谷公園は市の公園であるため、基本的に管理は市で行う。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	みえ森と緑の県民税を活用した事業であることを示したのぼりを設置
チラシ等配布	実施中	みえ森と緑の県民税の案内パンフレット、クリアファイルを参加者に配布
アンケート実施	実施後	みえ森と緑の県民税についての認識や森林への理解度について参加者に質問
その他	実施中	イベント実施中にみえ森と緑の県民税を活用した取組みであることを参加者にアナウンス
広報誌掲載	実施後	広報すずか（ミニ特集）に本市の県民税活用（全般）を掲載し、市民に周知

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

森林や里山に対する関心が高まったという声が多く聞かれた。また、自ら市民団体に加入し、当該事業終了後においても積極的に里山保全活動を望まれる方もみえた。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------	-----	-----

事業名	里山保全ボランティア育成事業
-----	----------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
消耗品	腰鋸 カツオ先36cm	本	2.00	12,263.5	24,527	
消耗品	腰鋸 カツオ先33cm	本	2.00	11,100	22,200	
消耗品	腰鉋 中巾鉋21cm	本	1.00	8,900	8,900	
消耗品	腰鉋 片刃二丁差21cm	本	1.00	14,800	14,800	
消耗品	竹引鋸	本	2.00	1,180	2,360	
消耗品	竹引鋸 替刃	本	2.00	798	1,596	
消耗品	紙やすり	枚	10.00	48	480	
消耗品	砥石	個	1.00	1,280	1,280	
消耗品	滑り止め軍手	組	1.00	1,494	1,494	
消耗品	ヘルメット	個	20.00	2,420	48,400	
消耗品	ベルト	本	13.00	398	5,174	
消耗品	スリングベルト	本	2.00	4,480	8,960	
消耗品	麻ロープ	個	4.00	4,055	16,220	
消耗品	竹柄豚毛ブラシ	本	7.00	118	826	
消耗品	シイタケ菌	個	5.00	2,209.8	11,049	
消耗品	滑車（シンプルスナッチ）	個	1.00	4,480	4,480	
消耗品	バケツ	個	1.00	998	998	
消耗品	洗剤	個	2.00	298	596	
消耗品	ガソリン	個	1.00	1,480	1,480	
消耗品	ベノムエクストラクター	個	2.00	4,400	8,800	
消耗品	剪定鋏	個	5.00	1,980	9,900	
消耗品	指示棒	本	1.00	1,540	1,540	
		小計			196,060	
保険料	普通損害保険30名	回	2.00	1,000	2,000	竹工作、しいたけの菌打ち体験
保険料	普通損害保険20名	回	3.00	3,355	10,065	里山保全基礎講座
		小計			12,065	
委託料	里山保全基礎講座委託(全5回)	回	1.00	99,000	99,000	
委託料	里山保全体験委託(竹工作)	回	1.00	10,000	10,000	
委託料	里山保全体験委託(しいたけの菌打ち体験)	回	1.00	50,000	50,000	
		小計			159,000	
会場借上料	男女共同参画センター使用料	回	2.00	1,360	2,720	竹工作、しいたけの菌打ち体験
		小計			2,720	
		合計			369,845	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	新規
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	里山保全ボランティア 育成事業
-----	-----------------

7の(1). 写真



写真1

里山保全基礎講座



写真2

里山保全基礎講座



写真3

里山保全基礎講座



写真4

里山保全基礎講座



写真5

里山保全体験(竹工作)



写真6

里山保全体験(しいたけの菌打ち体験)

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	新規
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	里山保全ボランティア育成事業
-----	----------------

7の(2). その他資料

●市広報 7/20号 環境館掲載

環境館 **里山の自然をみんなで守りましょう**
 環境政策課 ☎382-7954 ☎382-2214 ✉kankyoseisaku@city.suzuka.lg.jp

マスコットキャラクター「クワジ」
 自然の中で学ぶ環境教育のシンボル

本市の豊かな自然環境を知っていただく里山保全活動を実施します。活動を通じて身近な自然と触れ合い、環境への関心を高めるきっかけにしましょう。

里山保全活動って？
 里山保全活動とは、植生調査や竹の駆除、下草刈りや間伐を行う活動です。本市では、平成22年度から深谷公園（八野町）で実施しています。今年度からは活動内容を一新し、「里山保全基礎講座」と「森林環境教育」の2つの活動を行いますので、ぜひご参加ください。

今年度の活動を紹介します

里山保全基礎講座
 里山保全をより安全に進めていくための基本的な知識や技術を習得します。

対象
 高校生以上

とき
 9月23日・10月7日・11月11日・12月2日・1月20日（各土曜日）
 ※原則5回全ての参加が条件です。

ところ
 深谷公園（八野町）

内容
 体験学習・実習
 ※9月23日（土・初のみ座学）

参加方法
 8月31日（木）までに、電話または電子メールで環境政策課へ


 ▲竹の駆除

森林環境教育
 森林や自然に触れる機会を提供します。

対象
 小・中学生

とき
 ①8月23日（木）
 ②令和6年2月ごろ（未定）

ところ
 ①男女共同参画センター
 ②深谷公園（八野町）

内容
 ①森林に関する講話、工作体験
 ②森林に関する講話、シタケ菌打ち体験

参加方法
 開催ごとに申し込み
 ※広報すずかで参加者を募集します。8月23日（木）開催の森林環境教育の詳細は、本号7ページをご覧ください。


 ▲シタケ菌打ち体験

皆さんの地域で知識を生かせるよう、里山の変化や管理方法を学びましょう。

14 2023-7-20

●市広報 3/5号 情報館掲載

情報館 6 みえ森と緑の県民税事業
 農林水産課 ☎382-9017 ☎382-7610
 ✉norin@city.suzuka.lg.jp

令和5年度みえ森と緑の県民税を活用した事業についてお知らせします
 本市では、平成26年4月から導入された「みえ森と緑の県民税」を活用し、「災害に強い森林づくり」と「県民全員で森林を支える社会づくり」に取り組んでいます。

市内で実施した事業を紹介します
 令和5年度は、「みえ森と緑の県民税」を活用し、市内で10事業を実施しました。

●里山保全ボランティア育成事業
 人材育成のため、「里山保全基礎講座」を開講しました。また、多くの方が里山保全に興味を持ち、活動に参加してもらうために「里山保全体験」を実施し、市民参加を促しました。



●森と緑の生涯学習講座
 市内の公民館で、小学生を中心とした子どもと保護者を対象に、間伐材を利用した木工工作、フィールドワーク、木のおもちゃに触れるなどの森林環境学習を行いました。



●ふるさとの木（名木古木）保存活用事業補助事業
 ふるさとの木（市内の天然記念物や地域緑化のシンボルとなっている樹木・樹木群）の所有者などに対して、樹木診断や樹木治療などを実施するための経費を補助しました。



●子育て支援センターりんりん木製玩具および木製備品設置事業
 三重県産木材を使用した玩具、椅子、ベビーベッド、テーブル、くつ箱などを施設内に設置し、木育の場として整備して「みえ森林教育ステーション」として認定されました。



●公立保育所および公立幼稚園等設置および木育推進事業
 三重県産木材を使用した棚や下駄箱などを保育所と幼稚園へ設置し、木育の場として整備しました。



●緑と人を育む長太の大楠再生プロジェクト
 長太の大楠の樹勢回復を目的として、樹木治療や土壌改良などを行いました。



●児童センター等木製品設置および森林環境教育推進事業
 児童センターおよび男女共同参画センターの「こどもの部屋」に三重県産木材を使用した玩具・遊具・棚などを設置し、木育・森林環境教育を推進する場を整備しました。



●緑に親しむ記念樹配布事業
 新築や新入学などの節目を迎えた市民に対して、本市で生産された植木を記念樹として配布しました。



●雪らしを森の保全事業
 海岸の松林で、枯木の伐倒駆除および過去に枯死した松の間伐並びに病害虫防除を行いました。



●災害からライフラインを守る事前伐採事業
 台風などが原因の倒木により、過去に停電被害があった箇所について、倒木するとライフラインを寸断する可能性がある樹木を事前に伐採しました。



令和6年度も、引き続き「みえ森と緑の県民税」を活用し、地域の実情に応じて森林づくりや機と連携した災害に強い森林づくりなどの施策を実施していきます。なお、国から提供される「森林環境教育」とは、使途をすみ分けした上で双方を有効に活用しています。

10 2024-3-5

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
6	公立保育所及び公立幼稚園棚等設置及び木育推進事業				
事 業 費	9,185,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
				9,185,000	

1. 事業の目的

公立保育所及び公立幼稚園の保育室の棚や下駄箱に木材を使用することで、温かみがあり、親しみやすい保育室にするとともに、木製品に触れることで、自然の良さを感じ、木育の機会とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

三重県産木材を使用した棚や下駄箱を保育所と幼稚園へ設置する

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

鈴鹿市

【実施個所及び箇所数】

市内公立保育所3か所及び公立幼稚園1か所

【事業量】

木製下駄箱、木製棚など計21台

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

無機質、画一的な製品でなく、木材の持つ温かさや人工物にはない木製品の良さを幼児期から体感し、心豊かな環境で保育・教育を行うことに繋がる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

保育所、幼稚園で学ぶ園児に、自ら使用する棚、下駄箱等のおいを嗅いで、みんなで感想を言い合う。
どのように、森林の木から、このような棚になるのかを、保育、教育の場で保育士、幼稚園教諭から学ぶ機会を設ける。

【新たな対策・視点及び改善点】

木製品の香りや温もりについて感想を述べたり、森林の木が、どのような工程で下駄箱や収納棚に加工されるのかを考え、幼児期からの木育が可能になる。

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり		市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
6	公立保育所及び公立幼稚園棚等設置及び木育推進事業				
事 業 費	9,185,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
				9,185,000	

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	小売業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

令和5年度鈴鹿市物件関係入札資格を有し、特注家具の登録があり製作実績を有する県内業者を一般競争入札により決定した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	保育所・幼稚園の園児（505人）、幼稚園保育所関係者（147人）
期待する波及効果	保護者や出入りする業者への波及効果も期待できる

【公的関与の必要性】

幼児教育・保育に対する多様なニーズへ対応し、更なる幼児教育・保育の充実を図るため、市による就学前施設の計画的な整備が必要と考える。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

下駄箱や棚は毎日使用するため、清掃等、定期的にメンテナンスを行い、市による適切な維持管理に努める。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ロゴマーク掲示 (シール・プレート等)	実施後	設置された木製品にみえ森と緑の県民税を活用した事業である標識プレートを設置
学校だより等掲載	実施後	設置された木製品がみえ森と緑の県民税を活用していることを周知し、森林や木材について学ぶきっかけとする
広報誌掲載	実施後	広報すずか（ミニ特集）に本市の県民税活用（全般）を掲載し、市民に周知する。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

保護者からは「木材の持つ温もりを感じる」と言った感想や、児童からは「木の香りや肌触りが気持ちいい」との感想があり、大変好評である。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------------	-----	-----

事業名	公立保育所及び公立幼稚園棚等設置事業
-----	--------------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
牧田保育所	下足箱 こあら組	台	2.00	402,600	805,200	
牧田保育所	下足箱 らいおん組	台	1.00	770,000	770,000	
牧田保育所	布団収納棚 らいおん組	台	1.00	728,200	728,200	
神戸保育所	下足箱 0-1歳	台	2.00	127,600	255,200	
神戸保育所	下足箱 他クラス	台	6.00	390,500	2,343,000	
神戸保育所	下足箱 ぞう組①	台	1.00	304,700	304,700	
神戸保育所	下足箱 ぞう組②	台	1.00	382,800	382,800	
神戸保育所	保育室棚りす・うさぎ組	台	2.00	598,400	1,196,800	
合川保育所	本棚	台	2.00	182,600	365,200	
合川保育所	舞台	台	1.00	426,800	426,800	
旭が丘幼稚園	下足箱	台	2.00	803,550	1,607,100	
			合計		9,185,000	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	公立保育所及び公立幼稚園棚等設置事業
-----	--------------------

7の(1). 写真



写真1

牧田保育所（布団収納棚）



写真2

旭が丘幼稚園（下足箱）



写真3

神戸保育所（下足箱 他クラス）



写真4

神戸保育所（下足箱 他クラス）



写真5

合川保育所（本棚）



写真6

合川保育所（舞台）

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	公立保育所及び公立幼稚園棚等設置事業
-----	--------------------

7の(2). その他資料

●旭が丘幼稚園HP掲載

この森の教室の様子は、県や市のHPや広報にも掲載されるようです。

よかったら、ぜひご覧ください。

それと、これは報告です。

小さい組さんの保育室前の下足箱と同様に、1月には大きい組さんテラスの下足箱も木製で新しく設置していただきます。

これは「県民全体でも森林を支える社会づくり」という「みえ森と緑の県民税」の基本方針のもと、森と人をつなぐ学びの場づくりを進めるため

「みえ森と緑の県民税」を活用して木製下足箱を設置してもらいます。

木材が持つ温もりを園児たちに感じてもらうとともに、木を伐ることとはダメなことではなく、木材を積極的に使うことが森林の循環につながっているということを子どもたちにも正しく理解してほしいと思います。

旭が丘幼稚園は、今後も森林教育の推進に取り組みます。って、ちょっとまじめなコメントも載せないと…

とにかく、子どもたちが今日の活動を楽しんでくれてたら、「森の教室」やってもよかったと思います。



●市広報 3/5号 情報館掲載

情報館 ⑤ みえ森と緑の県民税事業
農林水産課 ☎382-9017 ☎382-7610
morin@city.suzuka.lg.jp

みえ森と緑の県民税

令和5年度みえ森と緑の県民税を活用した事業についてお知らせします

本市では、平成26年4月から導入された「みえ森と緑の県民税」を活用し、「災害に強い森林づくり」と「県民全員で森林を支える社会づくり」に取り組んでいます。

市内で実施した事業を紹介します

令和5年度は、「みえ森と緑の県民税」を活用し、市内で10事業を実施しました。

- 里山保全ボランティア育成事業**
人材育成のため、「里山保全基礎講座」を開講しました。また、多くの方が里山保全に興味を持ち、活動に参加してもらうために「里山保全体験」を実施し、市民参加を促しました。
- 森と緑の生涯学習講座**
市内の公民館で、小学生を中心とした子どもと保護者を対象に、間伐材を利用した木工工作、フィールドワーク、木のおもちゃに触れるなどの森林環境学習を行いました。
- ふるさとの木(名木古木)保存活用事業補助事業**
ふるさとの木(市内の天然記念物や地域緑化のシンボルとなっている樹木・樹木群)の所有者などに対して、樹木診断や樹木治療などを実施するための経費を補助しました。
- 子育て支援センターりんりん木製玩具および木製備品設置事業**
三重県産木材を使用した玩具、椅子、ベビーベッド、テーブル、くつ箱などを施設内に設置し、木育の場として整備して「みえ森林教育ステーション」として認定されました。
- 公立保育所および公立幼稚園棚等設置および木育推進事業**
三重県産木材を使用した棚や下駄箱などを保育所と幼稚園へ設置し、木育の場として整備しました。
- 緑と人を育む長太の大樹再生プロジェクト**
長太の大樹の樹勢回復を目的として、樹木治療や土壌改良などを行いました。
- 児童センター等木製品設置および森林環境教育推進事業**
児童センターおよび男女共同参画センターの「こどもの部屋」に三重県産木材を使用した玩具・遊具・棚などを設置し、木育・森林環境教育を推進する場を整備しました。
- 緑に親しむ記念樹配布事業**
新築や新入学などの節目を迎えた市民に対して、本市で生産された苗木を記念樹として配布しました。
- 暮らしを守る森林保全事業**
海岸の松林で、枯木の伐倒撤除および過去に枯樹した松の間伐並びに病害虫防除を行いました。
- 災害からライフラインを守る事前伐採事業**
台風などが原因の倒木により、過去に停電被害があった箇所について、倒木するとライフラインを寸断する可能性がある樹木を事前に伐採しました。

令和5年度も、引き続き「みえ森と緑の県民税」を活用し、地域の発展に貢献して創出された森林づくりや環境と調和した災害に強い森林づくりなどの施策を実施していきます。なお、国から譲渡される「森林環境整備費」とは、使途をすみ分けた上で双方を有効に活用しています。

10 2024-3-5

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
7	子育て支援センター（りんりん）木製玩具及び木製備品設置事業				
事 業 費	6,284,040 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
				6,284,040	

1. 事業の目的

移転新築された子育て支援センターりんりんの玩具、椅子、ベビーベッド、テーブル、椅子、くつ箱などに木材を使用することで、温かみがあり、親しみやすい施設にするとともに、木製品に触れることで、自然の良さを感じ、木育の機会とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

三重県産木材を使用した玩具、椅子、ベビーベッド、テーブル、椅子、くつ箱などを施設内へ設置する

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

鈴鹿市

【実施個所及び箇所数】

鈴鹿市子育て支援センターりんりん

【事業量】

玩具、椅子、ベビーベッド、テーブル、椅子、くつ箱など計93点

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

無機質、画一的な製品でなく、木材の持つ温かさや人工物にはない木製品の良さを幼児期から体感し、心豊かな環境で過ごすことに繋がる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

利用者同士間において、使用する木製品についての感想を言い合う。利用者に対して、どのように、森林の木から、このような木製品になるのかを、現場の保育士から説明する。

【新たな対策・視点及び改善点】

木製品の香りや温もりについて感想を述べたり、森林の木が、どのような工程で木製品に加工されるのかを考え、幼児期からの木育が可能になる。みえ森林教育ステーションの認定を受け、更なる啓発活動を行う。

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
7	子育て支援センター（りんりん）木製玩具及び木製備品設置事業				
事 業 費	6,284,040 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
				6,284,040	

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	森林組合	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

主に、令和5年度鈴鹿市物件関係入札資格を有し、特注家具の登録があり製作実績を有する県内業者を一般競争入札により決定した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	子育て支援センターりんりんの利用者（令和4年度実績10,885人）
期待する波及効果	イベントや講座等を実施する事業者への波及効果も期待できる

【公的関与の必要性】

子育て支援に対する多様なニーズへ対応し、更なる子育て環境の充実を図るため、市による対応が必要と考える。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

玩具や机は毎日使用するため、清掃等、定期的にメンテナンスを行い、市による適切な維持管理に努める。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ロゴマーク掲示（シール・プレート等）	実施後	設置された木製品にみえ森と緑の県民税を活用した事業である標識プレートを設置
標識・標柱等設置	実施後	みえ森林教育ステーションの認定証を掲示
広報誌掲載	実施後	広報すずか（ミニ特集）に本市の県民税活用（全般）を掲載し、市民に周知する。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

利用者からは「木材の持つ温もりを感じながら、子どもと遊ぶことができる、リフレッシュできる」との感想があり、大変好評である。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------------	-----	-----

事業名	子育て支援センター（りんりん）木製玩具及び木製備品設置事業
-----	-------------------------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
りんりん	玄関用チェア	脚	2.00	34,100	68,200	
りんりん	プレイルーム椅子	脚	9.00	28,600	257,400	
りんりん	プレイルームテーブル	台	2.00	233,475	466,950	
りんりん	おもちゃ置きテーブル	台	2.00	132,000	264,000	
りんりん	ランチルーム椅子（0～1歳用）	脚	8.00	24,750	198,000	
りんりん	ランチルームテーブル（0～1歳用）	台	2.00	96,250	192,500	
りんりん	ランチルーム椅子（2～5歳用）	脚	12.00	28,600	343,200	
りんりん	ランチルームテーブル（2～5歳用）	台	3.00	96,250	288,750	
りんりん	ベビーベッド	台	4.00	275,000	1,100,000	
りんりん	くつ箱	台	1.00	122,760	122,760	
りんりん	スリッパ入れ	台	1.00	122,760	122,760	
りんりん	受付カウンター	台	1.00	311,960	311,960	
りんりん	ついたて（分割式）	式	1.00	275,660	275,660	
りんりん	おもちゃボールサーキット	式	1.00	56,760	56,760	
りんりん	ままごとキッチン（シンク付き）	台	2.00	179,960	359,920	
りんりん	おもちゃ冷蔵庫	台	1.00	104,060	104,060	
りんりん	おもちゃレンジ	台	1.00	79,860	79,860	
りんりん	鏡台	台	1.00	128,260	128,260	
りんりん	木製おもちゃ 車コロ	台	1.00	2,500	2,500	
りんりん	軽トラック	台	1.00	800	800	
りんりん	ワゴン車	台	1.00	800	800	
りんりん	バス	台	1.00	800	800	
りんりん	タンクローリ	台	1.00	800	800	
りんりん	新幹線	台	1.00	800	800	
りんりん	パトカー	台	1.00	900	900	
りんりん	救急車	台	1.00	900	900	
りんりん	はしご車	台	1.00	900	900	
りんりん	長距離トラック	台	1.00	900	900	
りんりん	ジープ	台	1.00	900	900	
りんりん	ゴミ収集車	台	1.00	900	900	
りんりん	高所作業車	台	1.00	1,000	1,000	
りんりん	シャベルカー	台	1.00	1,000	1,000	
りんりん	ブルドーザ	台	1.00	1,000	1,000	
りんりん	ロードローラ	台	1.00	1,000	1,000	
りんりん	トレーラ	台	1.00	1,000	1,000	
りんりん	キャリアカー	台	1.00	1,000	1,000	
りんりん	ミキサー車	台	1.00	1,000	1,000	
りんりん	ダンプカー	台	1.00	1,000	1,000	
りんりん	格子箱ボットン積み木	式	1.00	3,100	3,100	
りんりん	コマ風車	個	1.00	1,890	1,890	
りんりん	カチカチ	個	3.00	900	2,700	
りんりん	長手ゴマ	個	2.00	600	1,200	
りんりん	木ゴマ	個	2.00	700	1,400	
りんりん	けん玉	個	2.00	800	1,600	
りんりん	だるま落とし（中）	個	1.00	950	950	
りんりん	だるま落とし（特大）	個	1.00	3,300	3,300	
りんりん	ベンチ	台	1.00	353,100	353,100	
りんりん	シェルフ	台	1.00	166,100	166,100	
りんりん	パーティション	台	2.00	275,550	551,100	
りんりん	ついたて（分割式）	式	2.00	218,350	436,700	
		合計			6,284,040	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	新規
事業名	子育て支援センター（りんりん）木製玩具及び木製備品設置事業				

7の(1). 写真



写真1
玄関用チェア

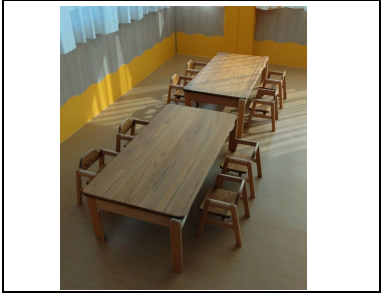


写真2
ランチルーム椅子、テーブル(0～1歳用)



写真3
ベビーベッド



写真4
受付カウンター

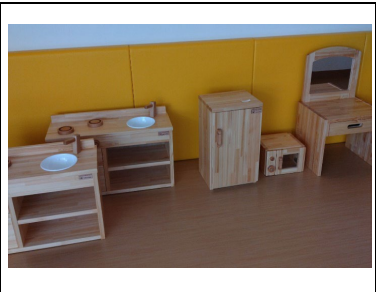


写真5
おもちゃ冷蔵庫、おもちゃレンジ、鏡台ほか

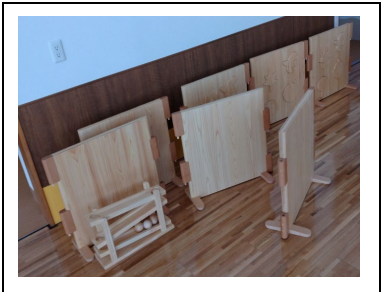


写真6
おもちゃボールサーキット、ついたて(分割式)



写真7
認定証授与



写真8
木製認定証授与



写真9
木製認定証

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	新規
事業名	子育て支援センター（りんりん）木製玩具及び木製備品設置事業				

7の（2）. その他資料

●市広報 3/5号 情報館掲載



情報館  **みえ森と緑の県民税事業**

農林水産課 ☎382-9017 ☎382-7610
✉norin@city.suzuka.lg.jp



みんなで作るみえの森林づくり
みえ森と緑の県民税

令和5年度みえ森と緑の県民税を活用した事業についてお知らせします

本市では、平成26年4月から導入された「みえ森と緑の県民税」を活用し、「災害に強い森林づくり」と「県民全員で森林を支える社会づくり」に取り組んでいます。

市内で実施した事業を紹介します

令和5年度は、「みえ森と緑の県民税」を活用し、市内で10事業を実施しました。



●里山保全ボランティア育成事業

人材育成のため、「里山保全基礎講座」を開設しました。また、多くの方が里山保全に興味を持ち、活動に参加してもらうために「里山保全体験」を実施し、市民参加を促しました。





●森と緑の生涯学習講座

市内の公民館で、小学生を中心とした子どもと保護者を対象に、間伐材を利用した木工工作、フィールドワーク、木のおもちゃに触れるなどの森林環境学習を行いました。





●ふるさとの木(名木古木)保存活用事業補助事業

ふるさとの木(市内の天然記念物や地域緑化のシンボルとなっている樹木・樹木群)の所有者などに対して、樹木診断や樹木治療などを実施するための経費を補助しました。





●子育て支援センターりんりん木製玩具および木製備品設置事業

三重県産木材を使用した玩具、椅子、ベビーベッド、テーブル、くつ箱などを施設内に設置し、木育の場として整備して「みえ森林教育ステーション」として認定されました。





●公立保育所および公立幼稚園等設置および木育推進事業

三重県産木材を使用した棚や下駄箱などを保育所と幼稚園へ設置し、木育の場として整備しました。





●緑と人を育む長太の大楠再生プロジェクト

長太の大楠の樹勢回復を目的として、樹木治療や土壌改良などを行いました。





●児童センター等木製品設置および森林環境教育推進事業

児童センターおよび男女共同参画センターの「こどもの部屋」に三重県産木材を使用した玩具・遊具・棚などを設置し、木育・森林環境教育を推進する場を整備しました。





●緑に親しむ記念樹配布事業

新築や新入学などの節目を迎えた市民に対して、本市で生産された植木を記念樹として配布しました。





●暮らしを守る森林保全事業

海岸の松林で、枯木の伐倒駆除および過去に植樹した松の間伐並びに病害虫防除を行いました。





●災害からライフラインを守る事前伐採事業

台風などが原因の倒木により、過去に停電被害があった箇所について、倒木するとライフラインを寸断する可能性がある樹木を事前に伐採しました。



令和6年度も、引き続き「みえ森と緑の県民税」を活用し、地域の実情に応じて創意工夫した森林づくりや県と連携した災害に強い森林づくりなどの施策を実施していきます。なお、国から課与される「森林整備助成金」とは、使途をすみ分けた上で双方を有効に活用しています。

10 2024-3-5

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
8	児童センター等木製品設置及び森林環境教育推進事業				
事 業 費	3,008,325 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,008,325	0	0

1. 事業の目的

三重県産の木材を利用した木製品（玩具・遊具・棚など）を設置することにより、児童センター、隣保館及び男女共同参画センターの来館者や児童に、地元で生産された森林資源に関心を持ってもらうとともに、木のぬくもりや扱いやすさを感じてもらうことで、木とふれあい、木に学び、木と生きる機会や場所を提供する。

また、工作教室等を開催することにより、児童に木材を加工し、ものを制作することの楽しさを体感してもらい森林環境教育を推進する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

隣保館、児童センター、鈴鹿市男女共同参画センター「こどもの部屋」に三重県産木材を利用した木製品を設置する。
児童センター、鈴鹿市男女共同参画センター「こどもの部屋」において、三重県産木材を使った工作教室を開催する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

鈴鹿市

【実施個所及び箇所数】

市内隣保館（児童センター併設）2 館、鈴鹿市男女共同参画センター「こどもの部屋」

【事業量】

木製備品41点、工作教室1回

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

三重県産木材を使った棚やベンチ、おままごとテーブルセットを設置することで、木の香りやぬくもりを感じて愛着を持ってもらい、地元三重で生産された森林資源にも興味を持ってもらう。

鈴鹿市男女共同参画センターの「こどもの部屋」に木材おもちゃを導入し来館者・児へ木育環境を整備するとともに、木の温もりを通じた心地良い施設空間を市民サービスとして提供する。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

木製棚で図書室の一辺を占めることにより、木の香りが漂う空間の中でリラックスして読書ができるようにした。

【新たな対策・視点及び改善点】

統一感のない無機質な空間に三重県産木材を配置することで、明るく居心地のよい空間が生まれた。

また、随所に「森と緑の県民税」を活用した製品であるプレートを貼ることで、「県民全体で森林を支える社会づくり」の大切さを周知できた。

鈴鹿市男女共同参画センターや他団体が施設を使用して実施するイベント来場者が利用する機会もあるため、森林環境への関心が高くない層に対してアプローチすることができる。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
8	児童センター等木製品設置及び森林環境教育推進事業				
事 業 費	3,008,325 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,008,325	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	森林組合	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

工作教室については、主に尾鷲ヒノキを使用した雑貨を取り扱う木工工房えびすやを講師として選定した。
木製品については、県内の木材を使用して特注家具等を製作できる業者として、入札及び見積合わせを経て、近藤家具と中勢森林組合を選定した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	工作教室参加者（32人）、児童センター利用者（年間延べ人数約17,000人）、鈴鹿市男女共同参画センター利用者
期待する波及効果	木のぬくもりや香りに触れることで、多くの児童に心理的安心感や、物を大切に作る心が生まれる効果が期待できる。 木材玩具に触れることで森林や木材について関心を持ち、学ぶきっかけを与える。

【公的関与の必要性】

児童センターは毎日多くの児童が利用しており、木製品を長期にわたって利用することで、木の風合いが出て、児童たちにとってなじみ深いものとなることが期待できる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

引き続き児童センターでの適正な管理のもと、定期的なメンテナンスにより可能な限り長期に渡って使用を続ける。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ロゴマーク掲示 (シール・プレート等)	実施後	各製品には「みえ森と緑の県民税」を活用したことを示すシール又は木製プレートを取り付けした。
学校だより等掲載	実施中・後	児童センターだよりで、「みえ森と緑の県民税」の主旨と、三重県産の木製品を設置したことを周知した。情報紙に掲載した。
広報誌掲載	実施後	広報すずか（ミニ特集）に本市の県民税活用（全般）を掲載し、市民に周知

資料 2 - 2

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり		市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名					
8	児童センター等木製品設置及び森林環境教育推進事業					
事 業 費	3,008,325 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			3,008,325	0	0	
7. 写真及びその他資料						
別紙のとおり						
8. その他特記事項（受益者の反応等）						
木工教室の参加者は、天然木由来の優しさに触れて楽しんでいる様子だった。 新しくなった本棚やままごとセットを見て、来館する子どもたちは大変喜んだ様子だった。 「木の暖かみが感じられました」「木の良い香りに癒されました」「無塗装で安心して子どもを遊ばせられました」等感想をいただいた。						

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市
事業名	児童センター等木製品設置及び森林環境教育推進事業		

4. 効率性：主な経費内訳

木製品導入(1)

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
玉垣児童センター	事務室机	台	1.00	190,000	190,000	地域材使用
玉垣児童センター	作業用机	台	1.00	150,000	150,000	地域材使用
玉垣児童センター	丸形スツール	台	6.00	25,000	150,000	地域材使用
玉垣児童センター、一ノ宮団地児童センター	野外ベンチ	台	3.00	160,000	480,000	地域材使用
玉垣児童センター	図書室棚（窓側）	台	1.00	150,000	150,000	地域材使用
玉垣児童センター	図書室棚（入口）	台	1.00	80,000	80,000	地域材使用
玉垣児童センター	事務室棚（廊下側）	台	1.00	200,000	200,000	地域材使用
玉垣児童センター	事務室棚（窓側）	台	1.00	145,000	145,000	地域材使用
一ノ宮団地児童センター	おもちゃ箱	台	2.00	24,000	48,000	地域材使用
一ノ宮団地児童センター	本棚	台	1.00	23,000	23,000	地域材使用
一ノ宮団地児童センター	本立て	台	2.00	38,000	76,000	地域材使用
一ノ宮団地児童センター	一輪車練習用手摺	台	1.00	308,000	308,000	地域材使用
		小計			2,000,000	
		消費税及び地方税相当額			200,000	10%
		合計			2,200,000	

木製品導入(2)

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
一ノ宮団地児童センター	屋外ベンチ	台	8.00	55,000	440,000	地域材使用
一ノ宮団地児童センター	ままごと椅子	脚	4.00	34,000	136,000	地域材使用
一ノ宮団地児童センター	ままごとテーブル	台	2.00	45,000	90,000	地域材使用
		小計			666,000	
		消費税及び地方税相当額			66,600	10%
		合計			732,600	

木製品導入(3)

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
鈴鹿市男女共同参画センター「こどもの部屋」	サイコロパズル	個	1.00	6,200	6,200	地域材使用
鈴鹿市男女共同参画センター「こどもの部屋」	ブーブー（3種類）	個	3.00	1,350	4,050	地域材使用
鈴鹿市男女共同参画センター「こどもの部屋」	積み木	箱	1.00	13,800	13,800	地域材使用
鈴鹿市男女共同参画センター「こどもの部屋」	9個型絵合わせパズル	個	1.00	11,500	11,500	地域材使用
		小計			35,550	
		消費税及び地方税相当額			3,555	10%
		合計			39,105	

木工教室

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
報償費	講師	人・日	2.00	5,810	11,620	
材料費	組み立てキット	セット	50.00	500	25,000	税込み
		合計			36,620	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	児童センター等木製品設置及び森林環境教育推進事業
-----	--------------------------

7の(1). 写真



写真1

事務室1（設置前）



写真2

事務室1（設置後）



写真3

事務室2（設置前）



写真4

事務室2（設置後）

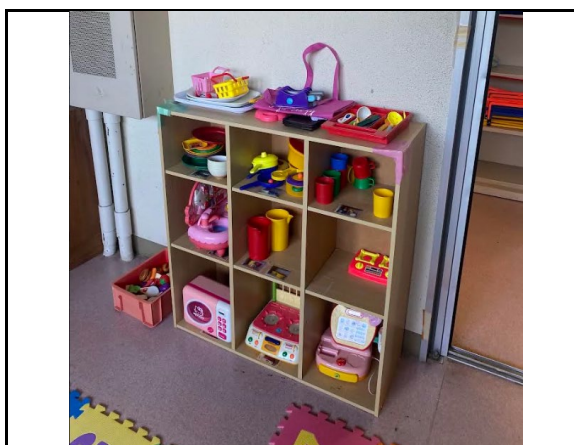


写真5

図書室1（設置前）



写真6

図書室1（設置後）

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	児童センター等木製品設置及び森林環境教育推進事業
-----	--------------------------



写真7

図書室2（設置後）



写真8

事務室3（設置後）



写真9

本立て



写真10

おもちゃ箱



写真11

野外ベンチ



写真12

木工教室

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	児童センター等木製品設置及び森林環境教育推進事業
-----	--------------------------



写真13

一輪車練習用手摺



写真14

プレート



写真15

屋外ベンチ



写真16

ままごと椅子・ままごとテーブル

こどもの部屋の新しいおもちゃが増えました！



（左から）くるま、とり、うさぎのプーブー



（左から）積み木、サイコロパズル、9 個型組合せパズル

森林には、きれいな水を貯える機能や地球温暖化の防止、県土の保全、癒しや健康増進など、私たちが健康で快適な生活を送るために欠かすことのできない大切な働きがあります。

しかし、山村地域の過疎化や林業の不振などにより手入れが不足した荒廃森林が増えています。異常気象が増加していることも考え合わせると、自然災害の発生リスクが高まっていると考えられるため、木材を積極的に利用して、森林整備に繋げることが必要です。

そこで三重県が平成 26 年から導入している「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるための「みえ森と緑の県民税」を活用し、木製おもちゃを購入しました。

こどもの部屋にございますので、ぜひ一度お手にとって木の温かみを感じてみてください。

写真17

情報紙記事抜粋

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	児童センター等木製品設置及び森林環境教育推進事業
-----	--------------------------

7の(2). その他資料

●児童センターだよりにて、森と緑の県民税を使って木製備品の設置や木工教室を実施したことを周知した。

いちのみやだんちじどう がつごう
一宮団地児童センターだより13月号
2024年2月20日発行

まだまだ寒い日が続いていますが、子どもたちは遊戯室で、バドミントンやドッチビーで盛り上がっています。また和室やおやつ室では、ブロックやボードゲームでそれぞれ楽しんでいます。乾燥が気になる時期ですが、引き続き感染症や風邪への対策をしっかりしながら、子どもたちと元気に過ごしていきたいです。

行事記録

1月13日(土)ふれあいデー
みんなで餅つき
たくさんの方に参加していただき、大盛況のふれあいデーとなりました。
まずはなぞなぞなどのクイズ大会をしました。
その後、みんなで餅つきをし、おいしいお餅を食べました。たくさんのお餅を食べられて嬉しそうなお姿が見られました。

1月19日(金)すくすくデー
今月のすくすくデーは、民生児童委員さんに来ていただき、離乳の作り方を教えていただきました。13組の親子に参加いただき、にぎやかなすくすくデーとなりました。
帰りは民生児童委員さんから折り紙で作ったコマをプレゼントしてもらいました。

～三重県産の木材を使った製品を設置しました～
この冬、みえ森と緑の県民税(※)を活用して、屋外のベンチや幼児向けのおまごてテーブルセットが新しくなりました。やわらかい木のぬくもりを感じながら、児童センターでの時間を過ごしてもらえたらと思います。ぜひご利用ください。
※「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるために導入された三重県独自の県民税

たまがきじどう 2024.3.20
玉垣児童センターニュース

※開館時間 午前9:00～午後6:00(4月～9月)
※休館日 日曜日・月曜日(休日の場合は翌火曜日も)・祝日
(5月3日から5月6日まで休館です)

～三重県産の木材を使った製品を設置しました～

この冬、みえ森と緑の県民税(※)を活用して、図書室の本棚や子どもたちが自由に使える作業用の机などが新しくなりました。やわらかい木のぬくもりを感じながら、児童センターでの時間を過ごしてもらえたらと思います。ぜひご利用ください。
※「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるために導入された三重県独自の県民税

わすれものの確認をお願いします
水筒や靴下などの忘れ物をお預かりしています。お心当たりの方は、確認をしにきてください。4月30日に片付けます。

センター利用の登録をお願いします
利用者のみなさんが安全に安心して利用できるよう、児童センター利用にあたり登録をお願いしています。
春休みから来館したみなさんに登録用紙を配布させていただきますので、**必要事項をご記入いただき児童センターにお持ちください**。また、ご家庭でもお子さんが児童センターで何をしたいか話し合うきっかけになればと思います。よろしくお願いいたします。
児童センター TEL・FAX 059-382-5883

いちのみやだんちじどう がつごう
一宮団地児童センターだより11月号
2023年10月20日発行

だんだん涼しい日が続く、秋らしく過ごしやすい毎日ですね。暑かった夏休み中はなかなか運動不足ができてしまったので、子どもたちはバスケットボールをしたり、虫取りをしたりと、外の遊びを満喫しています。

おしらせ
11月10日(金)は
ぬくフエスの準備のため
午後3時に閉館します。

行事記録

9月15日(金)
すくすくデー
今月は育児アドバイザーの神崎先生に子育てのコツについてのお話をいただきました。
その後、お子さんは滑り台やトランポリンなど遊具遊びを楽しみました。のびのびと身体を動かして過ごしていました。

9月17日(日)
HIP HOP ～敬老祭出演～
KIDS LOVE DANCERSのメンバーが敬老祭に出演し、2曲を披露しました。
今年度から練習に参加している子どもも多く、初めての発表に緊張していましたが、たくさんの方の拍手をいただき、とても嬉しかったです。

9月30日(土)ふれあいデー
工作をしよう！～木工教室～
みえ森と緑の県民税市町交付金事業として、木工教室を行いました。レーシングカーとヘリコプターとビルドアーから1つ遊び、息を張り、組み立てました。オリジナルの素敵な車が出来上がりました。作品は、一宮市民館の文化祭で展示されます。

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	児童センター等木製品設置及び森林環境教育推進事業
-----	--------------------------

7の(2). その他資料

●市広報 3/5号 情報館掲載



情報館 5 みえ森と緑の県民税事業
農林水産課 ☎382-9017 ☎382-7610
✉norin@city.suzuka.lg.jp



みんなで育めるみえの森林づくり
みえ森と緑の県民税

令和5年度みえ森と緑の県民税を活用した事業についてお知らせします

本市では、平成26年4月から導入された「みえ森と緑の県民税」を活用し、「災害に強い森林づくり」と「県民全員で森林を支える社会づくり」に取り組んでいます。

市内で実施した事業を紹介します

令和5年度は、「みえ森と緑の県民税」を活用し、市内で10事業を実施しました。

●里山保全ボランティア育成事業
人材育成のため、「里山保全基礎講座」を開講しました。また、多くの方が里山保全に興味を持ち、活動に参加してもらうために「里山保全体験」を実施し、市民参加を促しました。



●森と緑の生涯学習講座
市内の公民館で、小学生を中心とした子どもと保護者を対象に、間伐材を利用した木工工作、フィールドワーク、木のおもちゃに触れるなどの森林環境学習を行いました。



●ふるさとの木(名木古木)保存活用事業補助事業
ふるさとの木(市内の天然記念物や地域緑化のシンボルとなっている樹木・樹木群)の所有者などに対して、樹木診断や樹木治療などを実施するための経費を補助しました。



●子育て支援センターりんりん木製玩具および木製備品設置事業
三重県産木材を使用した玩具、椅子、ベビーベッド、テーブル、くつ箱などを施設内に設置し、木育の場として整備して「みえ森林教育ステーション」として認定されました。



●公立保育所および公立幼稚園等設置および木育推進事業
三重県産木材を使用した棚や下駄箱などを保育所と幼稚園へ設置し、木育の場として整備しました。



●緑と人を育む長太の大楠再生プロジェクト
長太の大楠の樹勢回復を目的として、樹木治療や土壌改良などを行いました。



●児童センター等木製品設置および森林環境教育推進事業
児童センターおよび男女共同参画センターの「こどもの部屋」に三重県産木材を使用した玩具・遊具・棚などを設置し、木育・森林環境教育を推進する場を整備しました。



●緑に親しむ記念樹配布事業
新築や新入学などの節目を迎えた市民に対して、本市で生産された植木を記念樹として配布しました。



●暮らしを守る森林保全事業
海岸の松林で、枯木の伐倒駆除および過去に植樹した松の間伐並びに病害虫防除を行いました。



●災害からライフラインを守る事前伐採事業
台風などが原因の倒木により、過去に停電被害があった箇所について、倒木するとライフラインを寸断する可能性がある樹木を事前に伐採しました。



令和6年度も引き続き「みえ森と緑の県民税」を活用し、地域の実情に応じて創意工夫した森林づくりや県と連携した災害に強い森林づくりなどの施策を実施していきます。なお、国から課与される「森林創価増進税」とは、使途をすみ分けた上で双方を有効に活用しています。

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
9	ふるさとの木（名木古木）保存活用事業補助事業				
事 業 費	2,680,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,680,000		

1. 事業の目的

衰退の兆候が見られる市内にある天然記念物や地域緑化のシンボルとなっている樹木について、所有者（地元住民）自身が主体的に樹木健康診断や樹勢回復等を行うことで、地域の森林及び樹木とふれあう場を創出することを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

ふるさとの木（市内の天然記念物や地域緑化のシンボルとなっている樹木及び樹木群）の所有者等が樹木診断及び樹木治療等を実施するための経費に対し補助することで、ふるさとの木の所有者等の主体的に保存する行動につなげる。また、地域のシンボルとして地域の様々な世代が地域の森林や樹木とふれあう場を提供し、地域全体で緑を守り育てる意識を醸成し、地域の宝として、大切に活動へとつなげていく。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

ふるさとの木の所有者(西玉垣町自治会)

【実施箇所及び箇所数】

3か所（地蔵大マツ、稻生山の躑躅、アイナシ）

【事業量】

3か所

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

事業実施当日は、所有者や地元の方を含め、多くの方が見守る中実施された。本樹木を中心とした本事業を実施するにあたり、市政記者クラブへ情報提供したことで、新聞やケーブルテレビ局による取材もあり、本樹木の地域における重要性を再確認するとともに、所有者及び地元の方に対し、樹木医から本樹木の状況や森林の持つ多面的機能についても説明し、学ぶ機会を提供することができた。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

各種メディアへの情報発信を行い、広く県民に関心をもってもらう。

【新たな対策・視点及び改善点】

倒壊の危機を完全に回避するため、次年度に支柱の設置を検討している。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
9	ふるさとの木（名木古木）保存活用事業補助事業				
事 業 費	2,680,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,680,000		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	自治会等	3/4以内	2,000,000	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

地蔵大マツは、所有者である西玉垣町自治会が、積極的に樹勢回復事業に関わってきたが、近年枝の折れが連続して発生し、枝を支える強度の低下等が懸念され、ケーブリングや枝の切断等の処置をしてきた。

しかし、地蔵大マツの自重により、東西に大きな亀裂が自然発生し、樹体に傾斜が生じ、倒壊の危機となっている。亀裂部の幹にラッシングベルトを巻き応急処置をしているが、現状の樹形では重心が高く亀裂部分にかかる負担が大きいことから、樹木上部を伐採することにより樹高を低くし、重心を下げ、樹木のバランスや被圧状況を考慮し、下方の枝葉の剪定も併せて行うことにより、倒壊による危険回避及び保護を図ることが必要と判断した。この理由により選定した。

稲生山の躑躅は、ツツジの樹勢衰弱の要因となっている日照障害木を伐採し、躑躅の生育環境の改善整備が必要であり、山林管理及び倒木による線路への被害を防止する必要がある。以前から地元から要望があり、近年の気候変動や台風の影響等から倒木の可能性が高く、線路への影響等から緊急性が高いと判断し、以上の理由により選定した。

アイナシは、赤星病菌、胴枯病菌による被害、また、アブラムシ類、シンクイムシ類による被害が顕著に表れ、樹勢が衰え、枯れ幹、枯れ枝が至るところで見受けられるようになったため、複数回の消毒、複数の薬剤を使い病害虫の防除を行う必要がある。応急措置として枯れた枝は病害虫のこれ以上の浸潤を防ぐため、樹勢回復のために必要箇所の剪定を行い、さらに現在設置している支柱が樹形の変容に伴い機能していない部分があるので、支柱の架け替えを至急で実施する必要があると判断し、以上の理由により選定した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	鈴鹿市民
期待する波及効果	鈴鹿市の誇る樹木を、市民から県民へと口伝などで波及することが期待できる。

【公的関与の必要性】

樹木所有者の負担のみで、公財産でもある指定文化財を保護することは、経済的にも人的にも非常に困難であり、公的関与は必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

日常管理を含め、所有者が管理していく。なお、県指定天然記念物であることから、転用しない。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり		市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
9	ふるさとの木（名木古木）保存活用事業補助事業				
事 業 費	2,680,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,680,000		

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
施工看板に掲示	実施前・中・後	敷地内看板に、県民税事業であることを記載し、周知した。
その他	実施前・中・後	所有者である自治会の役員に対し、実施前及び実施中に本事業が県民税を活用し、実施していることを説明した。
その他	実施前・中・後	事業実施前に市政記者クラブに本事業の実施について記者提供した。
広報誌掲載	実施後	広報すずか（ミニ特集）に本市の県民税活用（全般）を掲載し、市民に周知

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市
事業名	ふるさとの木（名木古木）保存活用事業補助事業		

4. 効率性：主な経費内訳

地蔵大松

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
樹勢回復作業	施工費	式	1.00	600,000	600,000	
樹勢回復作業	樹木医費用	式	1.00	250,000	250,000	
樹勢回復作業	諸経費	式	1.00	170,000	170,000	
		小計			1,020,000	
		消費税及び地方消費税相当額			102,000	
		合計			1,122,000	
樹勢回復作業	補助事業				841,000	合計額の4分の3以内

稻生山の躑躅

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
伐採作業	伐採作業	式	1.00	1,600,000	1,600,000	
伐採作業	諸経費	式	1.00	333,030	333,030	
		小計			1,933,030	
		消費税及び地方消費税相当額			193,303	
		合計			2,126,333	
伐採作業	補助事業				1,587,000	合計額の4分の3以内

アイナシ

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
樹勢回復作業	薬剤散布	式	1.00	60,000	60,000	
樹勢回復作業	不要枝除去作業	式	1.00	100,000	100,000	
樹勢回復作業	支柱設置	式	1.00	100,000	100,000	
樹勢回復作業	諸経費	式	1.00	52,000	52,000	
	値引き	式	1.00	(5,636)	(5,636)	
		小計			306,364	
		消費税及び地方消費税相当額			30,636	
		合計			337,000	
樹勢回復作業	補助事業				252,000	合計額の4分の3以内

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	ふるさとの木（名木古木）保存活用事業補助事業
-----	------------------------

7の（1）. 写真



写真1
地藏大マツ 全景（作業前）



写真2
樹木の伐採作業



写真3
県民税の表示



写真4
地藏大マツ 全景（作業後）



写真5



写真6

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	ふるさとの木（名木古木）保存活用事業補助事業
-----	------------------------

7の（1）. 写真



写真1
樹木の伐採作業

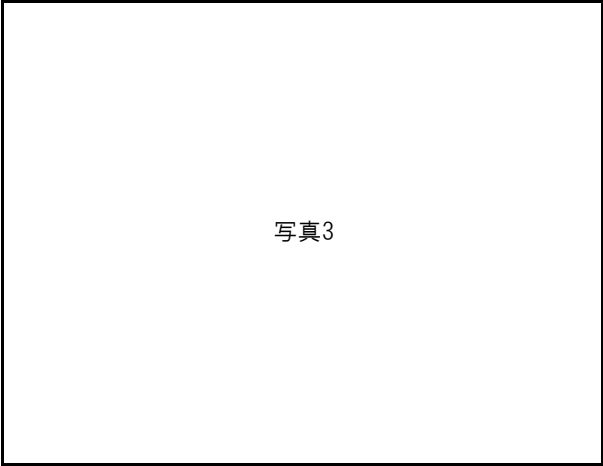


写真3

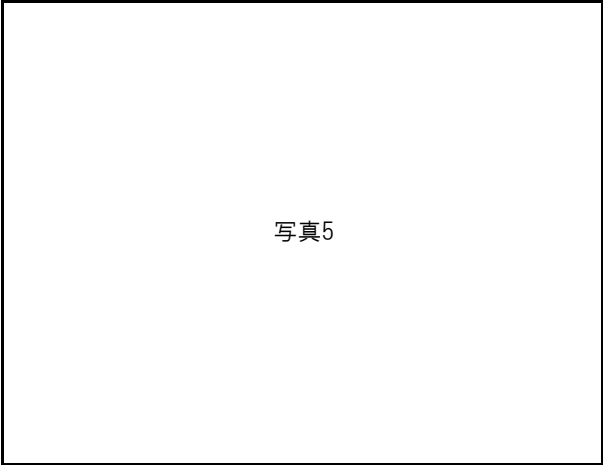


写真5

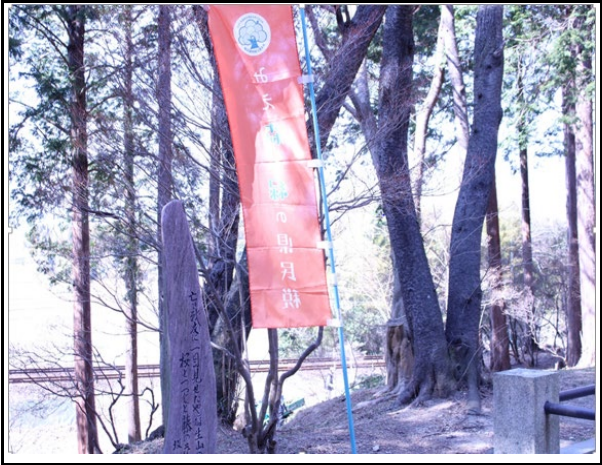


写真2
県民税の表示

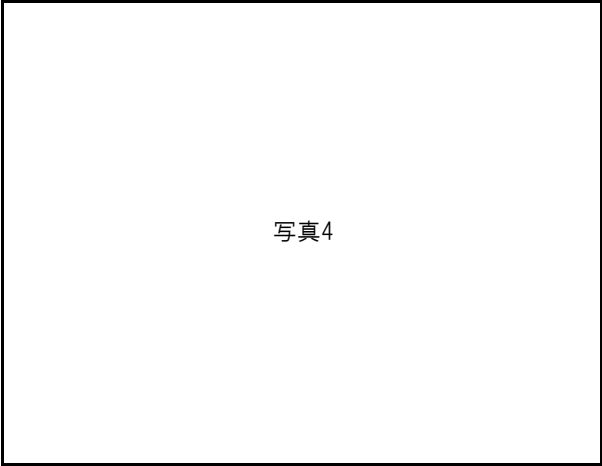


写真4

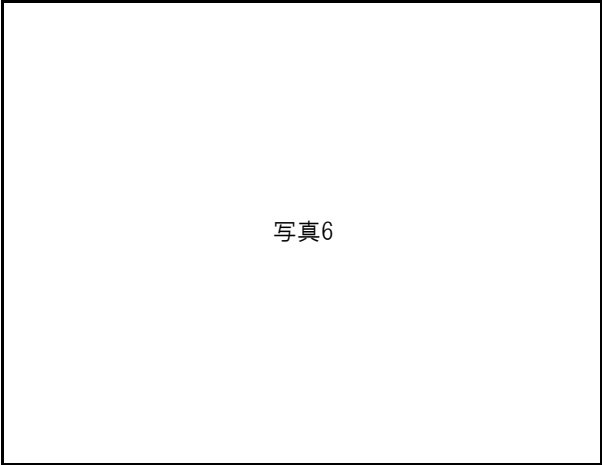


写真6

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	ふるさとの木（名木古木）保存活用事業補助事業
-----	------------------------

7の（1）. 写真



写真1

樹木の伐採作業及び県民税の表示



写真2

樹木の消毒作業



写真3

支柱設置作業

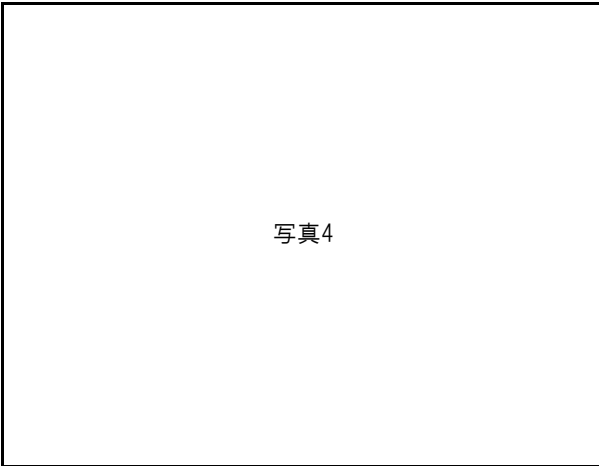


写真4

写真4



写真5

写真5



写真6

写真6

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	ふるさとの木（名木古木）保存活用事業補助事業
-----	------------------------

7 の（2）. その他資料

●市広報 3/5号 情報館掲載

**情報館 5 みえ森と緑の県民税事業**
農林水産課 ☎382-9017 ☎382-7610
✉norin@city.suzuka.lg.jp



みんなで作るみえの森づくり
みえ森と緑の県民税

令和5年度みえ森と緑の県民税を活用した事業についてお知らせします

本市では、平成26年4月から導入された「みえ森と緑の県民税」を活用し、「災害に強い森林づくり」と「県民全員で森林を支える社会づくり」に取り組んでいます。

市内で実施した事業を紹介します

令和5年度は、「みえ森と緑の県民税」を活用し、市内で10事業を実施しました。

**●里山保全ボランティア育成事業**
人材育成のため、「里山保全基礎講座」を開設しました。また、多くの方が里山保全に興味を持ち、活動に参加してもらうために「里山保全体験」を実施し、市民参加を促しました。

**●森と緑の生涯学習講座**
市内の公民館で、小学生を中心とした子どもと保護者を対象に、間伐材を利用した木工工作、フィールドワーク、木のおもちゃに触れるなどの森林環境学習を行いました。

**●ふるさとの木（名木古木）保存活用事業補助事業**
ふるさとの木（市内の天然記念物や地域緑化のシンボルとなっている樹木・樹木群）の所有者などに対して、樹木診断や樹木治療などを実施するための経費を補助しました。

**●子育て支援センターりんりん木製玩具および木製備品設置事業**
三重県産木材を使用した玩具、椅子、ベビーベッド、テーブル、くつ箱などを施設内に設置し、木育の場として整備して「みえ森林教育ステーション」として認定されました。

**●公立保育所および公立幼稚園等設置および木育推進事業**
三重県産木材を使用した棚や下駄箱などを保育所と幼稚園へ設置し、木育の場として整備しました。

**●緑と人を育む長太の大楠再生プロジェクト**
長太の大楠の樹勢回復を目的として、樹木治療や土壌改良などを行いました。

**●児童センター等木製品設置および森林環境教育推進事業**
児童センターおよび男女共同参画センターの「こどもの部屋」に三重県産木材を使用した玩具・遊具・棚などを設置し、木育・森林環境教育を推進する場を整備しました。

**●緑に親しむ記念樹配布事業**
新築や新入学などの節目を迎えた市民に対して、本市で生産された植木を記念樹として配布しました。

**●暮らしを守る森林保全事業**
海岸の松林で、枯木の伐倒駆除および過去に植樹した松の間伐並びに病害虫防除を行いました。

**●災害からライフラインを守る事前伐採事業**
台風などが原因の倒木により、過去に停電被害があった箇所について、倒木するとライフラインを寸断する可能性がある樹木を事前に伐採しました。

令和6年度も、引き続き「みえ森と緑の県民税」を活用し、地域の実情に応じて創意工夫した森林づくりや県と連携した災害に強い森林づくりなどの施策を実施していきます。なお、国から課与される「森林環境税」とは、使金をすみ分けた上で双方を有効に活用しています。

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
10	緑と人を育む長太の大楠再生プロジェクト				
事 業 費	1,320,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,320,000		

1. 事業の目的

地域緑化のシンボルとなっている長太の大楠（なごのおおくす）は、近年、周辺環境の変化や塩害、落雷等の影響により衰退の兆候が見られてきた。地域住民から愛され、市のランドマークでもある長太の大楠の樹木健康診断や樹勢回復等を行うことで、身近な樹木に対する関心をさらに高め、将来にわたって地域で森林環境教育を行う学びの場となることを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

長太の大楠に樹木診断及び樹木治療等を実施することで、地域の様々な世代が地域の樹木に関心を持ち、地域全体で緑を守り育てる意識を醸成し、保全する活動へとつなげていく。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

鈴鹿市

【実施個所及び箇所数】

1か所

【事業量】

1か所

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

本樹木を中心とした本事業を実施するにあたり、市政記者クラブへ情報提供したことで、新聞による取材もあり、本樹木の地域における重要性を再確認できた。また、地域の方に対し、樹木医から本樹木の状況について説明し、学ぶ機会を提供することができた。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

本事業を実施する前に、地域の小学校で、地元保存会と樹木医による樹木環境教育を行い、本樹木に対する関心を高めることができた。

【新たな対策・視点及び改善点】

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり		市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
10	緑と人を育む長太の大楠再生プロジェクト				
事 業 費	1,320,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,320,000		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	活動団体	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

高い専門性をもった樹木医による適切な樹勢回復措置が必要であるため、委託事業は適切である。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	樹木の保存活用にかかる取組に関わった地域の児童・生徒並びに地域住民
期待する波及効果	当該樹木を地域の宝として守ろうとする意識を高めることができる。

【公的関与の必要性】

市が管理団体に指定されているため適切

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

日常管理については、保存会が管理していく。なお、県指定天然記念物であることから、転用されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	敷地内にのぼりを設置し、県民税事業であることを記載し、周知した。
その他	実施前・中・後	事業実施前に市政記者クラブに本事業の実施について記者提供し、当日の取材を受け、後日掲載された。
広報誌掲載	実施後	広報すずか（ミニ特集）に本市の県民税活用（全般）を掲載し、市民に周知

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市
事業名	緑と人を育む長太の大楠再生プロジェクト		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
土壌改良		回	1.00	722,000	722,000	
危険木伐採	クレーン車 高所作業車使用	回	1.00	598,000	598,000	
		合計			1,320,000	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	緑と人を育む長太の大楠再生プロジェクト
-----	---------------------

7の(1). 写真



写真1

土壌改良の完成検査時



写真2

県民税の表示(枯枝切除)

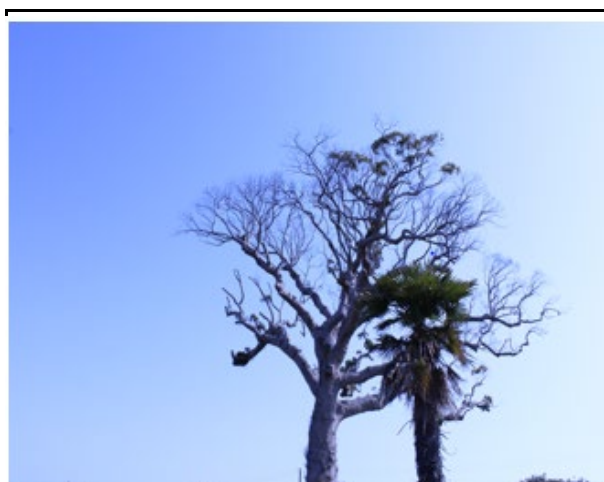


写真3

施工完了後

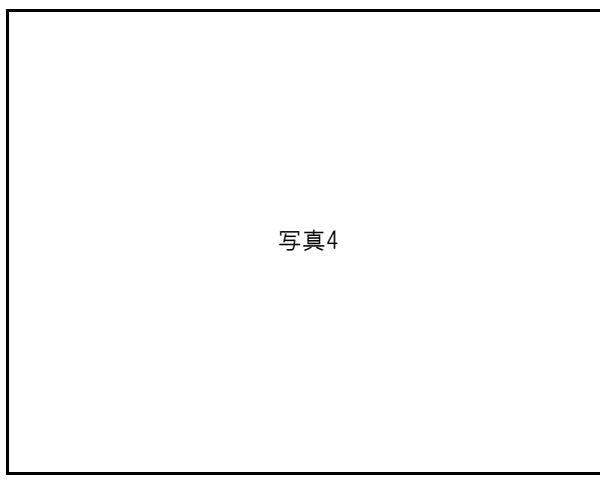


写真4

写真4



写真5



写真6

写真5

写真6

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	鈴鹿市	新規・継続の別	継続
事業名	緑と人を育む長太の大楠再生プロジェクト				

7 の（2）. その他資料

●市広報 3/5号 情報館掲載



情報館 ⑤ みえ森と緑の県民税事業
農林水産課 ☎382-9017 📠382-7610
✉norin@city.suzuka.lg.jp



みんなで育めるみえの森林づくり
みえ森と緑の県民税

令和5年度みえ森と緑の県民税を活用した事業についてお知らせします

本市では、平成26年4月から導入された「みえ森と緑の県民税」を活用し、「災害に強い森林づくり」と「県民全員で森林を支える社会づくり」に取り組んでいます。

市内で実施した事業を紹介します

令和5年度は、「みえ森と緑の県民税」を活用し、市内で10事業を実施しました。

●里山保全ボランティア育成事業
人材育成のため、「里山保全基礎講座」を開設しました。また、多くの方が里山保全に興味を持ち、活動に参加してもらうために「里山保全体験」を実施し、市民参加を促しました。



●森と緑の生涯学習講座
市内の公民館で、小学生を中心とした子どもと保護者を対象に、間伐材を利用した木工工作、フィールドワーク、木のおもちゃに触れるなどの森林環境学習を行いました。



●ふるさとの木(名木古木)保存活用事業補助事業
ふるさとの木(市内の天然記念物や地域緑化のシンボルとなっている樹木・樹木群)の所有者などに対して、樹木診断や樹木治療などを実施するための経費を補助しました。



●子育て支援センターりんりん木製玩具および木製備品設置事業
三重県産木材を使用した玩具、椅子、ベビーベッド、テーブル、くつ箱などを施設内に設置し、木育の場として整備して「みえ森林教育ステーション」として認定されました。



●公立保育所および公立幼稚園等設置および木育推進事業
三重県産木材を使用した棚や下駄箱などを保育所と幼稚園へ設置し、木育の場として整備しました。



●緑と人を育む長太の大楠再生プロジェクト
長太の大楠の樹勢回復を目的として、樹木治療や土壌改良などを行いました。



●児童センター等木製品設置および森林環境教育推進事業
児童センターおよび男女共同参画センターの「こどもの部屋」に三重県産木材を使用した玩具・遊具・棚などを設置し、木育・森林環境教育を推進する場を整備しました。



●緑に親しむ記念樹配布事業
新築や新入学などの節目を迎えた市民に対して、本市で生産された植木を記念樹として配布しました。



●暮らしを守る森林保全事業
海岸の松林で、枯木の伐倒駆除および過去に植樹した松の間伐並びに病害虫防除を行いました。



●災害からライフラインを守る事前伐採事業
台風などが原因の倒木により、過去に停電被害があった箇所について、倒木するとライフラインを寸断する可能性がある樹木を事前に伐採しました。



令和6年度も引き続き「みえ森と緑の県民税」を活用し、地域の実情に応じて創意工夫した森林づくりや県と連携した災害に強い森林づくりなどの施策を実施していきます。なお、国から課与される「森林創出税」とは、使途をすみ分けた上で双方を有効に活用しています。

資料 2－2

龜 山 市

令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報「令和 5 年度版三重県市町要覧」「令和 4 年度版森林・林業統計書」による

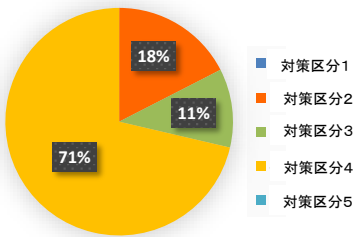
市町名	亀山市	三重県
人口（人）	49,553	1,731,863
年少人口割合（％）＊ 1	12.4%	11.6%
森林面積(ha)	12,012.75	372,030.08
民有林面積(ha)＊ 2	11,659.13	348,561.87
森林率(%)	63.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊ 3	13.4	10.6

＊ 1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊ 2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊ 3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分 1	対策区分 2	対策区分 3	対策区分 4	対策区分 5	基金積立
1	2	集落周辺の森林整備事業（危険木等伐採）	2,192,190	2,000,000		2,000,000				
2	3	森と木材のふれあい事業（森の講座）	756,470	281,000			281,000			
3	3	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）	1,000,000	1,000,000			1,000,000			
4	4	森林環境教育・木育が行える場の整備事業（総合保健福祉センターあいあい）	3,205,400	3,000,000				3,000,000		
5	4	森林環境教育・木育が行える場の整備事業（亀山幼稚園、井田川幼稚園、みずは台幼稚園）	2,970,000	2,700,000				2,700,000		
6	4	森林環境教育・木育が行える場の整備事業（森林公園やまびこ）	509,608	500,000				500,000		
7	4	森と木材のふれあい事業（木とふれあう）	1,992,100	1,968,000				1,968,000		
計			12,625,768	11,449,000	0	2,000,000	1,281,000	8,168,000	0	0

3. 令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量 (ha・m)	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針
本市は、北勢地域随一の林業地帯として古くからスギ・ヒノキを主とした人工林の整備が進められ、良質な木材の生産・供給が行われてきました。しかし、林業を取り巻く情勢は厳しく、採算性の悪化、高齢化等による担い手不足のため、放置される森林が増加したことで森林の機能低下が進んでいます。このため、既存の財源を活用し、林業生産活動の支援や地域材を活用した商品を「亀山ブランド」として認定することで森林整備や地域材の利用促進に取り組んでいます。今後も、森林の有する様々な働きを発揮させるための森林整備や地域材の利用を促進するためには、市民の森林に対する理解と関心を深めることが大切です。このことから、県民税を活用し、森林や木材について学び、ふれあい、親しむ環境をつくることや、暮らしに身近な森林を整備を進め、地域の実生活環境の向上を図ります。
事業実施により期待される効果
様々な事業に取り組み、森林や木材について学び、ふれあい、親しむ環境をつくることで市民の森林に対する理解と関心が深まるとともに、地域の危険木やライフラインが寸断される恐れのある樹木を伐採することで市民の暮らしの安全・安心に大きく寄与できる。協議会がコロナ禍の中、工夫を凝らしイベントを開催することで幅広い年代の市民に森林とふれあう場を提供できる。更に、保育園・認定こども園で木育教室を開催することで園児たちに木材に触れる機会が作れ、豊かな心が育まれる。森林公園やまびこの施設整備等を行うことで、子どもから大人まで安全・安心して施設を利用することができることと、森林や木にふれあう場や緑に親しむ環境を提供できる。
情報発信への取組
・ 事業実施時に看板やのぼり旗の掲示 ・ 事業実施時にパンフレットや啓発物品を配付し県民税の説明を行う ・ 啓発物品を活用し、園児だけでなく保護者にも周知を図る ・ イベント時に県民税ロゴマークを表示したスタッフベストを着用し活動 ・ 導入木製品に県民税ロゴマークの焼印やシールを添付し、事業終了後も市民の目に触れ県民税を周知できるようにする

第 1 1 号様式（その 1）（参考資料）

令和 5 年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	① 意向調査の準備作業	24,915	24,915
2	② 意向調査	4,367	4,367
3	③ 私有林整備	21,428	21,428
4	⑩ 専門員の雇用	3,879	3,879
5	⑰ 基金積立（森林整備等）	607	607
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	55,197	55,197

【記載要領】

ア、事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備(財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他(森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他(人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他(木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立(森林整備等)
⑱ 基金積立(人材育成等)
⑲ 基金積立(木材利用等)
⑳ 基金積立(執行残額等)

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	集落周辺の森林整備事業（危険木等伐採）				
事 業 費	2,192,190 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,000,000		192,190

1. 事業の目的

自治会や市民から公共施設周辺の倒木や落枝により通行者に被害を及ぼす恐れのある危険木の除去や道路に覆いかぶさった枝葉の剪定などの要望が近年多くあることから、伐採や剪定により除去することで市民の安全・安心に寄与する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

公共施設周辺の危険木や道路上に覆いかぶさった枝葉を伐採、剪定する。伐採した危険木は放置せずチップ工場へ搬出し木質バイオマスの燃料として活用する。また、伐採後は天然更新または、適宜伐採するなど多様な広葉樹林帯を形成し緑化に努める。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

亀山市

【実施個所及び箇所数】

1箇所（市道野村楠平尾線）

【事業量】

危険木伐採作業48時間 整備面積約0.020ha

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

地域の生活環境及び通行時の安全・安心が確保されることと、回覧文書にて県民税をPRすることで集落周辺の森林整備をすることの大切さを学ぶ。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

自治会等からの要望を基に、特に危険度の高いところから優先的に伐採を実施することで効果的に事業を実施している。

【新たな対策・視点及び改善点】

自治会等からの要望を基に危険度の高いところから実施。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	集落周辺の森林整備事業（危険木等伐採）				
事 業 費	2,192,190 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,000,000		192,190

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	建設業者	補助事業ではない		「公園・緑地の維持管理と積算」財団法人経済調査会を基に伐採の積算歩掛り。入札により、落札業者と単価契約を締結。

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

危険木の伐採作業は高度の技術を要するため、伐採作業に長けた地元建設業者による入札を実施し、落札業者と単価契約を締結した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	3地区（540世帯、950人）
期待する波及効果	地域の生活環境及び通行時の安全・安心が確保される。

【公的関与の必要性】

各施設の管理者は市であることから公的関与が必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

転用が想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
施工看板に掲示	実施中	危険木等伐採実施箇所にて県民税をPRする。
回覧板・掲示板	実施前	回覧文書にて県民税をPRする。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

周辺住民から感謝されるとともに、今後も継続して適正な維持管理をしてほしい旨の要望があった。

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市
事業名	集落周辺の森林整備事業（危険木等伐採）		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
市道野村楠平尾線		時間	48.00	41,518.8	1,992,900	
		小計			1,992,900	
		消費税及び地方税相当額			199,290	
		合計			2,192,190	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	集落周辺の森林整備事業（危険木等伐採）
-----	---------------------

7の(1). 写真



写真1

市道野村楠平尾線その1（伐採前）



写真2

市道野村楠平尾線その1（伐採後）



写真3

市道野村楠平尾線その2（伐採前）



写真4

市道野村楠平尾線その2（伐採後）



写真5

市道野村楠平尾線その3（伐採前）



写真6

市道野村楠平尾線その3（伐採後）

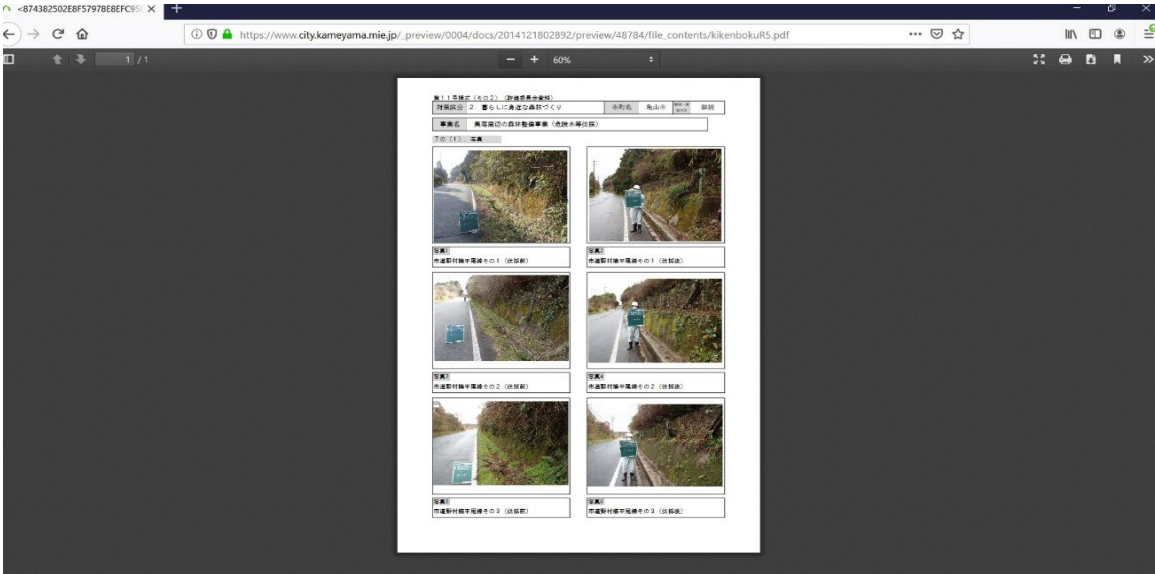
第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	集落周辺の森林整備事業（危険木等伐採）
-----	---------------------

7の（2）. その他資料

亀山市HP掲載



第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
2	森と木材のふれあい事業（森の講座）				
事 業 費	756,470 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			281,000		475,470

1. 事業の目的					
森林とふれあいながら、森林や緑を大切に思い、育む人づくりのため、様々な市民に、森林や木材について学び・ふれあう機会を提供し森林と木材と市民との関係を深める。					
2. 事業実績概要					
【事業内容】 森の整備に必要なチェーンソーの取扱い等を学べる講座や、木にふれあえる森の講座を開催し、森林と木材と市民との関係を深める。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 亀山市 【実施個所及び箇所数】 森の講座の開催 2回（亀山森林公園やまびこ、林業総合センター） 【事業量】 森の講座の開催 2回（3日）参加者数 延べ36人					
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】					
【事業実施により期待される効果】 森の講座の開催により、チェーンソーの取扱いやメンテナンスの方法等の基礎を学ぶことで地域の里山を保全していく人が増える。また、木とふれあう講座の開催により、子ども達とその保護者らが森林や緑の大切さに気づく機会を創出する。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 大人向けにはチェーンソー講座を講座を開催し、それに対となるように家族向けにはノコギリを使った木工講座を開催。 【新たな対策・視点及び改善点】 大人向けのチェーンソー講座と、家族向けの森の講座を開催することにより、幅広い年齢対象者に対して、森林と木材と市民との関係を深めることができる。					

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	亀山市	新規・継続の別	新規
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
2	森と木材のふれあい事業（森の講座）				
事 業 費	756,470 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			281,000		475,470

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	活動団体	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

森の整備に必要なチェーンソーの取扱い等を学べる講座や、木にふれあえる森の講座を開講できる活動団体を選定。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	参加者 延べ36名
期待する波及効果	参加者がチェーンソー等の道具や木材の扱い方を習得することができる。 参加者が木に触れ合うことで森林や緑の大切さを実感できる。

【公的関与の必要性】

県民税への理解を深め、森を育む人づくりを、広く県民に推進するため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

転用が想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
啓発物品配布	実施中	イベント開催時に参加者に啓発物品（パンフ等を含む）を配布し周知に努める
のぼり設置	実施中	イベント開催時にのぼりを設置

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

チェーンソーの取扱いを学び、山や木の手入れに活かしていきたい。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市
------	-------------	-----	-----

事業名	森と木材のふれあい事業（森の講座）
-----	-------------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
業務委託	チェーンソー講座	式	1.00	498,300	498,300	講師代、資機材料、保険代、資料代等
業務委託	木工工作	式	1.00	258,170	258,170	人件費、資機材料、保険代等
		合計			756,470	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	新規
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と木材のふれあい事業（森の講座）
-----	-------------------

7の(1). 写真



写真1

チェーンソー講座 1日目（座学）



写真2

チェーンソー講座 2日目（実技）



写真3

チェーンソー講座 2日目（実技）



写真4

木工工作（工作体験）



写真5

木工工作（大鋸体験）



写真6

木工工作（森林の話）

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
3	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）				
事 業 費	1,000,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,000,000		

1. 事業の目的

地域の宝である「地域資源（森林等）」をみんなで守るため、多様な主体が森林とふれあう場を創出することで地域の宝を見直し、次世代につなげる。

2. 事業実績概要

【事業内容】

協議会が加太地区、坂下地区や野登地区でイベントや講座などを開催することで、森林や農地、自然保全活動に繋げる。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

鈴鹿川等源流の森林づくり協議会

【実施箇所及び箇所数】

- ・ 亀山市内3地区（加太地区、坂下地区、野登地区）
- ・ いきもの調査クエスト～なつやすみ編～
（野登、白木、関町北部、関町南部、坂下、加太地区）

【事業量】

（イベント） 五感で楽しむ薬樹・薬草（野登地区）

開催日：令和5年6月11日(日) 開催場所：安坂山町地内 参加人数：14組30名

（講座） 野登山山頂の自然環境と歴史文化（野登地区）

開催日：令和5年7月22日(土) 開催場所：安坂山町地内 参加人数：15名

（イベント） 第7回サマーフォレストinやまびこ（加太地区）

開催日：令和5年8月6日（日） 開催場所：森林公園やまびこ 加太川 参加人数：9組25名

（イベント） 3つの森の楽しみ方！（坂下地区）

開催日：令和5年11月26日(日) 開催場所：鈴鹿馬子唄会館、ブレンディの森 参加人数：9組25名

（ネット上アプリ）いきもの調査クエスト～なつやすみ編～

調査期間：令和5年7月15日(土)～8月31日(木) イベント参加人数：98名

期間中の開催場所投稿数：1,059件 発見生物種：466種

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

産・学・民・官にて構成する協議会が森林づくりや地域資源保全活動を行うことから、多種多様な方々が参加することで、参加者が森林の大切さなどをさらに多くの方に伝えられる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

源流3地区で関係性を深めるため、自治会やまちづくり協議会との対話や取り組みを進めた。

【新たな対策・視点及び改善点】

講座で学ぶばかりでなく足を運び手を出す参加を促し、課題や失敗を改善するPDCAサイクルを行い源流域の森林づくりについて具体策を講じていく。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
3	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）				
事 業 費	1,000,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,000,000		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
負担金	活動団体	10/10以内		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

鈴鹿川等源流の森林づくり構想を実現するための事業を実施する鈴鹿川等源流の森林づくり協議会を選定。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	イベント参加者及び各地区の地域住民（193人）
期待する波及効果	参加者が森林の大切さなどを多くの方に伝えられる。

【公的関与の必要性】

森林環境教育・木育に関する取組を広く県民に推進するため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

転用が想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ロゴマーク掲示(シール・プレート等)	実施中	県民税ロゴマークを表示したスタッフベストを着用し活動
啓発物品配布	実施中	イベント開催時に参加者に啓発物品（パンフ等を含む）を配布し周知に努める
のぼり設置	実施中	イベント開催時にのぼりを設置

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

実施した講座では地域の身近な森林が非常に貴重であると知って驚き、イベントでは森林を歩いたり林業技術に関する体験をするなど、一般では得難い体験ができることから、参加者からは継続・発展させてほしいとの声をいただいている。

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市
------	-------------	-----	-----

事業名	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）
-----	-----------------------

4. 効率性：主な経費内訳

亀山市負担金

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
負担金	負担金	式	1.00	1,000,000	1,000,000	
		合計			1,000,000	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と木材のふれあい事業(森林づくり協議会)
-----	-----------------------

7の(1). 写真



写真1

五感で楽しむ薬樹・薬草(雨天メニュー)



写真2

五感で楽しむ薬樹・薬草(雨天メニュー)



写真3

五感で楽しむ薬樹・薬草(茶ノ木染め)



写真4

五感で楽しむ薬樹・薬草(クロモジ茶試飲)

写真5

写真6

写真5

写真6

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と木材のふれあい事業(森林づくり協議会)
-----	-----------------------

7の(1). 写真



写真1

野登山山頂の自然環境と歴史講座

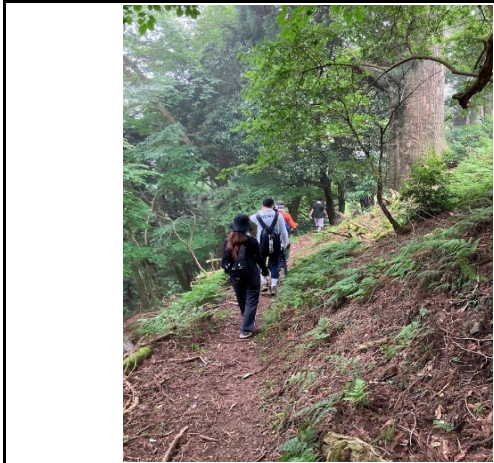


写真2

野登山山頂の自然環境と歴史講座



写真3

野登山山頂の自然環境と歴史講座



写真4

野登山山頂の自然環境と歴史講座

写真5

写真6

写真5

写真6

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と木材のふれあい事業(森林づくり協議会)
-----	-----------------------

7の(1). 写真



写真1

第7回サマーフォレストinやまびこ



写真2

第7回サマーフォレストinやまびこ



写真3

第7回サマーフォレストinやまびこ



写真4

第7回サマーフォレストinやまびこ



写真5

第7回サマーフォレストinやまびこ



写真6

写真6

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）
-----	-----------------------

7の(1). 写真



写真1

3つの森の楽しみ方（森林体験）



写真2

3つの森の楽しみ方（林業体験）



写真3

3つの森の楽しみ方（林業体験）

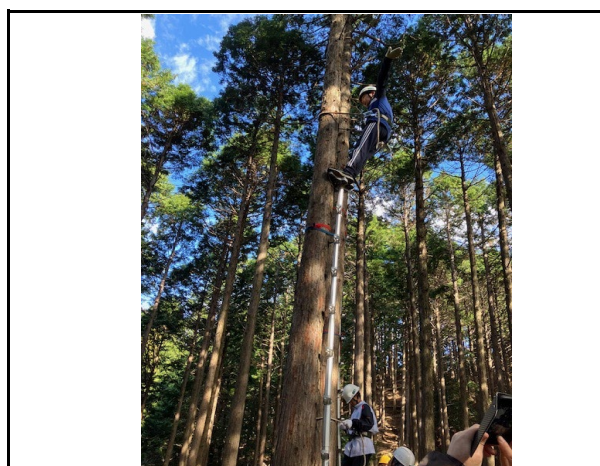


写真4

3つの森の楽しみ方（林業体験）



写真5

3つの森の楽しみ方（木工体験）



写真6

3つの森の楽しみ方

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と木材のふれあい事業(森林づくり協議会)
-----	-----------------------

7の(2). その他資料

鈴鹿川等源流の森林づくり協議会 主催

スマホでかんたん!
いきもの
調査クエスト2
なつやすみ編

くわしくはコチラ
協議会HP

調査期間：令和5年
7月15日(土)
▶8月31日(木)

ミッション：
亀山市にすむ
生き物を見つけよう!

お問い合わせ：亀山市産業環境部生物多様性・獣害対策室内
鈴鹿川等源流の森林づくり協議会事務局

0595-96-8588
seijyuu@city.kameyama.mie.jp

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
4	森林環境教育・木育が行える場の整備事業（総合保健福祉センターあいあい）				
事 業 費	3,205,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,000,000		205,400

1. 事業の目的

総合保健福祉センターあいあいの広場の緑豊かな景観に調和した、木製の温かみある休憩スペースを設け、子どもから大人まで多くの人の交流・憩いの場を提供する。また、日常的に三重県産木材と触れ合う機会をつくり、森林への意識の醸成につなげる。

2. 事業実績概要

【事業内容】

総合保健福祉センターあいあいの広場にある足湯横に東屋を設置する。また、広場内に三重県産材を使用したベンチ（4箇所）を整備する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

亀山市

【実施箇所及び箇所数】

総合保健福祉センターあいあいの広場

【事業量】

東屋（1箇所）、ベンチ（4箇所）

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

敷地内に足湯があり、東屋とベンチを整備することで地域住民の憩いの場、交流の場となることが見込まれ、利用者が木材の持つ温かみや柔らかさを感じるだけでなく、ストレスの緩和やリラックス効果を得るとともに、木に触れることで森林づくりへの意識の醸成につながることが期待できる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

子育て支援施設や子育てサロンに来場する未就学児や保護者の利用時に、県産材に触れ木の持つ温かさや香りを感じ森林への興味を深められるようにする。

【新たな対策・視点及び改善点】

耐久性を維持するため木製のメンテナンスとして3～5年を目途に防腐処理を継続して行っていく必要がある。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
4	森林環境教育・木育が行える場の整備事業（総合保健福祉センターあいあい）				
事 業 費	3,205,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,000,000		205,400

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
工事請負	建設業者	補助事業ではない	—	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

指名競争入札における最低入札価格により決定

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	一般来場者（子育て支援施設利用者等）10～20人/日、 子育てサロン参加者20～30人/月
期待する波及効果	来場者が木製品の良さを多くの人に伝えることで、利用者の増加が見込まれる。

【公的関与の必要性】

市の施設であることから、公的関与が必要。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

確実に子育て支援センターで管理できるよう、完成した木製品に県民税のロゴの焼印を押して管理。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ロゴマーク掲示（シー・プレート等）	実施後	東屋・ベンチにロゴマークを表示

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

県産材に触れ木材の持つ温かみや柔らかさを感じることでリラックスすることができた。

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	亀山市
事業名	森林環境教育・木育が行える場の整備事業（総合保健福祉センターあいあい）		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
工事請負	東屋1棟、ベンチ4個	式	1.00	2,914,000	2,914,000	
	消費税				291,400	
		合計			3,205,400	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林環境教育・木育が行える場の整備事業（総合保健福祉センターあいあい）
-----	-------------------------------------

7の(1). 写真



写真1

東屋：芝生広場に新設



写真2

奥に見える足湯の利用者や芝生広場利用者が休憩のため利用する。



写真3

ベンチ①：遊歩道沿いに設置



写真4

ベンチ②：遊歩道沿いに設置



写真5

ベンチ③：遊歩道沿いに設置



写真6

ベンチ④：遊歩道沿いに設置

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
5	森林環境教育・木育が行える場の整備事業（亀山幼稚園、井田川幼稚園、みずほ台幼稚園）				
事 業 費	2,970,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,700,000		270,000

1. 事業の目的
市内3園（亀山幼稚園、井田川幼稚園、みずほ台幼稚園）において、子どもたちの木育などに活用できるように環境整備し、子どもたちに森林への興味や林業への理解を深める。
2. 事業実績概要
【事業内容】 木製キッズハウスを市内3園の園庭に設置し、子どもたちが木製品に触れ合う機会を創出することで、森林への興味を深めることに寄与する。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 亀山市 【実施個所及び箇所数】 市内2園（亀山幼稚園、みずほ台幼稚園）：整備 市内1園（井田川幼稚園）：修繕整備 【事業量】 市内3園 各1棟
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
【事業実施により期待される効果】 園児が三重県産材を使用した木製キッズハウスを使用することで、木材との触れ合いの機会が創出できる。また、実際に使用することで、木材の性質や特性について実体験できる学びの場になるとともに、三重県の森林への興味や森林の大切さの理解を深めることができる。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 幼稚園3園の園児や保護者の利用時に、県産材に触れ木の持つ温かさや香りを感じ森林への興味を深められるようにする。 【新たな対策・視点及び改善点】 耐久性を維持するため木製のメンテナンスとして3～5年を目途に防腐処理等を継続して行っていく必要がある。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
5	森林環境教育・木育が行える場の整備事業（亀山幼稚園、井田川幼稚園、みずほ台幼稚園）				
事 業 費	2,970,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,700,000		270,000

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
工事請負	建設業者	補助事業ではない	—	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

指名競争入札における最低入札価格により決定

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	亀山幼稚園児32人、井田川幼稚園児46人、みずほ台幼稚園児22人
期待する波及効果	園児の利用を通じて保護者への波及効果が期待できる

【公的関与の必要性】

市の施設であることから、公的関与が必要。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

完成した木製品に県民税のロゴの焼印を押して表示し、市担当課及び幼稚園3園で管理する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
啓発物品配布	実施後	保護者や園児に啓発物品を配付し周知に努める
ロゴマーク掲示(シー・プレート等)	実施後	導入した木製品にロゴマークを表示

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

県産材に触れる機会ができたことにより、遊びを通じて木の良さを子どもたちが体感している。また、完成した木製キッズハウスはプラスチック製品では感じ取ることができない木の温もりや香りを楽しめる。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	亀山市
事業名	森林環境教育・木育が行える場の整備事業（亀山幼稚園、井田川幼稚園、みずほ台幼稚園）		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
工事請負	ログハウス 木造平屋 建て 6.6㎡×3棟	式	1.00	2,700,000	2,700,000	県産材
	消費税				270,000	
		合計			2,970,000	

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林環境教育・木育が行える場の整備事業（亀山幼稚園、井田川幼稚園、みずほ台幼稚園）
-----	---

7 の（1）. 写真



写真1

亀山幼稚園



写真2

井田川幼稚園



写真3

みずほ台幼稚園

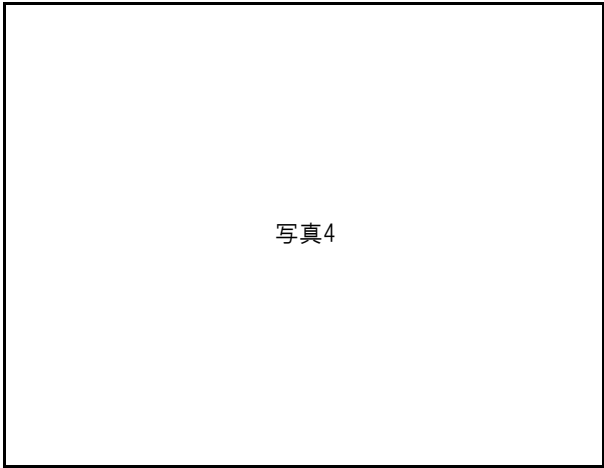


写真4

写真4

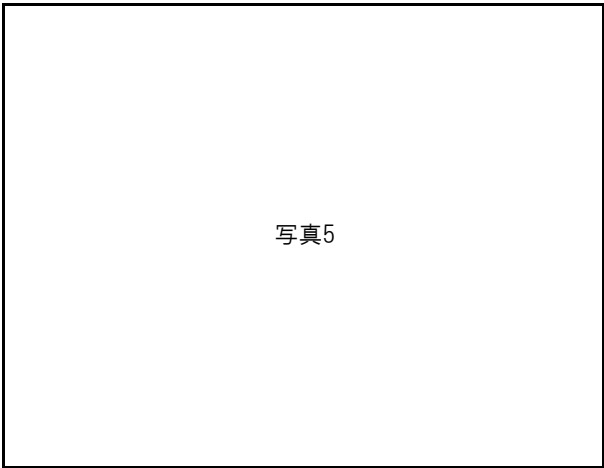


写真5

写真5

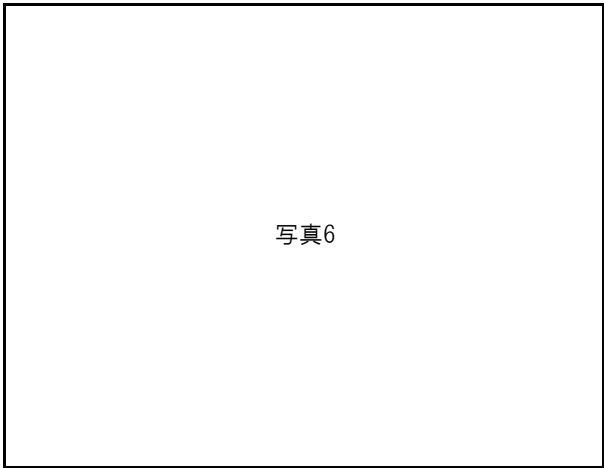


写真6

写真6

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
6	森林環境教育・木育が行える場の整備（森林公園やまびこ）				
事 業 費	509,608 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			500,000		9,608

1. 事業の目的	
森林環境教育や木育を行っている「森林公園やまびこ」の施設整備等を行うことで、森林とふれあい、体感できる学びの場の利用者の増加を図る。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】 森林公園やまびこは、開設後10年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいる。この施設を今後も森林環境教育の場として活用していくために、八橋の補修を行う。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 亀山市 【実施個所及び箇所数】 亀山森林公園やまびこ 【事業量】 八橋補修：約24m	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【事業実施により期待される効果】 子どもから大人まで安全・安心して施設を利用することができる。また、来場者が増加し、森林や木にふれあう場や緑に親しむ環境を引き続き提供できる。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 八橋の補修材に、長期間使用できるように防虫防腐処理済材を導入している。 【新たな対策・視点及び改善点】 防腐処理がされている補修材を更に防腐剤を塗る。	

令和5年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり		市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
6	森林環境教育・木育が行える場の整備（森林公園やまびこ）				
事 業 費	509,608 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			500,000		9,608

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
直営	その他	補助事業ではない		製材業者から補修材を購入

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

県産材の取り扱いのある市内業者を選定
三社見積による最低価格により決定

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	森林づくり協議会によるイベント参加者約50名、加太保育園 園児26名（月1回利用）、その他来場者数 約1,200名
期待する波及効果	公園利用者が公園の魅力を多くの人達に伝えることで利用者の増加が見込まれる。

【公的関与の必要性】

市の自然公園条例に基づく公園のため公的関与は必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

転用が想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ロゴマーク掲示(シール・プレート等)	実施後	八橋にロゴマークを表示
のぼり設置	実施中	事業実施箇所にのぼりを設置

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

公園の利便性が向上したとの声をいただいている。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	亀山市
------	-------------------	-----	-----

事業名	森林環境教育・木育が行える場の整備（森林公園やまびこ）
-----	-----------------------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
消耗品費	防虫防腐処理 桧	本	12.00	3,930	47,160	90×90×4000県産材
消耗品費	防虫防腐処理 桧	本	60.00	2,950	177,000	90×90×3000県産材
消耗品費	防虫防腐処理 杉	本	12.00	3,210	38,520	150×50×4000県産材
		小計			262,680	
		消費税及び地方税相当額			26,268	
		①合計			288,948	
消耗品費	防虫防腐処理 桧	本	68.00	2,950	200,600	90×90×3000県産材
		消費税及び地方税相当額			20,060	
		②合計			220,660	
		①+②合計			509,608	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林環境教育・木育が行える場の整備（森林公園やまびこ）
-----	-----------------------------

7の（1）. 写真



写真1

八橋交換前



写真2

八橋交換後（約24m）



写真3

八橋交換前

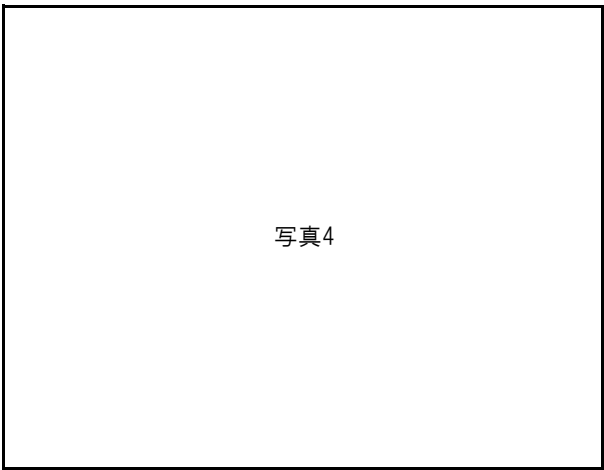


写真4

写真4

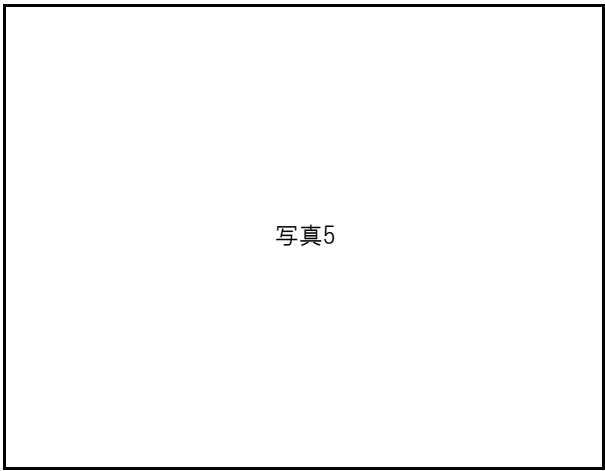


写真5

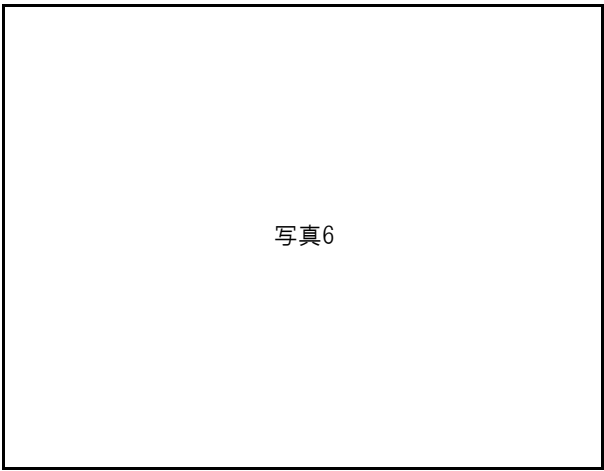


写真6

写真5

写真6

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
7	森と木材のふれあい事業（木とふれあう）				
事 業 費	1,992,100 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,968,000		24,100

1. 事業の目的

園児たちが、日頃から木材や木製品をふれることができる環境をつくり、木への親しみや木の文化への理解を深めて、木材の良さや利用の意義を学ぶ。

2. 事業実績概要

【事業内容】

各園で必要な園児たちが使う木製品の組み立てなどを行い施設に設置する。ドライバーや金づちなどの道具を使う体験を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

亀山市

【実施個所及び箇所数】

市内 2 園（幼稚園、保育園）、子育て支援センター

【事業量】

市内 2 園（みずほ台幼稚園、第二愛護園）、亀山子育て支援センターあいあいっこ、関子育て支援センターあすれっこ

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

園児から保護者まで幅広い年代層に森林の持つ機能や間伐材の有効利用と木材の良さをPRすることができる。園児達が、市産材で作られた木製品などにふれ、木の持つ独特の温かさや香りを感じることで、感性が豊かになる。また、園児を通じて保護者等に事業の主旨が伝わる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

園児や未就学児童及びその保護者に、森林の持つ多面的機能を説明するとともに、園や子育て支援センターから要望のあった木製品のキットを組み立てて、森林を守ることの大切さを体感できるように実施。

【新たな対策・視点及び改善点】

園や子育て支援センターと協議し、木製品を市産材で具現化して子ども達に喜ばれるよう取組む。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり		市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
7	森と木材のふれあい事業（木とふれあう）				
事 業 費	1,992,100 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,968,000		24,100

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	その他	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

市産材を使用して木製品の組み立てキットが製作でき、かつ園児や未就学児に組み立ての説明ができる業者を選定

指名競争入札における最低入札価格により決定

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	園児や未就学児（79人）
期待する波及効果	園児や未就学児を通じて保護者への波及効果が期待できる

【公的関与の必要性】

市立保育園・幼稚園や、市の子育て支援センターで実施するため、公的関与が必要。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

確実に園や子育て支援センターで管理できるよう、完成した木製品に県民税のロゴの焼印を押して管理。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	木とふれあう開催時にのぼりを設置
ロゴマーク掲示(シール・プレート等)	実施後	木製品に県民税のロゴマークを焼印
啓発物品配布	実施後	園児や未就学児、園に県民税の啓発物品やパンフを配布し周知

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

初めて市産材に触れる園児や未就学児がほとんどで、木の香りや手触り、木の持つ温かみを体感することができた。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	亀山市
事業名	森と木材のふれあい事業（木とふれあう）		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
物品購入	ままごとキッチンハウス キット	式	1.00	184,000	184,000	市産材使用
	本棚 + 棚 キット	式	1.00	127,000	127,000	市産材使用
	丸テーブルφ700 キット	式	2.00	95,000	190,000	市産材使用
	ままごとキッチンハウス キット キット	式	1.00	184,000	184,000	市産材使用
	収納棚 キット	式	1.00	143,000	143,000	市産材使用
	屋外ベンチ キット	式	2.00	44,000	88,000	市産材使用
	丸テーブルφ700 キット	式	2.00	95,000	190,000	市産材使用
	子ども椅子 キット	式	8.00	7,000	56,000	市産材使用
	本立て 4 台一式 キット	式	1.00	4,000	40,000	市産材使用
	丸テーブルφ1200 キット	式	1.00	150,000	150,000	市産材使用
	つみき216枚 キット	式	1.00	28,000	28,000	市産材使用
	入卒園用花台 6 台一式 キット	式	1.00	65,000	65,000	市産材使用
	ままごとキッチン キット	式	2.00	127,000	254,000	市産材使用
	ままごと冷蔵庫 キット	式	1.00	112,000	112,000	市産材使用
		小 計			1,811,000	
		消費税及び地方税相当額			181,100	
		合 計			1,992,100	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	亀山市	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と木材のふれあい事業（木とふれあう）
-----	---------------------

7の(1). 写真



写真1

開催の様子(木の話、森の話)



写真2

開催の様子（木工キット組み立て）



写真3

開催の様子（木工キット組み立て）



写真4

開催の様子（木工キット組み立て）



写真5

開催の様子（組み立て後に遊ぶ園児たち）



写真6

開催の様子（市産材）

資料 2－2

いなべ市

令和5年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報「令和 5 年度版三重県市町要覧」「令和 4 年度版森林・林業統計書」による

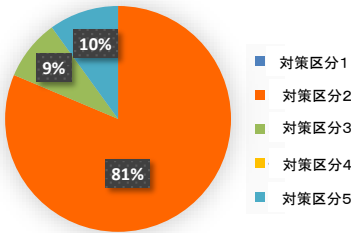
市町名	いなべ市	三重県
人口（人）	44,241	1,731,863
年少人口割合（％）＊ 1	12.1%	11.6%
森林面積(ha)	12,794.45	372,030.08
民有林面積(ha)＊ 2	11,724.89	348,561.87
森林率(%)	58.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊ 3	8.2	10.6

＊ 1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊ 2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

＊ 3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和5年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分 1	対策区分 2	対策区分 3	対策区分 4	対策区分 5	基金積立
1	2	危険木の除去事業	2,547,196	2,547,196		2,547,196				
2	2	里山竹林環境保全支援事業	3,909,930	3,909,930		3,909,930				
3	2	鳥獣害につよい森林整備事業	2,649,490	2,649,490		2,649,490				
4	3	中学校卒業記念品配布事業	914,650	914,650			914,650			
5	3	森林環境教育支援事業	57,000	57,000			57,000			
6	5	自然環境保全事業	2,530,000	1,115,734					1,115,734	
計			12,608,266	11,194,000	0	9,106,616	971,650	0	1,115,734	0

3. 令和5年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量 (ha・m)	事業費 (円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	いなべ市は北部と西部を岐阜県と滋賀県に接し、東部と南部は桑名及び四日市圏域に接している。市域は、北に養老山地、西に鈴鹿山脈をいだし、市のほぼ中央に流れる員弁川を挟んで緑豊かな自然と平野に囲まれている。 緑豊かないなべ市でみえ森と緑の県民税市町交付金を活用して、木のぬくもりに触れる機会を作り、身近な森林について目を向けてもらい、森林・木材の意義、大切さを再認識してもらう。また豊富な森林資源を活用し、自然と調和した環境づくりを目指し、整備が進んでいない森林を整備することにより、安心・安全な暮らしを確保する。
事業実施により期待される効果	間伐材を活用した箸の配布を行うことで、森林資源の活用と日常的に木に触れる機会を作り出すことができ、将来的に持続可能な素材を選べる人づくりに繋がることが期待される。また、住民自らが危険木除去を行うことで、身近な危険木の認識とその除去についての意識向上につながった。里山竹林環境保全支援事業では補助金を交付することで、活動範囲の拡大・活動内容の向上を図ることができ、市内の里山整備促進が期待できる。
情報発信への取組	市HPにおいて、みえ森と緑の県民税の概要を伝えるとともに、本事業の事業効果を写真と共にわかりやすくPRしている。中学校卒業記念品配布事業では、生徒にメッセージカードを配布し、県産材を利用する大切さを伝えている。危険木除去事業では市内自治会長に事業案内文書を送付することで、みえ森と緑の県民税を活用して周辺住民の生活の安全を確保し、暮らしに身近な森林づくりに寄与していることを伝えている。

第 11 号様式（その 1）（参考資料）

令和 5 年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	② 意向調査	1,976.9	1,976.9
2	③ 私有林整備	3,170.75	3,170.75
3	⑦ その他（森林整備）	24	24
4	⑥ 林道・林専道の整備等	4,759.1	4,759.1
5	⑤ 森林保護対策	2,365	2,365
6	⑬ 木造公共建築物の整備等	5,777.75	5,777.75
7	⑰ 基金積立（森林整備等）	658.22	658.22
8			
9			
10			
	合計	18,732	18,732

【記載要領】

ア、事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備(財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他(森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他(人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他(木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立(森林整備等)
⑱ 基金積立(人材育成等)
⑲ 基金積立(木材利用等)
⑳ 基金積立(執行残額等)

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名						
1	危険木の除去事業						
事 業 費	2,547,196 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他		
			2,547,196	0	0		

1. 事業の目的

自治会単位で取り組むことにより、通学路や人家裏等きめ細かな森林整備を行う。
自治会による身近な森林の整備により、安全・安心な暮らしを確保し、森林整備に対する意欲の向上を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

意欲ある自治会等に対し、危険木の除去について支援する。特殊機材については市内業者から借り入れてもらい、補助の対象とする。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

自治会等

【実施箇所及び箇所数】

いなべ市内27箇所

【事業量】

3,405本

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

危険要因を早期に除去でき、安心して過ごせる環境を作り出す事ができる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

危険木の除去を行うことで、残った木が健全に生育し、次の危険木を生み出しにくくするという説明を申請時に行う。

【新たな対策・視点及び改善点】

事業の取組の拡大を目指し、リース代補助以外の支援の方法について検討した。令和6年度からは伐採作業に対する補助も対象とすることにした。

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	------	---------	----

番 号	事 業 名				
1	危険木の除去事業				
事 業 費	2,547,196 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,547,196	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	自治会等	10/10以内		リース代に限る

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

自治会要望等による。
自治会要望等から事業目的に適合した活動に対し補助。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	いなべ市住民約10,000人
期待する波及効果	受益者の関係者への波及効果が期待できる

【公的関与の必要性】

道路支障木の他、住民生活の支障となる木・竹の伐採における費用の負担が難しく、放置されている現状の中、幅広く危険木を除去し、周辺住民の生活の安全を確保するものであり、公的関与の必要性がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

なし。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	事業内容を年度末にHPに掲載し、周知する。
チラシ等配布	実施中	自治会長にチラシを配布し、県民税を活用した事業であることを周知した。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

人家裏等の危険木を事前に伐採することで、安全な生活環境を確保することができた。

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市
------	-----------------	-----	------

事業名	危険木の除去事業
-----	----------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
機械リース	高所作業車	式	1.00	29,700	29,700	2本
機械リース	高所作業車	式	1.00	28,204	28,204	100本
機械リース	高所作業車	式	1.00	28,204	28,204	2本
機械リース	高所作業車	式	1.00	200,000	200,000	30本
機械リース	高所作業車	式	1.00	26,499	26,499	70本
機械リース	高所作業車、バックホウ、フォーク、ダンプ	式	1.00	137,940	137,940	6本
機械リース	高所作業車	式	1.00	24,233	24,233	23本
機械リース	高所作業車	式	1.00	31,900	31,900	5本
機械リース	高所作業車、トラッククレーン	式	1.00	62,876	62,876	2本
機械リース	高所作業車バックホウ、フォーク	式	1.00	181,940	181,940	6本
機械リース	高所作業車、バックホウ、フォーク、アルミブリッジ、ユニック	式	1.00	71,940	71,940	1本
機械リース	高所作業車(17m)、高所作業車(27m)	式	1.00	105,820	105,820	11本
機械リース	高所作業車	式	1.00	56,804	56,804	30本
機械リース	枝葉粉碎機、アルミブリッジ	式	1.00	173,910	173,910	2,500本
機械リース	高所作業車	式	1.00	31,999	31,999	36本
機械リース	ラフタークレーン	式	1.00	200,000	200,000	21本
機械リース	ラフタークレーン	式	1.00	200,000	200,000	23本
機械リース	高所作業車	式	1.00	130,328	130,328	7本
機械リース	高所作業車	式	1.00	32,890	32,890	13本
機械リース	高所作業車	式	1.00	32,560	32,560	85本
機械リース	枝葉粉碎機、ダンプトラック	式	1.00	166,320	166,320	100本
機械リース	高所作業車	式	1.00	169,829	169,829	5本
機械リース	バックホウ、高所作業車	式	1.00	200,000	200,000	50本
機械リース	高所作業車	式	1.00	30,030	30,030	2本
機械リース	高所作業車、ダンプ、アルミブリッジ、枝葉粉碎機	式	1.00	32,549	32,549	50本
機械リース	バックホウ	式	1.00	133,705	133,705	25本
機械リース	高所作業車、チェーンソー	式	1.00	27,016	27,016	200本
合計					2,547,196	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	------	---------	----

事業名	危険木の除去事業
-----	----------

7の(1).写真



写真1

除去前



写真2

除去後



写真3

除去前



写真4

除去後

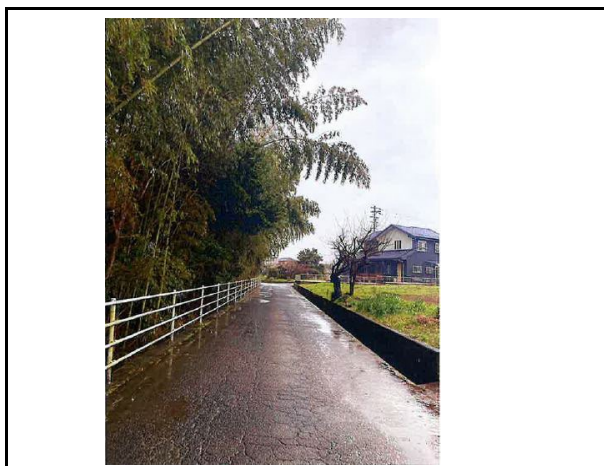


写真5

除去前

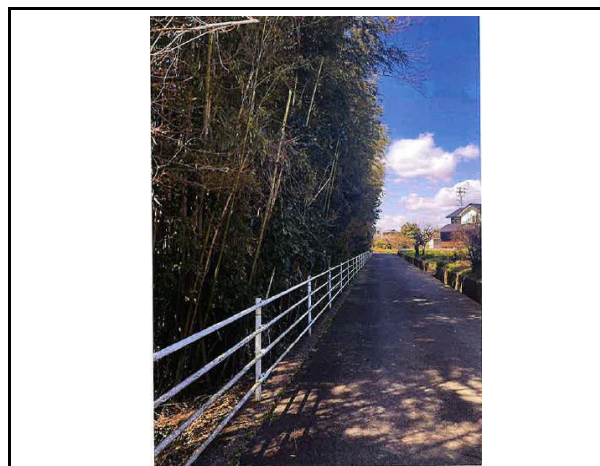


写真6

除去後

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	------	---------	----

事業名	危険木の除去事業
-----	----------

7 の（2）. その他資料

危険木の除去事業



気候が年々激しくなっていく中で、道路支障木のほか、人家近くの危険木の除去についても防災・減災のためには重要です。

そこで、いなべ市では市民の皆様から要望をいただいた箇所の危険木の除去に必要な機械のリース代について補助をしています。

令和5年度は27箇所、3405本の危険木の除去を行いました。

令和6年度についても継続して補助を行います。詳細は農林整備課へお問い合わせください。

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	------	---------	----

事業名	危険木の除去事業
-----	----------

7 の（2）. その他資料

危険木伐採における機械リース事業（補助金）について

- 危険木の定義
放置した場合、倒木や落枝により所有者以外の第三者の生命、身体、財産に損害を与える可能性がある木など。
- 補助条件
 - 1 箇所に付き補助額は、20 万円を上限とする。
 - 以下の場合、申請は年 1 回までとする。
 - 個人からの申請の場合。
 - 同一所有者の土地を申請する場合。
ただし、公共性が高い箇所（中道、農道に隣接しているなど）については、この限りではないものとする。
 - 危険木除去の一連の作業に必要な機械のリース費用を対象とする。（別紙を参照）
 - 機械リースの貸出日数は、3 日を上限とする。（予備日は設けない）
- 申請の流れ
 - 自治会要望書にて、伐採箇所・範囲・伐採本数・第三者への影響及び、伐採に必要なリース機械等を記載し、ご提出ください。
要望書には、リース会社による正式な見積書を添付してください。
リースできる会社は以下のとおりです。（令和 4 年 4 月 1 日時点）

株式会社アクティオいなべセンター	（TEL：0594-84-1780）
株式会社キナン四日市北営業所	（TEL：0594-78-3582）
日本キャピラリー合同会社北勢営業所	（TEL：0594-82-1233）
 - 要望受理後、農林整備課担当者から連絡しますので、申請書（様式第 1 号）を作成して提出してください。
 - 申請書（様式第 1 号）受理後、再度内容について確認し、補助要制に適合すれば交付決定通知書（様式第 2 号）を送付しますので、その日以降に機械リースを行い事業に取り掛かってください。
 - 事業完了後は、速やかに実績報告書（様式第 5 号）を提出してください。
同時に請求書も提出をお願いします。
補助事業であり、事前にリース代をお支払いいただいてからの交付となります。

※ 安全対策・注意事項

作業には、ヘルメット、ゴーグルなど安全装備を装着する事。（特にチェーンソー）
広葉樹の伐採などは、山心もわからず倒れる方向が特定できないため、専門技術を持った者が行う事。
慣れによらず、安全確認を常に行いながら作業を行う事。
地域での活動に対して、保険に加入する事。
各種リース機械の操作については、必要となる免許や講習修了証を所持した者が行う事。
リース機械を損傷させた場合、修理代の請求が高額になる事があるため、これらを対象とした保険に加入する事。

この事業は、皆様からいただいた『みえ森と緑の県民税』を活用して行っています。



第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	里山竹林環境保全支援事業				
事 業 費	3,909,930 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,909,930	0	0

1. 事業の目的

市内の活動団体等が、整備されていない里山や竹林における森林の保全や安全性の確保による生活環境の向上を目的として、自主的に里山や竹林を整備する取組みを支援し、持続的に地域の里山が整備されることを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市内の活動団体等が、保育間伐や倒木の除去等、自主的に里山や竹林を整備する取組に対して事業費の一部を支援する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

ボランティア団体等

【実施箇所及び箇所数】

8団体

【事業量】

市内7団体×500,000円（補助額）、市内1団体×409,930円（補助額）

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

未整備の里山や竹林が再生されることにより森林の保全や安全性が確保され、生活環境の向上に繋がるとともに、獣害被害の防止も期待される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

補助金を交付することにより、より効率的・持続的に里山竹林を保全することができる。

【新たな対策・視点及び改善点】

チェーンソーの使用等危険を伴う作業を行うため、取組団体に対して安全対策の啓発文書の送付を行った。

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	里山竹林環境保全支援事業				
事 業 費	3,909,930 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,909,930	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	10/10以内	500,000円	
【委託先及び補助対象者等の選定理由】 団体からの要望等による。 要望・申請等から事業目的に適合した活動に対し補助。 【主な経費内訳】 (別紙のとおり)				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	活動団体			
期待する波及効果	森林整備が進むことにより、活動地区周辺地域・住民にも効果が波及する。			
【公的関与の必要性】 ボランティア団体等は現在会費等を資金に運営しているが、活動範囲・参加人数を拡大し森林に関わる機会を増やすには公的関与の必要がある。 【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】 なし。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
HP掲載	実施後	事業内容を年度末にHPに掲載し、周知する。		
チラシ配布	実施前	申請活動団体へ県民税のリーフレットを配布する。		
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				
補助金の交付により、今までよりも活動範囲を拡大することができ、より多くの森林を整備することができた。				

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市
事業名	里山竹林環境保全支援事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
森林整備費	里山・竹林整備	団体	7.00	500,000	3,500,000	
森林整備費	里山・竹林整備	団体	1.00	409,930	409,930	
		合計			3,909,930	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	------	---------	----

事業名	里山竹林環境保全支援事業
-----	--------------

7の(1).写真



写真1

森林整備



写真2

啓発活動



写真3

森林整備



写真4

森林整備



写真5

森林整備前



写真6

森林整備後

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	------	---------	----

事業名	里山竹林環境保全支援事業
-----	--------------

7 の（2）. その他資料

里山竹林環境保全支援事業



市内の活動団体等が、整備されていない里山や竹林における森林の保全や安全性の確保による生活環境の向上を目的として、自主的に里山や竹林を整備する取組みを支援しました。

令和5年度は8活動団体に対して補助金を交付しました。

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	いなべ市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名						
3	鳥獣害につよい森林整備事業						
事 業 費	2,649,490 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他		
			2,649,490	0	0		

1. 事業の目的

農地周辺の手入れ不足の森林において、猿等の野生鳥獣が繁殖を繰り返し、農作物や住民の生活環境が著しく悪化するなどの大きな影響が生じており、地域から緊急の対策実施の要望がある。生息している森林の整備を行うことで野生鳥獣の住処を分散させ、地域住民の安全・安心な暮らしを守ることを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

地域住民から要望のある猿等の鳥獣害被害箇所を中心に、地権者の了解の下森林整備を行い鳥獣害被害を予防する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

いなべ市

【実施箇所及び箇所数】

1箇所

【事業量】

除伐：0.27ha、間伐：0.28ha、支障木除去：1式

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

森林整備を行うことにより、鳥獣害被害を減らし、住民の生活環境の改善が見込まれる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

森林整備の際、山林所有者に所有者意識を持ってもらい、所有林と向き合う機会を作っている。

【新たな対策・視点及び改善点】

森林整備と鳥獣害被害について、同時に対策を行うことができる。

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	いなべ市	新規・継続の別	新規
------	-----------------	--	-----	------	---------	----

番 号	事 業 名				
3	鳥獣害につよい森林整備事業				
事 業 費	2,649,490 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,649,490	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	林業事業体	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

林業事業体への指名競争入札により委託した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	坂本地区住民
期待する波及効果	森林整備が進むことにより、活動地区周辺地域・住民にも効果が波及する。

【公的関与の必要性】

住民生活の支障となる木・竹の伐採における費用の負担が難しく、放置されている現状の中、幅広く森林を整備し、周辺住民の生活の安全を確保するものであり、公的関与の必要性がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

事業完了後、5年間は森林以外のものとする転用を行わないよう規制した。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	事業内容を年度末にHPに掲載し、周知する。
施工看板に掲示	実施中	みえ森と緑の県民税を活用した事業である工事看板を設置する。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

森林整備の際に、山林所有者へ鳥獣害被害や森林整備の必要性を伝えられ、森林管理の意識が向上した。

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市
事業名	鳥獣害につよい森林整備事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
森林整備費		式	1.00	2,567,400	2,567,400	
チェンソー購入		台	1.00	62,400	62,400	
積算図書購入		セット	1.00	19,690	19,690	
		合計			2,649,490	消費税10%含む

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	新規
------	-----------------	-----	------	---------	----

事業名	鳥獣害につよい森林整備事業
-----	---------------

7の(1). 写真



写真1

森林整備前



写真2

森林整備後



写真3

森林整備前



写真4

森林整備後



写真5

工事看板



写真6

県民税標柱

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	新規
------	----------------	-----	------	---------	----

事業名	鳥獣害につよい森林整備事業
-----	---------------

7の(2). その他資料

鳥獣害につよい森林整備事業



農地周辺の手入れ不足の森林の整備を行いました。森林の整備により野生鳥獣の住処を分散させ、安全・安心な暮らしを守ることを目的としています。

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
4	中学校卒業記念品配布事業				
事 業 費	914,650 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			914,650	0	0

1. 事業の目的

県民税の基本方針である『県民全体で森林を支える社会づくり』のなかの『森を育む人づくり』の一環として、いなべ市産材を利用して木製箸の製作配布を行う。

中学校の卒業記念として、箸という肌で触れるもので『木の良さ』を子どもたちに知ってもらい、木を使うことの意義を知る人づくりを行うことを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

原木調達・加工作業は、【認定林業事業体（佐藤林業）】に委託する。箸製作は【いなべ自然楽校】に委託する。箸入れ袋製作・製品梱包作業は、【いなべ市障害者活動支援センター】に委託する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

いなべ市

【実施個所及び箇所数】

市内中学校4校

【事業量】

箸500膳・箸袋500袋

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

製品にはメッセージカードを添付し、県民税の目的といなべ市産材が使われていることを示すことで、木材の良さを感じたり利用意識を高めてもらい、将来的には持続可能な素材を選べる人づくりに繋がることが期待される。また、その製作には、市内の活動団体であるいなべ自然楽校やいなべ市障害者活動支援センターが行っている旨を伝え、箸を大切に利用してもらい、市内の自然と地元愛を育む人づくりへ繋げていく。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

市内唯一の認定林業事業体に原木の調達を委託することにより、山地に放置されている間伐材の有効利用を図ることができた。

【新たな対策・視点及び改善点】

受注者間での意見交換を行うことで、作業工程の調整をスムーズに行うことができた。

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
4	中学校卒業記念品配布事業				
事 業 費	914,650 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			914,650	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	活動団体	補助事業ではない		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】				
原木調達・加工作業は市内唯一の林業事業体である佐藤林業に、箸製作はいなべ市内の地域資源を活用した取り組みを行っている市民団体のいなべ自然楽校に、箸袋製作は社会的貢献度を踏まえて障がい者施設に委託した。 【主な経費内訳】 (別紙のとおり)				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	市内中学校卒業生500名			
期待する波及効果	保護者・学校関係者			
【公的関与の必要性】				
卒業記念品を配布することにより、生徒が三重の木に触れる機会をつくり、木材利用の意義を理解し、森林の大切さを伝える森林環境教育活動であり、公的関与は必要である。				
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】				
施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
HP掲載	実施後	HPを活用し、周知する。		
チラシ等配布	実施後	メッセージカードの配布を行った。		
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				
いなべ市産の木材を箸というかたちで触れることで、木の良さを知ることができた。				

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	いなべ市
事業名	中学校卒業記念品配布事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
原木調達・製材・プレーナ加工	いなべ市産材	式	1.00	309,000	309,000	佐藤林業
箸製作・加工		組	500.00	500	250,000	いなべ自然楽校
箸袋製作・袋詰め		袋	500.00	545	272,500	いなべ市障害者活動支援センター
		小計			831,500	
		消費税及び地方税相当額			83,150	10%
		合計			914,650	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	------	---------	----

事業名	中学校卒業記念品配布事業
-----	--------------

7の(1). 写真



写真1

原木調達



写真2

製材・プレーナー加工



写真3

箸製作加工



写真4

受取時の様子



写真5

受取時の様子



写真6

受取時の様子

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	------	---------	----

事業名	中学校卒業記念品配布事業
-----	--------------

7の(2). その他資料

中学校卒業記念品配布事業



森を育む人づくりの一環として、いなべ市内の4つの中学校の卒業生（約500名）を対象に木の良さを知ってもらうため、いなべ市産材を利用した木製箸を毎年、卒業記念品として配布しています。

生徒のコメント①

配られたとき、「なぜ箸なんだらう」と疑問に思いました。箸入れから箸を取り出すと、木の香りがふわと香りました。三重県の南部で林業が盛んなのは知っていますが、いなべ市産の木材でこのような箸が作られたということを知って驚きました。いなべ市は、自然豊かな場所だと思っています。この箸を使って、普段からいなべ市の自然を身近に感じ、過ごしていきたいと思います。

生徒のコメント②

卒業記念品に箸を頂きありがとうございました。
箸入れをクラスで開けると木の香りがふわっと、びっくりするくらい香りました。
もうこれで卒業というのを実感できるようになりました。
今年の卒業を家族や友人以外にも知らせるのにも
役立ててうれいです。地域の皆さんにも見知られてきたんだと
感じます。ありがとうございます。
箸を大切に使い、いきいきしたいと思います。

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
5	森林環境教育支援事業				
事 業 費	57,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			57,000	0	0

1. 事業の目的

森林への意識が全国的に低下している中で、森林への意識を少しでも高めるべく、小学生を対象とした森林環境教育を行う。森林・木材に対して理解を深め、自然の良さ・生命や自然を大切にする心を育む人づくりを行うことを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

市内小学校において地域の森林・林業関係者を講師に招き、森林の機能や大切さ、生活で使われる木材について学び、自然や地域の魅力を伝える森林環境教育を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

直営

【実施個所及び箇所数】

阿下喜小学校6年生22人

【事業量】

1カリキュラム

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

次代を担う子どもたちが、地域の林業者等から直接話を聞くことで、森林・林業に関する知識を深めるとともに、地域の自然、人、モノの魅力を知る人づくりをする。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

講義だけでなく実際に森林・木材と触れ合う機会を作る。

【新たな対策・視点及び改善点】

昨年に引き続き、地元の森林と他の地域の森林を比較し、自然の魅力を伝える人づくりについて協議し、安全に見学できる場所での視察について検討した。

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
5	森林環境教育支援事業				
事 業 費	57,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			57,000	0	0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
直営	個人	補助事業ではない		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】				
市内において既に森林環境教育に関する実績がある関係者。				
【主な経費内訳】				
(別紙のとおり)				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	小学校児童22人			
期待する波及効果	児童を通じて保護者・学校関係者にも森林教育の成果が伝わる。			
【公的関与の必要性】				
学校教育であり、公的関与は不可欠である。				
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】				
施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
HP掲載	実施後	事業内容を年度末にHPに掲載し、周知する。		
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				
授業により里山に興味を持ち、実際に体験してみたいと意見がありました。				

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	いなべ市
------	-------------	-----	------

事業名	森林環境教育支援事業
-----	------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
報償費	講師（2名）	名	2.00	28,500	57,000	
		合計			57,000	消費税10%含む

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	------	---------	----

事業名	森林環境教育支援事業
-----	------------

7の（1）. 写真



写真1

里山学習



写真2

里山学習



写真3

浮彫体験



写真4

浮彫体験

写真5

写真6

写真5

写真6

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	------	---------	----

事業名	森林環境教育支援事業
-----	------------

7 の（2）. その他資料

森林環境教育支援事業



木の重要性や里山保全の意義を感じてもらうため、いなべ市内の小学校（1校）で体験学習を行いました。

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
6	自然環境保全事業				
事 業 費	2,530,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,115,734	0	1,414,266

1. 事業の目的					
いなべ市は、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある地域をつくる「グリーンインフラ」の取り組みを行っている。この理念に基づき、地域の森林や水辺の環境の整備と併せ、主に親子の長時間滞在を促進する空間づくりを行い、身近な緑や水辺の環境との関係を深めることを目的とする。					
2. 事業実績概要					
【事業内容】 市内で身近な緑や水辺の環境との関係を深める活動を主体的に行っている個人や団体、企業と連携し、森林や川を使った体験を実施する。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 いなべ市 【実施個所及び箇所数】 市内の「グリーンインフラ」において、身近な緑や水辺の環境との関係を深めるイベントを開催（3回） 【事業量】 Inabe Green Lab 開催 3回					
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】					
【事業実施により期待される効果】 次代を担う子どもたちが、水や緑の環境づくりの大切さを学び、森林や緑と親しむための環境整備に対して理解を深める。また、いなべの森林の体験や観察、木材との触れ合いを通していなべの自然資源の魅力や可能性を見つけ、緑の大切さを感じ、育む人材が育成される。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 市直営での事業実施を計画していたが、一般社団法人グリーンクリエイティブいなべと意見交換を行う中で、同団体を介して積極的な活動を行っている個人や団体とつながることができ、運営を外部委託することとした。 【新たな対策・視点及び改善点】 イベントを開催するだけでなく、県民税を活用して身近な緑や水辺の環境を整備することで、より自然と県民の関係性を深めることができる。					

令和5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	新規
------	--------------------	-----	------	---------	----

番 号	事 業 名				
6	自然環境保全事業				
事 業 費	2,530,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,115,734	0	1,414,266

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	活動団体	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

積極的な活動を行っている個人や団体とつながりのある一般社団法人グリーンクリエイティブいなべへ委託した。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	イベント参加者
期待する波及効果	参加者の家族・友人

【公的関与の必要性】

森林や水辺の環境整備を行うことにより、イベントの効果を向上させることができるため、公的に支援する必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

なし。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施前	参加者募集時にHPに掲載し、周知する。
チラシ配布	実施前	事業チラシに県民税を活用した事業であることを記載する。
HP掲載	実施後	事業内容を年度末にHPに掲載し、周知する。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	いなべ市
事業名	自然環境保全事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
環境整備業務		式	1.00	900,000	900,000	
グリーンインフラ推進支援業務		式	1.00	1,400,000	1,400,000	
		小計			2,300,000	
		消費税及び地方税相当額			230,000	10%
		合計			2,530,000	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	新規
------	--------------------	-----	------	---------	----

事業名	自然環境保全事業
-----	----------

7の(1). 写真



写真1

水辺環境との触れ合い



写真2

水辺環境との触れ合い



写真3

森林との触れ合い

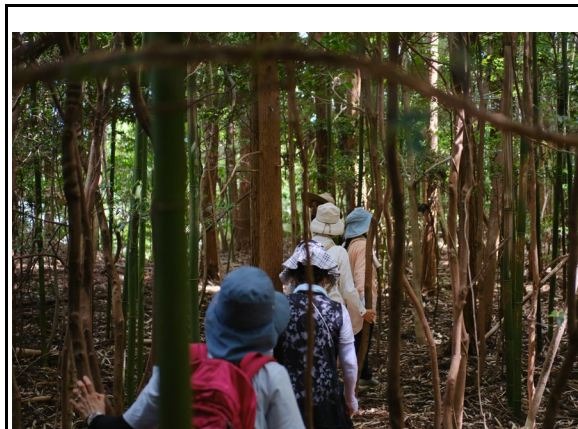


写真4

森林との触れ合い



写真5

整備中の様子



写真6

整備中の様子

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	いなべ市	新規・継続の別	新規
------	--------------------	-----	------	---------	----

事業名	自然環境保全事業
-----	----------

7の(2). その他資料

9月9日（土曜日）「川であそび 森をあるく日」の様子（旧大安庁舎周辺）

当日は市内外から300人の方にご参加いただきました。動画と写真で当日の様子をご覧ください。

- [イベントの様子（動画）（外部リンク）](#) □



川あそび

このイベントは「みえ森と緑の県民税」事業で実施しています

- [みえ森と緑の県民税（外部リンク）](#) □

開催日	令和5年8月8日（火曜日）、9月9日（土曜日）、11月11日（土曜日）、11月12日（日曜日）
開催場所	シビックコア棟、旧大安庁舎周辺、トヤオ工務店、旧大安中央児童センター

資料 2－2

木 曾 岬 町

令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報「令和 5 年度版三重県市町要覧」「令和 4 年度版森林・林業統計書」による

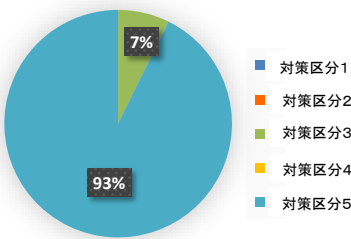
市町名	木曽岬町	三重県
人口（人）	5,774	1,731,863
年少人口割合（％）＊ 1	8.6%	11.6%
森林面積(ha)	0	372,030.08
民有林面積(ha)＊ 2	0	348,561.87
森林率(%)	0.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊ 3	11.6	10.6

＊ 1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊ 2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊ 3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分 1	対策区分 2	対策区分 3	対策区分 4	対策区分 5	基金積立
1	3	森林環境教育事業	653,164	653,164			653,164			
2	5	暮らしを守る緑保全事業	10,883,400	8,287,227					8,287,227	
計			11,536,564	8,940,391	0	0	653,164	0	8,287,227	0

3. 令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量 (ha・m)	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	木曽川の河口部に位置する当町は森林率が0％と、日常生活の中で森林にふれあう機会がなく町内の鍋田川線桜並木は、重要な観光資源であると同時に地域住民が緑にふれあい自然環境の大切さを知る貴重な場となっております。これらを踏まえ、鍋田川線桜並木を特定外来種クビアカツヤカミキリの食害から守るため、防除業務や被害木の伐採を行って被害防止対策を実施しました。 また、町内を流れる木曽川の恵みが上流の森林に由来するものであることを認識するため、本町と木祖村の中学生同士が交流する機会を設けました。
事業実施により期待される効果	鍋田川線桜並木を特定外来種クビアカツヤカミキリの食害から守るため、全木を対象にした調査と台帳整備、樹幹注入を行うことでクビアカツヤカミキリの被害低減を狙い、地域住民や道路利用者の安全確保と貴重な自然環境の保護につながることが期待できる。また、森林環境教育については、中学校生徒や学校教育者に対し、森林をはじめとした自然環境でのフィールドワークを行うことで、森への理解を深め、保護者とともに自然保全意識を高める。
情報発信への取組	町広報誌への防除業務の内容及び目的を掲載し、町民に対し県民税が安全や自然環境の保全に役立てられていることをPRしたほか、ポスター掲示や町HPでも同内容を紹介し、より多くの人の目に留まるよう取り組んでいる。

第 1 1 号様式（その 1）（参考資料）

令和5年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	⑭ 基金積立（木材利用等）	630	630
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	630	630

【記載要領】

ア、事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私所有林整備
④ 公有林整備(財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他(森林整備)
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他(人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他(木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立(森林整備等)
⑱ 基金積立(人材育成等)
⑲ 基金積立(木材利用等)
⑳ 基金積立(執行残額等)

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	木曽岬町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名						
1	森林環境教育事業						
事 業 費	653,164 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他		
			653,164				

1. 事業の目的

木曽川をゆかりとする上流部の木祖村と下流部の木曽岬町の中学生が互いの地域の特色を理解するとともに、地域課題について考え合い、交流・発信することを通して、改めて地域の良さを感じ取り、郷土への愛着を深める。また、山間地域である木祖村の大自然を体感することにより、河川の恵みが森林から授かっていることを認識する機会をつくる。

2. 事業実績概要

【事業内容】

令和 5 年度は、本町中学生が長野県木祖村への自然体験を行い、併せて現地中学生との交流学习・活動を実施した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

木曽岬町

【実施個所及び箇所数】

長野県木祖村立木祖中学校体育館等

【事業量】

交流学习・活動

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

森林からの恵みを体感することにより、森林の必要性や大切さを実感させることができるとともに、異なる自然環境を体験することで郷土との違いを認識し、改めて郷土への理解と愛着を深める効果が期待できる。また、森林自然体験学習を通じた学びを主体的に保護者・地域に発信できる人づくりをめざしていくために、継続した森林・木育活動が図られる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

実際の自然環境に身を置き、肌で感じるができるフィールドワークを行うことで、効果を高める工夫を行った。

【新たな対策・視点及び改善点】

昨年のオンラインでの取り組みと違い、現地へ赴くことで、より森林環境を身近に感じ、触れ合うことで森林の必要性や大切さを再認識できるようにした。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	木曽岬町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	森林環境教育事業				
事 業 費	653,164 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			653,164		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
直営				

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

直営のため該当しない。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	中学校生徒及び学校教育関係者
期待する波及効果	家族や友人などと自然と触れ合う機会を求めるきっかけとなる

【公的関与の必要性】

小学校の授業の一環であるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等でなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
学校だより等掲載	実施後	町民

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

自然の中でのハイキングや炊事活動を行うことで、普段体験できない自然との共生体験ができたことにより、この先歳を重ねていくうえで、貴重な体験となった。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	木曽岬町
事業名	森林環境教育事業		

4. 効率性：主な経費内訳

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
バス等の諸費用	式	1.00		258,500	
野外体験活動に係る諸経費	式	1.00		101,134	
宿泊に係る諸経費	式	1.00		293,530	
事業費				653,164	

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
バス等の諸費用	三重交通貸切バス	円	1.00	220,000	大型
	有料道路通行料（当日）	円	1.00	27,500	（湾岸弥富－伊那）
	乗務員経費	円	1.00	11,000	（宿泊）
	計			258,500	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
野外体験活動に係る諸経費	水木沢天然林ガイド料等	円	1.00	41,820	41,820	
	自然体験活動一式（ハイキング・野外体験）	式	1.00	59,314	59,314	生徒35名、教師5名
	計				101,134	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
宿泊に係る諸経費	宿泊に係る諸経費	円	1.00	242,480	242,480	（生徒35名分）
	宿泊に係る諸経費	円	1.00	51,050	51,050	（引率教員5名分）
	計				293,530	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	木曽岬町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	------	---------	----

事業名	森林環境教育事業
-----	----------

7の(1). 写真



写真1

木祖村立木祖中学校体育館



写真2

木祖村立木祖中学校会議室



写真3

水木沢天然林遊歩道



写真4

水木沢天然林遊歩道2



写真5

水木沢天然林遊歩道3



写真6

水木沢天然林遊歩道4

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	木曽岬町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	------	---------	----

事業名	森林環境教育事業
-----	----------

7の(2). その他資料

教育委員会だより

木曽岬中学校だより

令和5年6月20日
第10号
校長 中村 佳代



1年生 木祖村交流学习



6月15日から16日まで、1年生が、木祖村交流学习に行ってきました。最初の見学地である味噌川ダムでは、ダムを見ながら説明を聞く班と、資料館で説明を聞き展示を見る班にわかれて学習しました。ダムの役割について学び、木曽川の源流となる木祖村から下流の木曽岬町まで一本の川でつながっていることを実感しました。

その後水木沢のトレッキングは雨がひどくなったため、付近を散策し、木の違いについて学習するプログラムに変更することになりました。天気がよければ樹齢800年の木も見られたので残念でしたが、原生林の中を散策するだけでも空気が澄んでいて清々しい気持ちになりました。

その後は夕食のカレー作りです。木祖村観光協会の方に指導をうけ、どの班も上手に火起こしができました。煙で目が開けられない状態になり、すすとたたかいながらも、野外で食べるカレーはとてもおいしかったです。

時折り小雨が降っていましたが、何とかキャンプファイヤーもできました。実行委員の司会のもと一人ひとりが持つキャンドルに火がともされ、1つの輪が出来上がったときに、皆のつながりを感じました。その後レクリエーションで楽しみました。辺りは電灯がなく真っ暗。部屋にはテレビもなく、普段の生活とは全く違います。布団の敷き方、シーツの掛け方に苦労しながらも1日目を無事終えました。

2日目は、早朝に集合でしたが時間も守られ、食欲も旺盛です。そしてメインイベントの木祖中学校との交流です。「今日はとても暖かいです。」と校長先生に言われましたが、ブレザーを着てちょうどよいくらいの気温で私たちには肌寒く感じられました。三重県や木曽岬町について、観光や特産物、防災など様々な観点から紹介しクイズも交えてしっかり発表することができました。木祖中の発表もメモをとりながら聞くことができました。木祖中の先生からは、「この学校では津波の事は考えたことがないので、同じ木曽川沿いでも全然違うんだなと思いました。」と感想を述べられました。最後に記念撮影を行い、お別れのため、整列して見送ってもらい姿が見えなくなるまで手を振っていただきました。帰ってきてから木祖中のHPを見たら本校との交流学習のことが記載されていました。ありがとうございます。また会えることを楽しみにしています。

また、本校の生徒は、校外学習の際に、説明を聞いた展示物を見たりして熱心にメモをとる姿がみられ、説明する方からもやりがいがあると褒めの言葉を、いただきました。これはどの学年でもいえることだと思います。言われなくても自然にできて、とても大事なことだと思います。

ひとこと

用務員の伊藤さんが校内の花をきれいに整備してくれて木祖村交流学习でも写真で紹介されました。

また、HPでも紹介していますが、以前カブトムシの幼虫をいただき、今は教頭先生に世話をしてもらっています。先週、予司之先生がメダカを持ってきてくださり、昇降口で育てています。毎日様子を見て、心が安らぎます。皆さんも様子を見守ってくださいね。



第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	木曽岬町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	暮らしを守る緑保全事業				
事 業 費	10,883,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,713,836	3,573,391	2,596,173

1. 事業の目的

当町には鍋田川堤沿いに約4kmにわたり桜が植えられている「鍋田川堤桜並木」が存在する。町にとって大きな観光資源であると同時に、森林のない当町にとってはこの桜並木が唯一、多くの木や虫などの自然に触れられる貴重な環境である。

しかし、令和元年6月から当町にて生息が確認されたクビアカツヤカミキリの被害により当町の桜並木は危機を迎えており、早急に対策を講じなければ貴重な自然環境を失うだけでなく、桜並木沿いの道路の通行人に枯死した桜の枝や幹が倒れ掛かるなどの危険を及ぼすため、全木を対象とした害虫防除と被害木調査を行い森林の維持保全を行うことで安全・安心な住環境を確保する。

2. 事業実績概要

【事業内容】

桜並木の病害虫被害木の伐倒及び薬剤噴霧、健全木の被害防止のための樹幹注入、被害や樹勢を調べる毎木調査を実施した。また、桜の生育に影響を及ぼす周辺の竹林を伐採した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

木曽岬町

【実施箇所及び箇所数】

鍋田川堤沿いの桜並木全木

町内公共施設の桜

【事業量】

樹幹注入：1,017本、毎木調査：1,017本、薬剤噴霧：298回、伐採：5本、桜並木の消毒：1,017本×2回、巡視・見回り：5回

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

全木への樹幹注入により、被害木は幼虫の駆除、未被害木には予防効果を持たせることができおり、約70本ほど見つかった被害木も8割以上がフラスの排出が止まり効果が表れたことが確認された。

また、全木の台帳整備を行い次年度以降の業務量の計算やより効率的な防除業務、剪定伐採につなげることが期待される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

基本的な被害調査や樹幹注入だけでなく、定期的な巡視を行うことで薬剤の効果検証や重点的に対策をとる必要がある地点の絞り込みができた。

【新たな対策・視点及び改善点】

樹幹注入について、フラス排出が確認された高所の枝に対し、地際ではなく枝の枝別れ根本のみに樹幹注入を行うことでよりピンポイントの効果を発揮した。これは繰り返し排出されるフラス防止や幼虫への駆除効果が期待できるほか、次年度からのさらなる効率的な業務と経費削減の両立が可能となる。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	木曽岬町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	暮らしを守る緑保全事業				
事 業 費	10,883,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,713,836	3,573,391	2,596,173

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	造園業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

造園業者の登録と防除業務の登録、また、樹木関係（害虫防除や剪定伐採）で官公庁への納入実績のある業者を対象としている。

【主な経費内訳】

（別紙のとおり）

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	町道鍋田川線沿線住民及び道路利用者、町内公共施設利用者
期待する波及効果	利用者の家族や知人などにも観光資源である桜並木を楽しめるようになる。

【公的関与の必要性】

いずれも公共施設の敷地内の桜が対象であり、町が管理者であるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

町の管理であり、変更はない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ポスター掲示	実施後	庁舎内で町民および来訪者へPRした

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

第 11 号様式 (その 2) (評価委員会資料)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	木曽岬町
------	--------------------	-----	------

事業名	暮らしを守る緑保全事業
-----	-------------

4. 効率性：主な経費内訳

鍋田川堤桜並木等害虫防除業務

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
毎木調査 (カルテ作成)	簡易調査費 樹木医	人	4.00	29,000	116,000	
毎木調査 (カルテ作成)	報告書作成費	式	1.00	280,000	280,000	
毎木調査 (全木)	簡易調査費 樹木医	人	4.00	29,000	116,000	
毎木調査 (全木)	報告書作成費	式	1.00	40,000	40,000	
樹幹注入	薬剤費 ウッドスター	本	56.00	28,800	1,612,800	
樹幹注入	薬剤費 カットパスターHi	個	25.00	1,260	31,500	
樹幹注入	世話役	人	2.00	28,000	56,000	
樹幹注入	特殊作業員	人	2.00	24,500	49,000	
樹幹注入	普通作業員	人	2.00	20,100	40,200	
樹幹注入	機械損料など	式	1.00	5,500	5,500	
巡視業務	調査 樹木医	人	8.00	29,000	232,000	
巡視業務	報告書作成費	式	1.00	85,000	85,000	
全作業	諸経費	式	1.00	1,769,700	2,066,000	
小計					4,730,000	
消費税及び地方税相当額					473,000	10%
合計					5,203,000	

鍋田川堤等桜並木害虫駆除剤散布作業委託業務

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
作業委託	散布作業	式	1.00	1,980,000	1,980,000	散布作業3回分計上
合計					1,980,000	税込み金額

町道鍋田川線等剪定伐採業務

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
作業委託	剪定伐採作業	式	1.00	3,700,400	3,700,400	
合計					3,700,400	税込み金額

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	木曽岬町	新規・継続の別	継続
------	--------------------	-----	------	---------	----

事業名	暮らしを守る緑保全事業
-----	-------------

7の(1). 写真



写真1

鍋田川堤桜並木 毎木調査



写真2

鍋田川堤桜並木 樹幹注入（リバイブ）



写真3

鍋田川堤桜並木 樹幹注入 防腐剤埋込



写真4

鍋田川堤桜並木 薬剤噴霧（ロビンフッド）



写真5

鍋田川堤桜並木 樹幹注入（ウッドスター）



写真6

写真6

資料 2－2

東 員 町

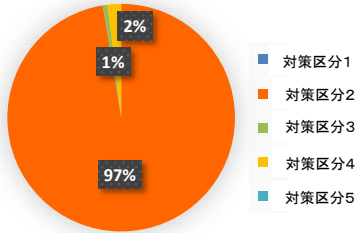
令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報「令和 5 年度版三重県市町要覧」「令和 4 年度版森林・林業統計書」による

市町名	東員町	三重県
人口（人）	25,740	1,731,863
年少人口割合（％）＊ 1	13.7%	11.6%
森林面積(ha)	153.78	372,030.08
民有林面積(ha)＊ 2	153.78	348,561.87
森林率(%)	7.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊ 3	15.5	10.6

＊ 1：全人口に占める15歳未満の人の割合
＊ 2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）
＊ 3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）					
				小計	対策区分 1	対策区分 2	対策区分 3	対策区分 4	対策区分 5
1	2	危険木伐倒等業務	13,946,900	12,124,572		12,124,572			
2	3	森林教育授業	84,249	84,000			84,000		
3	4	公共施設等の備品等購入	270,820	238,000				238,000	
計			14,301,969	12,446,572	0	12,124,572	84,000	238,000	0

3. 令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量 (ha・m)	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	本町では、北部を中心に名古屋や四日市といった近郊都市部のベッドタウンとして開発が進み、現在森林率が8%程度と森林が少なく、また各地に分散している状況ですが、森林は地域住民の憩いの場として日常的に活用されてきました。 このため、危険木の除去など暮らしに身近な森林の整備を進め、地域住民が安全に安心して地域の里山にふれ、森や木の大切さへの理解を深める取組を進めていきます。 また、小学校による森林教育授業においては森林の機能や大切さを学ぶことにより、自然環境の役割を考え、行動していく力を養っていきます。 その他、教育施設及び福祉施設において木質製品などを取り入れることにより、児童や地域住民が木に触れ合う機会を創出していきます。
事業実施により期待される効果	森林環境の保全及び地域住民の森林への意識の醸成が図られた。現地（民家裏等）での調査や作業の際、県民税や事業について詳細に説明する機会が多く、好意的な反応を示していただき、県民税への理解及び森林への関心を高めることができた。
情報発信への取組	工事看板に「みえ森と緑の県民税交付金事業」にて実施していることを表記。また、自治会での施工周知説明時に事業の概要についても説明。購入した備品等に「みえ森と緑の県民税」のロゴマークを刻印し、周知を図る。 その他、町のHP・広報誌に事業の成果を掲載し、県民税を活用し事業を実施した旨を周知。

第 1 1 号様式（その 1）（参考資料）

令和 5 年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	⑲ 基金積立（木材利用等）	3,238	3,238
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	3,238	3,238

【記載要領】

ア、事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備(財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他(森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他(人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他(木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立(森林整備等)
⑱ 基金積立(人材育成等)
⑲ 基金積立(木材利用等)
⑳ 基金積立(執行残額等)

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	東員町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名					
1	危険木伐倒等業務					
事 業 費	13,946,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			10,713,000	1,411,572	1,822,328	

1. 事業の目的

住宅や通学路に近接する森林における危険木除去を行い、暮らしに身近な森林として整備することにより、生活環境の保全や暮らしの安全性の向上を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

人家裏や通学路沿いなど、これまで整備が進みにくく荒廃が進んでいる森林地帯を対象として、倒木になる恐れのある危険木の除去・間伐を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

東員町

【実施箇所及び箇所数】

東員町大字長深・中上地内（近隣住民約2,000人）

東員町笹尾・城山地内（近隣住民約12,000人）

【事業量】

危険木伐倒 長深・中上地区 48本

笹尾・城山地区 429本

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

みえ森と緑の県民税市町交付金を充当する事業を実施し荒廃が進んでいた緑地帯の再生が進むことにより、森林環境の保全及び地域住民の生活安全を守る。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

施工時に工事看板とともに「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」を活用し事業を実施している旨のポスター看板を設置し、近隣住民に周知を図った。

【新たな対策・視点及び改善点】

本来は、森林所有者において整備するものであるということを意識づけていく必要がある。

また、地元説明会において、「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用し、事業を行うことを説明するとともに、森林整備の重要性を幅広く知ってもらう。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	東員町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	危険木伐倒等業務				
事 業 費	13,946,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			10,713,000	1,411,572	1,822,328

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	造園業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

町内業者による入札（一般競争）により、請負者を選定。

【主な経費内訳】

（別紙のとおり）

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	近隣住民約14,000名
期待する波及効果	森林環境の保全及び地域住民の生活安全の向上

【公的関与の必要性】

森林所有者が複数人おり、所有者個人で森林整備を行うことが困難であるため、町が実施することが妥当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

森林所有者に整備をしていくことを促す。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
回覧板・掲示板	実施前	住民への回覧や説明にパンフレット、チラシを活用
施工看板に掲示	実施中	みえ森と緑の県民税交付金事業にて実施していることを表記
HP掲載	実施後	施工の状況等をHPにて報告

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

地元の住民から好意的な声が聞かれた。

例）道路がきれいになった、以前は道路に飛び出していた枝が無くなり安全になった等

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	東員町
事業名	危険木伐倒等業務		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
危険木伐倒						
(長深・中上地区)	幹周40cm未満	本	6	15,050	90,300	端数調整
	幹周40cm以上60cm未満	本	9	17,000	153,000	端数調整
	幹周60cm以上90cm未満	本	8	27,000	216,000	端数調整
	幹周90cm以上120cm未満	本	12	32,000	384,000	端数調整
	幹周120cm以上150cm未満	本	5	71,000	355,000	端数調整
	幹周150cm以上	本	8	94,000	752,000	端数調整
	計		48		1,950,300	
(笹尾・城山地区)	人力 幹周120cm以上150cm未満	本	13	45,722	594,386	
	人力 幹周150cm以上200cm未満	本	9	75,003	675,027	
	人力 幹周200cm以上250cm未満	本	4	183,583	734,332	
	吊るし切り 幹周30cm以上60cm未満	本	21	40,100	842,100	
	吊るし切り 幹周60cm以上90cm未満	本	26	72,173	1,876,498	
	吊るし切り 幹周90cm以上120cm未満	本	15	120,320	1,804,800	
	吊るし切り 幹周120cm以上150cm未満	本	7	180,292	1,262,044	
	吊るし切り 幹周150cm以上200cm未満	本	4	260,474	1,041,896	
	チェーンソー伐り 幹周20cm未満	本	12	855	10,260	
	チェーンソー伐り 幹周20cm以上30cm未満	本	21	1,346	28,266	
	チェーンソー伐り 幹周30cm以上60cm未満	本	155	5,138	796,390	
	チェーンソー伐り 幹周60cm以上90cm未満	本	93	12,277	1,141,761	
	チェーンソー伐り 幹周90cm以上120cm未満	本	49	24,262	1,188,840	端数調整
	計		429		11,996,600	
		合計			13,946,900	

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	東員町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	危険木伐倒等業務
-----	----------

7 の（1）. 写真



写真1
施工前



写真2
施工中



写真3
施工中



写真4
施工後



写真5
みえ森と緑の県民税周知状況



写真6

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	東員町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	森林教育授業				
事 業 費	84,249 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			84,000	0	249

1. 事業の目的	
小学生を対象とした森林環境教育を行うことにより、森林の大切さや木材利用の意義を学び、森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人づくりを行う。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】 町内小学校において、みえ森づくりサポートセンターのコーディネートによる森林教育を実施し、森林の機能や大切さを学ぶ機会や、自然の中にある樹木、植物などに触れる機会を創出することにより、自然環境の役割を考え、行動していく力を養う。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 東員町 【実施個所及び箇所数】 城山小学校 5年生 26名 【事業量】 森林教育授業（森林の散策等）※樹木植樹、ベンチづくり 一式	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【事業実施により期待される効果】 自然の中にある樹木、植物、昆虫についても触れる機会を創出し、また、木材利用、木工体験などにも触れ楽しむことにより、自然環境の役割を考え、行動していく力を養う。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 身近にある森林にて授業を行うことにより、日常から森林に対する意識を醸成する。 【新たな対策・視点及び改善点】 令和3年度に城山小学校で出前授業が実施され、学校関係者から継続を望む声があり、みえ森と緑の県民税を活用した町事業として実施することとした。	

令和5年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	東員町	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
2	森林教育授業				
事 業 費	84,249 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			84,000	0	249

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	活動団体	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

みえ森づくりサポートセンターの「森のせんせい」登録団体であり、活動フィールドである企業の森「TOYOTIRES緑のつながり・三重」の管理運営団体であるため。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	城山小学校 5年生 26名
期待する波及効果	学習内容を家庭に持ち帰ることにより、森林保全の大切さを広げることができる。

【公的関与の必要性】

小学校の児童が対象となるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

なし

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
チラシ等配布	実施後	児童や保護者及び利用者にパンフレット、チラシを配布
HP掲載	実施後	施工の状況等をHPにて報告

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

参加した児童の反応が好意的であった。

例）近くにこんなに森があるんだ等

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	東員町
事業名	森林教育授業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
森林教育授業	森林散策等	式	1	84,249	84,249	
		合計			84,249	

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	東員町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林教育授業
-----	--------

7 の（1）．写真



写真1

実施風景



写真2

実施風景



写真3

実施風景



写真4

実施風景



写真5

実施風景



写真6

実施風景

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	東員町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
3	公共施設等の備品等購入				
事 業 費	270,820 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			238,000	0	32,820

1. 事業の目的

町内の公共施設において木質製品を取り入れ、また乳幼児を対象とした木製品の配布を行うことにより、木に触れ合う機会を創出し、木材利用の意義について理解を深めてもらい、関心をもってもらえる場をつくり、森林教育を進めていく。

2. 事業実績概要

【事業内容】

町内のコスモス畑に県産材のフォトスポット用フレームを設置。また、初めて赤ちゃんがお箸を使って食事をするための「お食初め箸」を用意する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

東員町

【実施個所及び箇所数】

コスモス畑来場者 約7,000人

母子 約220名

【事業量】

フォトスポット用フレーム 1基、お食初め用箸 220膳

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

児童や利用者が、木に触れ合い木のぬくもりや、におい等を体感し、森林への関心を深めることにより、自然の恵みに対する価値観を広げ、木材利用や森づくりへの理解を深める場として活用する。また、乳幼児へ木製製品を提供することにより、将来に渡り、森林や木材に関心を持ってもらう土台を作成する。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

フォトフレームと箸に「みえ森と緑の県民税」のロゴマークを刻印し、町民等に直接的に周知を図る。

【新たな対策・視点及び改善点】

令和3年度事業で保育園・幼稚園に木製遊具を導入、令和4年度は学校施設に木製製品を導入した。令和5年度は、乳幼児に木製の箸を導入し、町民全体を対象にした木製製品を導入することにより、前年度以前よりも対象範囲を拡大して、木にふれあえる環境を整える。

令和5年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	東員町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
3	公共施設等の備品等購入				
事 業 費	270,820 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			238,000	0	32,820

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	木工製造業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

県産木材を使用し、指定する木質製品を加工することのできる業者に随意契約により、請負者を選定。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	コスモス畑来場者 約7,000人 母子 約220名
期待する波及効果	児童や利用者を通じて、木材利用の意義を伝達することが期待される。

【公的関与の必要性】

町立の施設への備品導入であることから、町が実施することが妥当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

役場において管理を行う。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	設置状況、活用状況等をHPにて報告
ロゴマーク掲示(シール・プレート等)	実施後	木質製品にみえ森と緑の県民税交付金事業のロゴマークを表記

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

来場者等から木質製品について、好意的な声があった。

例) 木の質感が良い等。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	東員町
事業名	公共施設等の備品購入		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
フォトスポット用フレーム	2200×1200	基	1	88,000	88,000	
お食い初め用箸		膳	220	831	182,820	
		合計			270,820	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	東員町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	公共施設等の備品購入
-----	------------

7の(1). 写真



写真1

フォトスポット用フレーム



写真2

フォトスポット用フレーム

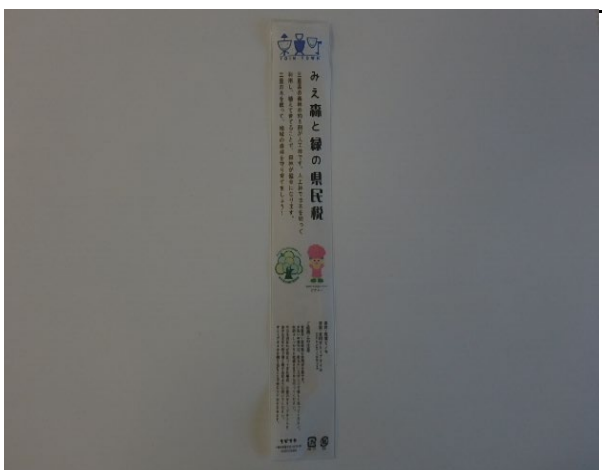


写真3

お食い初め用箸



写真4

お食い初め用箸



写真5

お食い初め用箸



写真6

写真6

資料 2－2

菰野町

令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報「令和 5 年度版三重県市町要覧」「令和 4 年度版森林・林業統計書」による

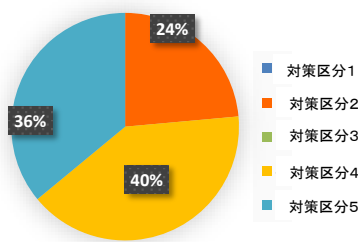
市町名	菰野町	三重県
人口（人）	40,134	1,731,863
年少人口割合（％）＊ 1	13.6%	11.6%
森林面積(ha)	5,313.17	372,030.08
民有林面積(ha)＊ 2	5,237.24	348,561.87
森林率(%)	50.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊ 3	4.5	10.6

＊ 1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊ 2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

＊ 3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分 1	対策区分 2	対策区分 3	対策区分 4	対策区分 5	基金積立
1	2	病虫害被害木伐採搬出事業	6,169,000	3,083,000		3,083,000				
2	2	危険樹木伐採事業	490,900	122,725		122,725				
3	4	幼児期から木に親しむ木育推進事業	2,501,733	2,501,733				2,501,733		
4	4	保育所等木製遊具購入補助事業	3,000,000	3,000,000				3,000,000		
5	5	シデコブシ群生地周辺林地整備	4,896,540	4,896,540					4,896,540	
計			17,058,173	13,603,998	0	3,205,725	0	5,501,733	4,896,540	0

3. 令和 5 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量 (ha・m)	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業	0.04ha 4 本	490,900	122,725	菰野町田光地内において事前伐採 4 本（補償費含）

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	菰野町は、鈴鹿山脈の麓に位置する自然豊かな環境に恵まれた場所にあり、湯の山温泉や御在所ロープウェイなど、四季折々の自然を満喫できる観光スポットを有しており、多くの観光客が訪れます。このような中で、みえ森と緑の県民税を活用し、基本方針でもある「災害に強い森林づくり」の推進のため、病虫害や松枯れなど、倒木の恐れがある危険木の除去を進めることで、地域住民の安全な生活環境を守るとともに、「県民全体で森林を支える社会づくり」の推進のため、当町の森林資源を活用して地域住民や当町を訪れる人が地元の森林環境の魅力を感じ、自然環境保全の大切さや森林資源活用の意義について考え、学ぶ場の整備を進めます。
事業実施により期待される効果	公共の道路に倒木の可能性がある又はライフラインに支障を与える可能性がある危険木を事前伐採することにより、通行者に対する安全の確保及び電線断線の危険の排除ができ、また、病虫害による被害拡散を防止することで地域住民の安全な生活環境の保全に繋がっている。 また町内幼児園や子育て支援センターで使用する遊具や家具を購入することにより、施設利用者やその保護者に活用していただいております。菰野町を含めた森林環境の魅力を感じ、木材活用の大切さを学ぶ貴重な場となっている。
情報発信への取組	伐採作業時はのぼり旗を使うことにより、みえ森と緑の県民税を使って作業していることを通行者にPRした。また、町のホームページで事業報告を行う。木育推進事業においては、購入した家具・遊具に対して、焼き印もしくはシールによりロゴを入れて、みえ森と緑の県民税を活用していることを周知している。

第 1 1 号様式（その 1）（参考資料）

令和 5 年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	① 意向調査の準備作業	16,467	16,467
2	③ 私有林整備	990	990
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	17,457	17,457

【記載要領】

ア、事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備(財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他(森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他(人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他(木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立(森林整備等)
⑱ 基金積立(人材育成等)
⑲ 基金積立(木材利用等)
⑳ 基金積立(執行残額等)

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	菰野町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名						
1	病虫害被害木伐採搬出事業						
事 業 費	6,169,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他		
				3,083,000	3,086,000		

1. 事業の目的

菰野町内において、病虫害被害等により公共の道路へ倒木の恐れがある樹木の伐採を行い、住民の生命や財産を守ることを目的にする。

また、病虫害被害木を伐採することにより景観を良くし、病虫害被害の拡散防止に努める。

2. 事業実績概要

【事業内容】

国道、県道及び町道沿道から20m以内の松枯れやナラ枯れ等の病虫害被害木の伐採、搬出、処理に対して助成を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

個人、区、生産森林組合等

【実施箇所及び箇所数】

町内 6 か所

【事業量】

病虫害被害木327本

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

病虫害被害木の伐採・搬出を行うことで、公共の道路への被害を防止することで、地域住民の安全を事前に確保する。また、病虫害被害木の拡散防止を行うことにより、森林景観を保全することで、地域住民の身近な森林に対する森林の必要性や保全に対する理解を深める。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

被害木を伐採した地区については、地区での会議等により事業の内容及び状況を説明していただくとともに、同様の被害木の情報収集を行っていただいている。

【新たな対策・視点及び改善点】

各区、生産森林組合、財産区等へ改めて制度の概要及び事業の効果について説明し、事業の周知及び事業個所の掘り起こしを実施。地域の危険木については、区・団体等から所有者へ働きかけを行っていただき、事前伐採の重要性を周知していただいた。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	菰野町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	病虫害被害木伐採搬出事業				
事 業 費	6,169,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
				3,083,000	3,086,000

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	個人	1/2以内	1本あたり 100,000円	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

申請者の申し出による（業務委託先については申請者による見積合わせ）

【主な経費内訳】

（別紙のとおり）

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	地域住民
期待する波及効果	通行者及び地域住民の安全確保、森林の必要性の認知

【公的関与の必要性】

所有者の責ですべきことであるが、地元住民の安全な生活環境に関わる取組であるため公的な関与が必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	事業実施中において、施行箇所においてのぼりを設置しPRを実施。
HP掲載	実施後	当該年度の活動について、HPにて広報を行った。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

道路の方へ覆いかぶさっている木々が無くなり、明るくなったとともに、倒壊の危険性もなくなり、安心して通行できるとのこと。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	菰野町
事業名	病虫害被害木伐採搬出事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
法人	病虫害被害木伐採	本	296.00	18,209	5,390,000	2,695,000
二区共有土地管理会	病虫害被害木伐採	本	8.00	31,250	250,000	125,000
岡財産管理組合	病虫害被害木伐採	本	5.00	28,600	143,000	71,000
個人	病虫害被害木伐採	本	4.00	35,750	143,000	71,000
個人	病虫害被害木伐採	本	13.00	16,923	220,000	110,000
宗教法人	病虫害被害木伐採	本	1.00	23,000	23,000	11,000
						3,083,000
※備考欄は補助金額						
		合計			6,169,000	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	菰野町	新規・継続の別	継続
------	----------------	-----	-----	---------	----

事業名	病虫害被害木伐採搬出事業
-----	--------------

7の（1）. 写真

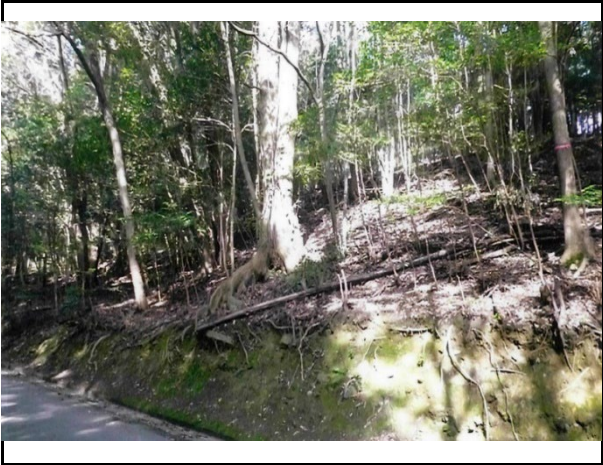


写真1

伐採前①



写真2

伐採後①



写真3

伐採前②



写真4

伐採後②



写真5

伐採前③



写真6

伐採後③

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	菰野町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	危険樹木伐採事業				
事 業 費	490,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			122,219	506	368,175

1. 事業の目的	
菰野町内において、台風等の災害により電線等のライフラインに倒木の恐れがある樹木の事前伐採を行い、ライフラインの保護及び住民の生命や財産を守ることを目的にする。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】 台風等の災害時、電線等のライフラインに倒木等により被害の出る恐れがある樹木を事前に伐採する。 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 菰野町 【実施個所及び箇所数】 菰野町田光地内1か所 【事業量】 0.04haにおいて 4 本伐採（補償費含む）	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【事業実施により期待される効果】 台風等の災害によりライフラインに倒木の恐れがある樹木の伐採を行うことにより、災害時のライフラインに与える被害を減少させることができる。また、道路の通行車両及び人の安全が確保され、景観もよくなる。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 危険木を伐採した地区については、地区での会議等により事業の内容及び状況を説明していただき、事業の重要性を周知した。 【新たな対策・視点及び改善点】 本年度は、田光地内において事業を実施したが、次年度以降については、当町の防災機能を生かすため、伐採候補地を新たにリストアップし、実施地域を再考する。	

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	菰野町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
2	危険樹木伐採事業				
事 業 費	490,900 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			122,219	506	368,175

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	林業事業体	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

町競争入札参加資格者名簿（業務委託）のうち、「清掃－屋外清掃－伐採」で登録があり、かつ所在地が町内（竹永・朝上地区）にある業者のうち、町発注の同種業務の実績を有する業者（4 者）による指名競争入札

【主な経費内訳】

（別紙のとおり）

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	田光区民及び停電影響区域に住む住民、観光客
期待する波及効果	通行者及び地域住民の安全確保、森林の必要性の認知

【公的関与の必要性】

地域住民等のライフラインを守る取組であり、多くの地域住民が受益できる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

当事業による伐採は、ライフラインへの影響範囲のみの伐採であり、転用及び目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	事業実施中において、施行箇所においてのぼりを設置しPRを実施。
HP掲載	実施後	当該年度の活動について、HPにて広報を行った。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

倒壊する危険性が無くなり、災害時も安心できることができたとの事。また、公図がきちんと整備されていない箇所であるため、土地所有者が分かり次第、隣接地についても実施してほしいとのこと。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	菰野町
------	-----------------	-----	-----

事業名	危険樹木伐採事業
-----	----------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
委託費	危険樹木事前伐採業務委託	式	1.00	482,900	482,900	伐採木 4 本
補償費	伐採補償費	式	1.00	8,000	8,000	伐採木 4 本
		合計			490,900	

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	菰野町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	危険樹木伐採事業
-----	----------

7 の（ 1 ）．写真



写真1

伐採前①



写真2

伐採後①



写真3

伐採前②



写真4

伐採後②



写真5

検査状況①

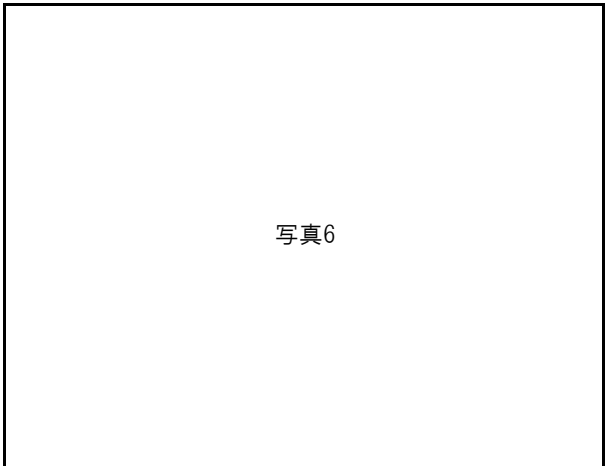


写真6

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	菰野町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
3	幼児期から木に親しむ木育推進事業				
事 業 費	2,501,733 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
				2,501,733	

1. 事業の目的

菰野町内の幼保園において、木製遊具を通じ、感性豊かな幼児期から木と触れあう環境を整備し、子どもの豊かな成長を支援するとともに、世代を超えた交流や、地元の森や緑を愛する心を育て、環境を守る人づくりにつなげる。

2. 事業実績概要

【事業内容】

木製遊具（大型積み木）及び木製家具を導入・設置。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

菰野町

【実施個所及び箇所数】

町内 7 幼保園・こども園、北部子育て支援センター

【事業量】

積み木セット 4、ままごとセット 5、棚・テーブル・パーテーション 8、すべり台 2、小型おもちゃ 3 他

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

木のぬくもりや手触り、木の香りに触れることで、子どもの五感を刺激し、心身の豊かな成長を促すことや親子の癒しも期待出来る。電子おもちゃでは難しい遊びの広がりや想像力の向上と、自然や環境に親しみを感じると共に木の文化の伝承につながる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

各園に要望を取り、それぞれの幼保・こども園による特色を活かした購入を行うことによって、子供たちが使いやすいものを導入できる。

【新たな対策・視点及び改善点】

幼保園において木製遊具を導入することにより、子どもの豊かな成長を支援するとともに、世代を超えた交流や、地元の森や緑を愛する心を育てることができる。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	菰野町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
3	幼児期から木に親しむ木育推進事業				
事 業 費	2,501,733 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
				2,501,733	

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	木工製造業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

購入希望の物品の取扱いがある業者との少額随意契約又は指名競争入札

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	町内 7 幼保園・こども園、北部子育て支援センター利用者：約1,000人
期待する波及効果	子どもの豊かな成長を支援するとともに、地元の森や緑を愛する心を育てる。

【公的関与の必要性】

公立幼保園・こども園における導入のため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

町（各幼保園・こども園）が管理を行うため、目的外使用のおそれはない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ロゴマーク掲示（シール・プレート等）	実施後	導入物品に焼き印もしくはシールによりロゴを掲示
HP掲載	実施後	当該年度の活動について、HPにて広報を行った。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

この事業で導入した遊具は大変人気が高く、子供たちの中で取り合いになるほどである。小さいころからこうして木々に触れることで、菰野町に身近にある森林を大切に思う心が芽生えるのではないかとのこと。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	菰野町
事業名	幼児期から木に親しむ木育推進事業		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
物品購入	木製ままごと棚、テーブル等	式	1.00	575,300	575,300	ウッドベリー
物品購入	白木棚・ドールハウス他	式	1.00	733,293	733,293	とりの巣工房
物品購入	ウッドテーブル、木製ベビーサークル他	式	1.00	148,060	148,060	株式会社 K I D' S B O X
物品購入	ままごとキット、ドールハウス他	式	1.00	161,960	161,960	株式会社 フレーベル館
物品購入	木製組み立て遊具	式	1.00	392,270	392,270	株式会社 ワークス
物品購入	木製	式	1.00	37,500	37,500	ひかりのくに株式会社
物品購入	木製収納箱	式	1.00	52,600	52,600	寺尾木工所
物品購入	木製すべり台・各座卓他	式	1.00	242,900	242,900	株式会社 関西こどものとも社
物品購入	跳び箱・幼児用踏切板	式	1.00	157,850	157,850	片岡教材
		合計			2,501,733	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	菰野町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	幼児期から木に親しむ木育推進事業
-----	------------------

7の（1）. 写真



写真1

購入物品①



写真2

みえ森ロゴ①



写真3

購入物品②



写真4

活用状況②



写真5

写真5



写真6

写真6

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	菰野町	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
4	保育所等木製遊具購入補助事業				
事 業 費	3,000,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,000,000		

1. 事業の目的

菰野町内の私立保育所において、木製遊具を通じ、感性豊かな幼児期から木と触れあう環境を整備し、子どもの豊かな成長を支援するとともに、世代を超えた交流や、地元の森や緑を愛する心を育て、環境を守る人づくりにつなげる。

2. 事業実績概要

【事業内容】

木製家具・遊具等の導入に対し、1 施設当たり1,000,000円を上限とし、補助金を交付する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

菰野町

【実施個所及び箇所数】

菰野町内 3 私立保育所

【事業量】

1,000,000円/ 1 施設 × 3 施設 = 3,000,000円

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

木のぬくもりや手触り、木の香りに触れることで、子どもの五感を刺激し、心身の豊かな成長を促すことや親子の癒しも期待出来る。電子おもちゃでは難しい遊びの広がりや想像力の向上と、自然や環境に親しみを感じると共に木の文化の伝承につながる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

各園に補助することで、園ごとの特色を活かした購入を行うことができるため、子供たちが使いやすいものを導入できる。

【新たな対策・視点及び改善点】

私立保育所において木製遊具を導入することにより、子どもの豊かな成長を支援するとともに、世代を超えた交流や、地元の森や緑を愛する心を育てることができる。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	菰野町	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
4	保育所等木製遊具購入補助事業				
事 業 費	3,000,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,000,000		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	その他	定額補助	1,000,000円/施設	私立保育所

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

菰野町内の認定私立保育所 3 園

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	私立保育所利用者：約300人
期待する波及効果	子どもの豊かな成長を支援するとともに、地元の森や緑を愛する心を育てる。

【公的関与の必要性】

公立幼保園・こども園との均衡を図るため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

各園で管理を行うため、目的外使用のおそれはない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
ロゴマーク掲示(シール・プレート等)	実施後	導入物品に焼き印もしくはシールによりロゴを掲示
HP掲載	実施後	当該年度の活動について、HPにて広報を行った。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

今回初めて事業を活用し、遊具等を導入しているが、新しいものということで、子供たちも興味津々である。感受性豊かな時期に木製遊具で遊ぶことは、子供たちの成長にもつながると感じているとのこと。

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	菰野町
------	-------------------	-----	-----

事業名	保育所等木製遊具購入補助事業
-----	----------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
補助金	補助金	式	3.00	1,000,000	3,000,000	
		合計			3,000,000	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	菰野町	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	保育所等木製遊具購入補助事業
-----	----------------

7の（1）. 写真



写真1

購入物品①



写真2

購入物品②



写真3

購入物品③



写真4

購入物品④



写真5

購入物品⑤

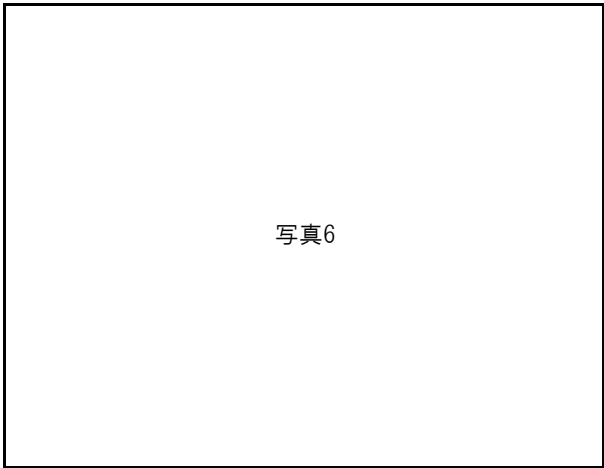


写真6

写真6

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	菰野町	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
5	シデコブシ群生地周辺林地整備				
事 業 費	4,896,540 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,896,540		

1. 事業の目的

菰野町田光の国指定天然記念物「シデコブシ及び湿地植物群落」の周辺林地において、未整備な状態が続いているため、間伐及び搬出等を行い、台風等の災害による倒木の危険性を除去するとともに、シデコブシや湿地植物等を守ることを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

周辺林地内において、倒壊危険木の伐採及び間伐を実施し、伐採木については搬出を基本とする。
また、三重県産材を利用した木製ベンチを設置する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

菰野町

【実施個所及び箇所数】

菰野町大字田光地内 シデコブシ及び湿地植物群落周辺

【事業量】

伐採工 81本 伐木 640m³

木製ベンチ 2台

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

菰野町田光の国指定天然記念物「シデコブシ及び湿地植物群落」の周辺林地において、間伐及び搬出等を行うことにより、台風等の災害による倒木の危険性を除去することで、道路の通行車両及び人の安全が確保されるとともに、シデコブシや湿地植物等を守ることで、当該地の景観もよくなる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

シデコブシ観察会を開催し、専門家からの説明の際に、事業の内容及び状況を説明していただき、事業の重要性を周知した。

【新たな対策・視点及び改善点】

国指定天然記念物である田光のシデコブシ及び湿地植物群落を守ることにより、森林に気軽に触れることができるとともに、重要性について触れる機会を与えることができる。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	菰野町	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
5	シデコブシ群生地周辺林地整備				
事 業 費	4,896,540 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,896,540		

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】				
【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】				
①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	造園業者	補助事業ではない		
【委託先及び補助対象者等の選定理由】				
町競争入札参加資格者名簿（業務委託）のうち、「清掃－屋外清掃－伐採」で登録があり、かつ所在地が町内にある業者のうち、町発注の同種業務の実績を有する業者（8 者）による指名競争入札				
【主な経費内訳】 (別紙のとおり)				
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】				
【受益者及び、期待する波及効果】				
受益者	田光区内住民及び「シデコブシ及び湿地植物群落」来訪者 約500名			
期待する波及効果	森林に気軽に触れることができるとともに、重要性について触れる機会を与える。			
【公的関与の必要性】				
「田光のシデコブシ及び湿地植物群落」は国指定天然記念物であるため。				
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】				
田光地区において維持管理を行っていく。国指定天然記念物のエリア内であるため、転用の恐れはない。				
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】				
【情報発信の内容】				
手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）		
ロゴマーク掲示(シール・プレート等)	実施後	導入物品に焼き印もしくはシールによりロゴを掲示。		
HP掲載	実施後	当該年度の活動について、HPにて広報を行った。		
7. 写真及びその他資料				
別紙のとおり				
8. その他特記事項（受益者の反応等）				
支障木を伐採したことにより、観察しに来た方々も見やすくなったことに加え、日光が当たるようになったことにより、湿地群の植生にもいい影響を与えているとの事。				

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	菰野町
事業名	シデコブシ群生地周辺林地整備		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
委託費	支障木伐採業務委託	式	1.00	4,730,000	4,730,000	松永産業株式会社
購入費	木製ベンチ 2 台	式	1.00	166,540	166,540	辻木材株式会社
		合計			4,896,540	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	菰野町	新規・継続の別	新規
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	シデコブシ群生地周辺林地整備
-----	----------------

7の(1). 写真



写真1

伐採前①



写真2

伐採後①



写真3

伐採前②



写真4

伐採後②



写真5

木製ベンチ



写真6

木製ベンチ（ロゴ）

資料 2－2

朝 日 町

令和5年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報「三重県市町要覧（令和5年度版）」「令和4年度版森林・林業統計書」による

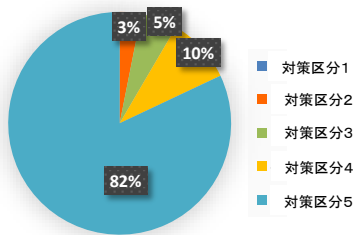
市町名	朝日町	三重県
人口（人）	11,140	1,731,863
年少人口割合（％）＊1	17.5%	11.6%
森林面積(ha)	63.06	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	63.06	348,561.87
森林率(%)	11.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	2.1	10.6

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区別事業費割合



2. 令和5年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）					
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5
1	2	里山・竹林環境保全支援事業（あさひ竹プロジェクト）	588,000	588,000		588,000			
2	3	森林環境教育事業（あさひ竹プロジェクト）	1,002,480	1,002,480			1,002,480		
3	4	森と緑とふれあう環境づくり事業（幼保一体化施設）	1,925,000	1,800,000				1,800,000	
4	5	教育文化施設ビオトープ再生整備事業	16,189,800	15,464,412					15,464,412
計			19,705,280	18,854,892	0	588,000	1,002,480	1,800,000	15,464,412

3. 令和5年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量 (ha・m)	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				
災害からライフラインを守る事前伐採事業				

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針	当町は三重県一小さい自治体であり、森林面積も約63haと狭小であるが、63haの25%に当たる約16haが竹林であり、竹林割合の高さでは県内一である。また、人口が増加し続け子どもが多い若い町であり年少人口（15歳未満人口）割合も日本一である。 これらの特徴を踏まえ、町と町民により適正に管理された竹林・里山・緑地や、そこから生み出される生産物等を通じ、若年層や親子が森や緑と親しめる取り組みに県民税を活用することで、竹林・里山・緑地が地域の中で魅力を発揮している姿を目指す。 その実現のため、幼児教育段階から緑に親しむ機会を創出する「幼保一体化施設の緑化」や、あさひ竹プロジェクトの一環として、竹を使った様々な体験・学びの場を創出する「森林環境教育事業」、町民による自主的な竹林・里山整備を支援する「里山・竹林環境保全支援事業」を実施した。また、令和5年度より新たに、集客力の高い町所有施設である教育文化施設内の調整池兼親水公園をビオトープとして再生し、町民が身近な水辺空間を楽しみ、生物多様性に係る認識を深めることを目指す「教育文化施設ビオトープ再生整備事業」を実施した。
事業実施により期待される効果	これまでのあさひ竹プロジェクトの取組の結果、町民の里山に関する関心が高まった結果自主的な里山整備が進み、整備された場所での親子たけのこ掘り体験等の企画に繋がっている。粉碎後の竹チップをコンポストに活用するという取り組みも始まっている。 竹あかりづくりは完全に地域に定着し、地域住民により干支（辰）のデザインの竹あかりづくりが企画され、元旦に地域の神社に展示されるなど、広がりを見せている。なお、地域住民主催の竹あかりづくりにおいては、全て町内の高齢者中心のサークル「竹細工サークル」が講師を務めており、竹あかりづくりを通じて世代間交流にも繋がっている。竹の花挿しはテレビ取材も多く、テレビ放送をきっかけに朝日町を訪れる方も現れている。 ビオトープは現時点では工事施行中であるが、工事中の現場では何を作っているのか？という町民からの問いかけは多く、関心の高さが伺える。 以上から、事業実施により里山やビオトープを中心にした自然を身近に感じ、大切にする機運が確実に高まっており、より多くの町民が自分事と捉え自ら行動する姿が期待される。
情報発信への取組	町のHP、広報紙等を通じた一般的なPRを実施したほか、竹プロジェクト関係の取組は各種メディアに、令和5年度は特にテレビに取り上げられている。また、竹あかりの来場者に対してQRコードを活用したアンケートを実施し良好なアンケート結果が得られたと同時に、多くの方にみえ森と緑の県民税の存在を周知することができた。

第 1 1 号様式（その 1）（参考資料）

令和5年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	⑰ 基金積立（森林整備等）	1,203	1,203
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	1,203	1,203

【記載要領】

ア、事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私有林整備
④ 公有林整備(財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他(森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他(人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他(木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立(森林整備等)
⑱ 基金積立(人材育成等)
⑲ 基金積立(木材利用等)
⑳ 基金積立(執行残額等)

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	里山・竹林環境保全支援事業（あさひ竹プロジェクト）				
事 業 費	588,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			588,000		0

1. 事業の目的

あさひ竹プロジェクトの一環として、町民による自律的な竹林・里山整備に係る活動を支援し、持続的な活動へとつなげることで町内の竹林・里山の安全性を高め、生活環境を向上させる。また、これらを通じ若年層や親子が森や緑と親しむ場として、竹林・里山が地域の中で魅力を発揮している姿を目指す。

2. 事業実績概要

【事業内容】

・町内の地域団体が自主的、計画的に里山や竹林を整備する取組みに対して事業費の一部を補助する

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

埋縄農家組合、小向里山保全会 竹切の翁

【実施箇所及び箇所数】

埋縄地区の竹林、小向地区の里山 計2箇所

【事業量】

0.6ha

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

町民による自律的な竹林・里山整備に係る活動が持続的な活動へとつながり、町内の竹林・里山の地域における交流拠点としての機能を向上させ、安全性を高める。これらを通じ若年層や親子が森や緑と親しむ場として、活用している姿が期待できる。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

昨年度、みえ森と緑の県民税を活用し町で購入したチップperを貸し出すことで効率的な整備に繋がっている。整備された竹林でたけのこ掘体験を実施し、参加者から参加費を徴収することで自主財源の一部となっている。

【新たな対策・視点及び改善点】

これまで実施してきた「森林環境教育事業（あさひ竹プロジェクト）」の結果、「竹あかりづくり」が広まり町内の各種団体主催により開催されるようになった。その際、この事業で伐採された竹が材料として活用されるようになっている。また、竹の粉を使ったコンポストを実験的に実施したいという町民に対して、当事業で伐採・粉碎後の竹粉の提供が行われた。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
1	里山・竹林環境保全支援事業（あさひ竹プロジェクト）				
事 業 費	588,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			588,000		0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
補助事業	活動団体	3/4以内	上限 5 0 万円	

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

・町民主体により組成された、規約等を備え、代表者・会計担当者が明確であり、民主的に運営が行われている団体であること。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	生活環境が向上する2地区 約800戸
期待する波及効果	自主的な里山整備が進み、整備された場所での親子たけのこ掘り体験等の企画に繋がっている。粉碎後の竹チップをコンポストに活用するという取り組みも始まっている。

【公的関与の必要性】

放置された里山・竹林の問題は所有者個人の問題となりがちであるが、放置竹林等への問題意識を持つ住民による自主的な里山整備を行政が支援することで、里山を地域資源として捉え町民全体で解決を図る機運醸成に繋げる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

補助事業により購入された物品等は各団体により適切に管理するものとする。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
広報誌掲載	実施中	広報誌にてみえ森と緑の県民税を活用した事業全体について紹介する記事内において当事業も紹介（10月号）
TV（行政チャンネル等）	実施中	NHK全国放送の番組「1ミリ革命」にて竹粉コンポストをテーマにしたオンライン会議に出演、放送

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり 写真を添付

8. その他特記事項（受益者の反応等）

補助金により効率的な里山整備に繋がっており、参加者も増加している。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	朝日町
------	-----------------	-----	-----

事業名	里山・竹林環境保全支援事業（あさひ竹プロジェクト）
-----	---------------------------

主な経費内訳

補助金

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
補助金	埋縄農家組合	団体	1.00	88,000	88,000	
補助金	小向里山保全会 竹切の翁	団体	1.00	500,000	500,000	
		合計			588,000	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	里山・竹林環境保全支援事業（あさひ竹プロジェクト）
-----	---------------------------

7の(1). 写真



写真1

埋縄農家組合 活動状況 作業前



写真2

埋縄農家組合 活動状況 粉碎しコンポスト用に竹粉提供



写真3

埋縄農家組合 活動状況 作業後



写真4

埋縄農家組合 整備箇所での親子たけのこ掘り体験



写真5

小向里山保全会 竹切の翁へチップー貸出



写真6

小向里山保全会 竹切の翁 粉碎後の竹粉

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
------	-----------------	-----	-----	---------	----

事業名	里山・竹林環境保全支援事業（あさひ竹プロジェクト）
-----	---------------------------

7の(2). その他の資料

みえ森と緑の県民税を活用した事業全体についての紹介記事（広報あさひ10月号）



み 森と緑の県民税 え の活用について

三重県は平成26年度より「みえ森と緑の県民税」を導入し、各市町に対して「みえ森と緑の県民税町交付金」を交付しています。朝日町ではこの交付金を効果的に活用し、施策を展開しています。これまでの具体的な取り組みを紹介いたします。

■あさひ園の芝生維持管理

園児たちが身近な緑と触れ合う体験を通じて、緑の良さを知ってもらうことを目的に、あさひ園の芝生の維持管理をしています。

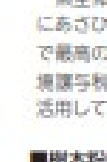
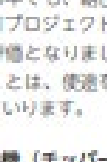
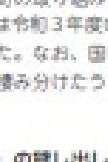


■あさひ竹プロジェクトの各種事業

町民の皆さんの竹への関心を高めることを目的に、あさひ竹プロジェクトとして多様な事業を開催しています。

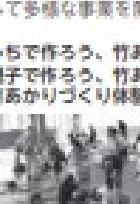
- ・おうちで作ろう、竹あかり！
や親子で作ろう、竹あかり！等の竹あかりづくり体験
- ・町内各地での竹あかりの展示
- ・竹テントづくりワークショップ
- ・竹窯（たけかこ）づくりワークショップ
- ・竹の花押しプロジェクト



■樹木粉砕機（チップパー）の貸し出し

令和4年度に樹木粉砕機（チップパー）を購入し、町民主体の団体に貸し出しています。ご関心がある方はご連絡下さい。



スペック：

株式会社大橋
樹木粉砕機 GS152GH
燃 料：ガソリン
最大出力：16.9KW程度
処理可能径：最大150mm程度

■里山保全活動への補助

令和4年度より町民による自主的な里山保全活動への補助制度をスタートしています。ご関心がある方はご連絡下さい。

補助対象者：自主的に保全活動を行う団体に次に掲げる要件を全て満たすもの

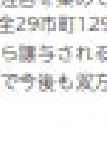
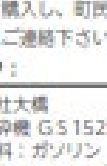
- ・継続的に活動を行うことができること。
- ・構成員の過半数が、本町に在住、在勤又は在学していること。
- ・規約等を有し、代表者及び経理について定められていること。
- ・活動の実施につき、土地所有者に説明を行い、同意を得ていること。

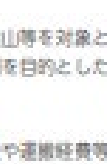
補助対象経費：里山保全活動に関する機械器具類の購入費、燃料費、消耗品費、保険料等

補助率：補助対象経費の75%以内（上限50万円）

■木製おもちゃ、木製玩具等の購入

日常的に木に触れ、木の良さを知っていただくことを目的に、あさひ園の木製おもちゃ、資料館や教育文化施設の木製玩具などを購入しました。







問い合わせ先
産業建設課
TEL 377-5658

当事業

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
2	森林環境教育事業（あさひ竹プロジェクト）				
事 業 費	1,002,480 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,002,480		0

1. 事業の目的

あさひ竹プロジェクトの一環として、竹林面積割合が県内一である特徴を活かし、竹を地域資源として見つめ直し、竹を通じた新旧住民の交流を生み出すことで、町全体で竹・竹林の活用や課題解決に向けた関心を喚起することを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

①町民が集う場（朝日町資料館）にて竹あかり展示を実施した。

②竹あかりを作製するワークショップや工具を貸出し自宅で作る「おうちで作ろう、竹あかり！」を実施した。

③町民主体による竹あかりづくりを支援した。

④町民主体により竹の花挿しを作製し、町民の協力を得て東海道に設置する取組を支援した。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

朝日町（一部町民主体により実施）

【実施個所及び箇所数】

2箇所（資料館、東海道沿い）

【事業量】

展示イベント来場者数延べ1,000人程度、竹あかり道具貸出34件、町民等の主催竹あかりづくりイベント6回（参加者数155人）

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

三重県一竹林面積割合が高い当町において、子ども、親子、地域住民が竹の魅力に触れることをきっかけに、朝日町の竹・竹林への理解を深め住民主体による自律的な竹林整備への参加者・協力者数を増やす。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

町有の登録有形文化財「朝日町資料館」において竹あかりの展示を実施し、合わせて通常開館しない夜間における開館「ナイトミュージアム」を実施。相乗効果により好評であった。

【新たな対策・視点及び改善点】

竹の花挿し展示については、3年目を迎え東海道全体への設置が完了した。竹あかりづくりは完全に定着し、子ども会、神社、学童保育、商工会によって主体的な竹あかりづくりイベントが開催され、いずれも多数の参加者があった。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
2	森林環境教育事業（あさひ竹プロジェクト）				
事 業 費	1,002,480 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,002,480		0

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
直営	その他	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

・専門性の高い竹あかりの演出・展示については、県総合文化センター等での実績が豊富な県内事業者を選定（1者随契）

【主な経費内訳】

（別紙のとおり）

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	展示イベント来場者数延べ1,000人程度、竹あかり道具貸出34件 町民等の主催による竹あかりづくりイベント参加者155人、竹の花挿し設置協力30軒（柿地区の東海道沿い民家）
期待する波及効果	これまでの取組の結果町民の竹・竹林への関心は確実に高まっており、既の実現した里山整備団体への参加者促進効果が期待される。竹あかりづくりは完全に地域に定着し、地域住民により干支（辰）のデザインの竹あかりづくりが企画され、元旦に地域の神社に展示されるなど、広がりを見せている。なお、地域住民主催の竹あかりづくりにおいては、全て町内の高齢者中心のサークル「竹細工サークル」が講師を務めており、竹あかりづくりを通じて世代間交流にも繋がっている。竹の花挿しはテレビ取材も多く、テレビ放送をきっかけに朝日町を訪れる方も現れている。

【公的関与の必要性】

竹林の問題は竹林所有者個人の問題となりがちであるが、竹や竹林の魅力に触れ、関心を持つきっかけを行政が作ることで竹林と無関係である住民も含めて竹林を地域資源としてとらえ、町民全体で解決を図る機運醸成に繋げる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

購入した工具類等については引き続き役場により適切に管理する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
のぼり設置	実施中	竹あかり会場（資料館）にのぼりを設置
HP掲載	実施前・中・後	竹あかり展示前、中、後にHPに記事を掲載
アンケート実施	実施中	竹あかり展示時にアンケート実施
広報誌掲載	実施前	竹あかりの展示について案内する記事を広報誌に掲載
TV（行政チャンネル等）	実施後	地元ローカル局（CCnet）にて各事業について放送
TV（行政チャンネル等）	実施後	竹の花挿しが三重テレビ「Mieライブ！」及び「新ええじゃないか」にて放送
その他	実施中	中日新聞で竹あかりの展示について紹介する記事掲載
TV（行政チャンネル等）	実施後	竹細工サークルの竹あかりの指導等がメーテレ「ドデスカ！」にて放送

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

町の経費としては減っているが衰退している訳でなく、町民主体により活動は活発化しており当初の目指す姿の通りである。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	朝日町
------	-------------	-----	-----

事業名	森林環境教育事業（あさひ竹プロジェクト）
-----	----------------------

主な経費内訳

委託料、消耗品費

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
委託料	竹あかりイベント開催 委託料	回	1.00	878,900	878,900	
委託料	竹あかりイベント写真 撮影業務	回	1.00	33,000	33,000	
消耗品費	竹あかりづくり及び竹 の花挿し作製等消耗品	式	1.00	90,580	90,580	
		合計			1,002,480	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林環境教育事業（あさひ竹プロジェクト）
-----	----------------------

7の(1). 写真



写真1

竹あかりの展示in資料館

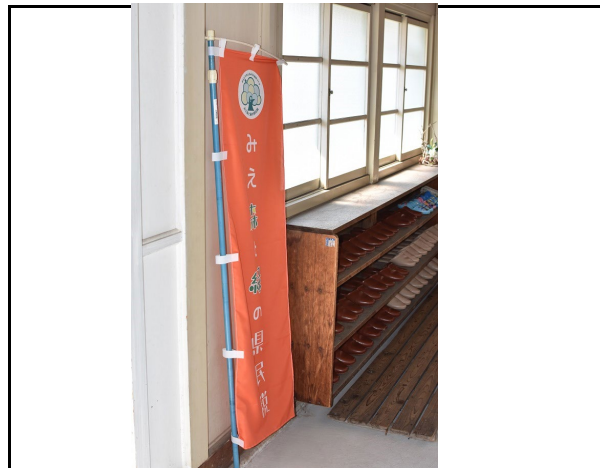


写真2

資料館内のぼり設置



写真3

竹あかり作製用 貸出キット



写真4

竹の花挿しの設置



写真5

イベント時の竹の花挿し絵付け体験



写真6

写真6

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林環境教育事業（あさひ竹プロジェクト）
-----	----------------------

7 の（2）. その他の資料

竹あかり展示（資料館）記事（中日新聞R5. 8. 15）

竹あかりづくりテレビ放送切り抜き（メーテレ「ドデスカ！」R6. 2. 20）

竹の花挿しテレビ放送切り抜き（CCnet北勢局「ウィークリーあさひ」R5. 10. 30の週）

竹の花挿しテレビ放送切り抜き（三重テレビ「Mieライブ R5. 10. 3）

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	森林環境教育事業（あさひ竹プロジェクト）
-----	----------------------

7の（2）. その他の資料 町公式HP記事（竹あかりの展示 in 朝日町資料館・ナイトミュージアム）

「竹あかりの展示 in 朝日町資料館」を開催しました！

更新日：2023年8月21日

令和2年度からスタートしたPEEK-A-BAMBOO!あさひ竹プロジェクト。「みえ森と緑の県民税」を活用し竹への関心を高めることを目的に様々な事業を開催しています。



PEEK-A-BAMBOO!あさひ竹プロジェクト公式ロゴマーク

「朝日まちなみプラン」の一環で改修整備した朝日町資料館にて、令和5年8月7日(月)から21日(月)まで竹あかりの展示を行いました。夏の夜を彩る竹あかりは、登録有形文化財である朝日町資料館の和風の雰囲気とマッチして幻想的で趣深いものとなりました。




【同時開催】

朝日町資料館ナイトミュージアム（夜間開館）

同時開催企画として、当該期間のみ特別に朝日町資料館を夜間開館（18時から20時まで）しました。普段は開いていない夜間の開館に多くの来館者があり、「竹あかりは綺麗で、写真を撮りたくなった。資料館も雰囲気良く、展示も見やすく、初めて入る良いきっかけとなった」、「地域の魅力に触れられてよい企画でした」という声が寄せられました。




なお、この事業はみえ森と緑の県民税を活用して実施しました。



第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
3	森と緑とふれあう環境づくり事業（幼保一体化施設）				
事 業 費	1,925,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,800,000		125,000

1. 事業の目的

公共施設（幼保一体化施設）の園庭を緑化することにより、幼児教育の場において園児が緑にふれあい、森や草木を大切にすることを養うための環境をつくることを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】

幼保一体化施設（あさひ園）の芝生の維持管理（平成28年度～30年度みえ森と緑の県民税市町交付金を活用して緑化した芝生）

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

朝日町

【実施箇所及び箇所数】

1箇所

【事業量】

芝生面積（あさひ園）延べ1,286㎡

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

裸足で芝生の上で遊ぶ園児もあり、芝生や緑の心地よさの実感に繋がる。また、それらの体験からも草木を大切にすることを養う。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

あさひ園は約400名の園児を抱える県内有数のマンモス園であり、多数の園児が日常的に走り回る園庭に芝生は劣化が激しいため、区画分けをして計画的に芝生の維持管理を図っている。

【新たな対策・視点及び改善点】

新たにあさひ園通信「えんだより」にみえ森を活用して芝生を維持管理していることを紹介する記事を掲載した。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり		市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
3	森と緑とふれあう環境づくり事業（幼保一体化施設）				
事 業 費	1,925,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,800,000		125,000

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
委託事業	造園業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

令和2年度から実施している長期的な維持管理のため昨年度受託者である地元造園業者に委託（1者随契）

【主な経費内訳】

（別紙のとおり）

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	園児、職員等約500名
期待する波及効果	子どもたちはもとより、保護者にとっても最も身近な緑とのふれあいにつながる

【公的関与の必要性】

町有施設の整備であるため

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

町有施設の整備であるため、今後も引き続き担当課により適切に管理する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	みえ森を活用して芝生整備をしている旨を記載した記事を掲載している
標識・標柱等設置	実施前・中・後	入り口付近にみえ森を活用して芝生を維持管理している旨を記載した看板を設置している。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

・毎日多くの園児が園庭を利用しており、時には裸足で走り回ることもあり芝生の心地よさを肌で感じていると思われ、保育士や保護者からも好評である。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	朝日町
事業名	森と緑とふれあう環境づくり事業（幼保一体化施設）		

4. 効率性：主な経費内訳

幼保一体化施設（あさひ園）の芝生の維持管理

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
工事請負費	芝刈り	m ²	3600.00	38	136,800	
工事請負費	施肥	m ²	1200.00	47	56,400	
工事請負費	エアレーション	m ²	3600.00	40	144,000	
工事請負費	人力除草	m ²	1000.00	99	99,000	
工事請負費	目土掛け	m ²	2400.00	97	232,800	
工事請負費	掘削	m ³	1.00	5,174	5,174	
工事請負費	ダンプトラック運搬	m ³	1.00	2,434	2,434	
工事請負費	産廃処理施設受入料金	m ³	1.00	12,900	12,900	
工事請負費	防草シート設置工	m ²	20.00	17,619	352,380	
工事請負費	共通仮設費	式	1.00	11,200	11,200	
工事請負費	現場管理費	式	1.00	440,000	440,000	
工事請負費	一般管理費	式	1.00	256,912	256,912	
工事請負費	消費税	式	1.00	175,000	175,000	
		合計			1,925,000	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と緑とふれあう環境づくり事業（幼保一体化施設）
-----	--------------------------

7の(1). 写真



写真1

園庭に設置されている看板



写真2

園庭で遊ぶ児童



写真3

園庭で遊ぶ児童



写真4

HP掲載画像



写真5



写真6

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	朝日町	新規・継続の別	継続
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	森と緑とふれあう環境づくり事業（幼保一体化施設）
-----	--------------------------

7 の（2）. その他資料

HP掲載記事

朝日町について | 暮らしの情報 | 施設一覧 | 組織から探す

トップページ > 暮らしの情報 > 子育て・教育 > 保育園・幼稚園 > お知らせ > 令和 5 年度みえ森と緑の県民税を

令和 5 年度みえ森と緑の県民税を利用して

更新日：2024年3月25日

あさひ園では「みえ森と緑の県民税」を利用して、園庭の芝生の維持管理をさせていただきました。

園庭には、芝生を中心に、できるだけ樹木や植物を多く植え、子どもたちで育てることで、緑の大切さを伝えています。

子どもたちは、やわらかく、水はけの良い天然芝のうえで元気いっぱい遊び、屋内では木や緑に関する絵本を読み、森や緑の大切さを学んでいます。

[あさひ園の様子 \(PDF/750KB\)](#)

このページに関する問い合わせ先

あさひ園
電話番号：059-371-5671



第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	朝日町	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
4	教育文化施設ビオトープ再生整備事業				
事 業 費	16,189,800 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			12,261,520	3,202,892	725,388

1. 事業の目的

集客力の高い町所有施設である教育文化施設内の調整池兼親水公園をビオトープとして再生し、町民が身近な水辺空間を楽しみ、生物多様性に係る認識を深めることを目指す。

2. 事業実績概要

【事業内容】

- ・教育文化施設内の調整池兼親水公園をビオトープとして再生整備する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

朝日町

【実施個所及び箇所数】

- ・教育文化施設内親水公園兼調整池 1か所約1500㎡

【事業量】

- ・教育文化施設内親水公園兼調整池 1か所約1500㎡

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

集客力の高い町所有施設である教育文化施設内の調整池兼親水公園を再生整備することで町民にとって身近な水辺空間を創出し、環境教育学習を通じて生物多様性への理解深化が期待される。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

観察デッキ等を整備することで環境教育に適したビオトープとして再生を図る。また、完成後に隣接する教育文化施設内の図書館において生物多様性に関する書籍の紹介コーナー設置などの企画を行う。

【新たな対策・視点及び改善点】

- ・資機材費、物価の高騰により観察用デッキは最低限の大きさに修正した。
- ・町で別事業として行っている町内の生物調査の結果も踏まえ、投入する生体を検討する

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	朝日町	新規・継続の別	新規
------	--------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
4	教育文化施設ビオトープ再生整備事業				
事 業 費	16,189,800 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			12,261,520	3,202,892	725,388

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び 補助対象者等	③補助率・ 負担率等	④補助の上限及び 定額補助の額	備考
委託事業	建設業者	補助事業ではない		

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

設計及び工事について町の基準に則り指名競争入札により実施

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	受益者：身近な水辺空間を楽しむ利用者 のべ約5,000人
期待する波及効果	町民が水辺空間を楽しむことを通じて、町民の生物多様性に対する理解が深まる

【公的関与の必要性】

調整池兼ビオトープは町所有の施設であるため

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

町にて適切に管理する

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
施工看板に掲示	実施中	
のぼり設置	実施中	

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

現時点では工事施行中であるが、工事中の現場では何を作っているのか？という町民からの問い合わせは多く、関心の高さが伺える。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	朝日町
------	--------------------	-----	-----

事業名	教育文化施設ビオトープ再生整備事業
-----	-------------------

主な経費内訳

委託料、工事請負費

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
設計積算業務委託	業務費合計				7,139,000	
(内訳)	現地補足調査	式	1.00	199,260	199,260	
	基本設計	式	1.00	441,472	441,472	
	実施設計	式	1.00	1,190,322	1,190,322	
	工費積算	式	1.00	474,669	474,669	
	打合せ	式	1.00	292,860	292,860	
	電子成果品作成費	式	1.00	223,200	223,200	
	その他原価	式	1.00	1,399,337	1,399,337	
	一般管理費	式	1.00	2,268,880	2,268,880	
	消費税	式	1.00	649,000	649,000	
ビオトープ改修工事費	工事費合計				9,050,800	
	掘削工	式	1.00	533,041	533,041	
	小運搬工	式	1.00	384,081	384,081	
	残土処理工	式	1.00	774,511	774,511	
	法面整形工	式	1.00	72,888	72,888	
	張りコンクリート工	式	1.00	825,349	825,349	
	植生工	式	1.00	61,153	61,153	
	擁壁工 作業土工	式	1.00	57,601	57,601	
	場所打擁壁工	式	1.00	259,300	259,300	
	付属施設工 作業土工	式	1.00	39,657	39,657	
	縁石工	式	1.00	168,241	168,241	
	特殊ブロック設置工	式	1.00	4,189	4,189	
	移設工	式	1.00	63,718	63,718	
	舗装工	式	1.00	150,101	150,101	
	構造物取壊し工	式	1.00	410,111	410,111	
	仮設工	式	1.00	256,697	256,697	
	共通仮設費	式	1.00	636,308	636,308	
	現場管理費	式	1.00	2,002,140	1,994,730	
	一般管理費	式	1.00	1,536,022	1,536,324	
	消費税	式	1.00	823,102	822,800	
	合計				16,189,800	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	朝日町	新規・継続の別	新規
------	--------------------	-----	-----	---------	----

事業名	教育文化施設ビオトープ再生整備事業
-----	-------------------

7の（1）. 写真



写真1

現場（着手前）



写真2

現場（工事中）



写真3

現場（工事中：全景）



写真4

現場看板の表示とのぼり

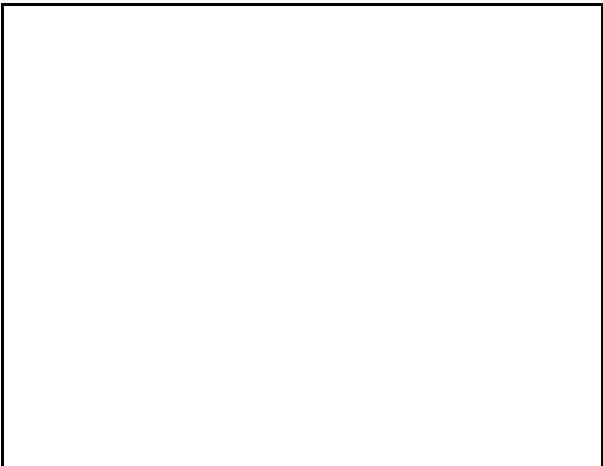


写真5



写真6

写真6

資料 2－2

川 越 町

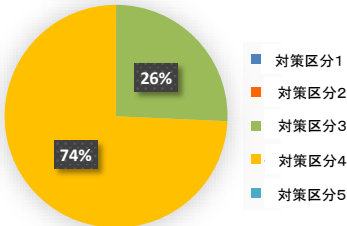
令和5年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報「令和5年度版三重県市町要覧」「令和4年度版森林・林業統計書」による

市町名	川越町	三重県
人口（人）	15,492	1,731,863
年少人口割合（％）＊1	14.3%	11.6%
森林面積(ha)	0.00	372,030.08
民有林面積(ha)＊2	0.00	348,561.87
森林率(%)	0.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	0.3	10.6

＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合
＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含みます。）
＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和5年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費 (円)	交付金充当額（円）（当年度交付金額＋基金活用額）						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	基金積立
1	3	川越中学校自然教室	1,330,216	835,000			835,000			
2	3	川越北小学校自然教室	799,808	387,000			387,000			
3	3	川越南小学校自然教室	506,065	286,000			286,000			
4	4	川越北小学校図書室棚購入	550,000	522,000				522,000		
5	4	川越町ボランティア施設 （仮称）建設工事	117,128,000	3,835,000				3,835,000		
計			120,314,089	5,865,000	0	0	1,508,000	4,357,000	0	0

3. 令和5年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）（防災枠）事業実績

事業区分	事業量 (ha・m)	事業費 (円)	内交付金充 当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	0	0	0	
森林再生力強化対策事業	0	0	0	
災害からライフラインを守る事前伐採事業	0	0	0	

4. 事業方針及び事業実施により期待される効果、情報発信への取組

事業方針
当町は三重県の北部に位置し、北は員弁川、東は伊勢湾に臨む地形であり森林を有していない町です。 人口は増加しており、年少人口割合は県平均を上回っている状況にあります。この状況において、学校施設への木製備品の設置や自然の中で森林や木材について学ぶ機会をもつことで、森林や緑を大切に思い育む人づくりを進めます。また、公共施設の木質化を通じて、町民が森林や木材について、学びふれあう場を提供することで森林教育を行います。
事業実施により期待される効果
緑豊かな環境の中で、集団生活を通じ学校生活においての「仲間づくり」や「信頼関係」の土台を築き、自然と触れ合うことで、身近な木や緑に親しむ機会を増加させることができる。また、身近な公共施設への県産材の使用や、学校で木製品に触れることにより、三重県の森林や木材への関心を深めてもらい木の温もり、肌触りや香りを身近に感じることができ、木材利用に対する理解や関心が深まる。
情報発信への取組
学校だよりや学年通信を活用し、自然教室を通じた子供の成長や取組について、情報を提供した。 また、町HPを活用し、みえ森と緑の県民税市町交付金の活用実績について、情報発信した。

第 1 1 号様式（その 1）（参考資料）

令和 5 年度森林環境譲与税事業の実績

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税 (千円)
1	⑲ 基金積立（木材利用等）	1,580	1,580
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	1,580	1,580

【記載要領】

ア、事業カテゴリーの欄は下記の項目から該当するものを選択し記載するものとする。

事業カテゴリーの項目
① 意向調査の準備作業
② 意向調査
③ 私所有林整備
④ 公有林整備(財産区有林含む)
⑤ 森林保護対策
⑥ 林道・林専道の整備等
⑦ その他(森林整備)
⑧ 担い手確保
⑨ 林業就業者の育成
⑩ 専門員の雇用
⑪ 新たな組織の設立
⑫ その他(人材育成等)
⑬ 木造公共建築物の整備等
⑭ 木質バイオマス利用推進
⑮ 森林・林業・木材普及活動等
⑯ その他(木材・普及啓発関係)
⑰ 基金積立(森林整備等)
⑱ 基金積立(人材育成等)
⑲ 基金積立(木材利用等)
⑳ 基金積立(執行残額等)

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	川越町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	川越中学校自然教室				
事 業 費	1,330,216 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			835,000	0	495,216

1. 事業の目的

野外体験活動を通じて、自然に親しみ自ら自然体験を求めていくきっかけをつくるとともに
集団生活の中で人間的なふれあいを深めることで、心身ともに健全で森や緑の大切さを知る青少年の
育成を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

中学1年生を対象に、国立曾爾青少年自然の家で1泊2日の集団生活を送る中で、オリエンテーリングや自然観察など自然と触れ合う活動を実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

川越町

【実施箇所及び箇所数】

1 箇所（国立曾爾青少年自然の家）

【事業量】

自然教室 1 回

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

緑豊かな環境の中で、集団生活を通じて、社会性を育むことができ、さらに自然に触れ合うことで、身近な木や緑に親しむ習慣が身についた。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

屋外活動では、昼間は屋外での体験を中心に学習し、夕方は屋内で体験のふりかえりを行うことで一層の学習効果の向上を図った。

【新たな対策・視点及び改善点】

新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類に移行しているとはいえ、一定の感染症対策を講じたうえでの事業実施となった。今後も継続的に自然教室を実施することにより、森林や緑と接し、生徒の心身ともに調和のとれた健全な育成を図ることを目的として実施する。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	川越町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
1	川越中学校自然教室				
事 業 費	1,330,216 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			835,000	0	495,216

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
直営				

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

直営のため該当しない。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	生徒157人
期待する波及効果	家族や友人などと自然と触れ合う機会を求めるきっかけとなる

【公的関与の必要性】

中学校の授業の一環であるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等でなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	町民
学校だより等掲載	実施後	生徒、保護者

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

自然教室を通じて、クラスや学年と深く交流し、成長と課題のどちらも感じられ、これを日常生活にどのように活かしていくか、振り返りが必要であると思われる。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	川越町
事業名	川越中学校自然教室		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
交通費	バス	台	5.00	157,700	788,500	
宿泊費		泊	1.00	47,100	47,100	宿泊代・リネン代
食糧費		式	1.00	406,360	406,360	夕食・朝食・夜食 飲料・野外炊事代
活動費		式	1.00	87,486	87,486	薪・ゴミ袋・清掃用 具・事前準備（しお り等）・事後活動費 （新聞作成費）・ AED借用・熱中症予 防
振込手数料		式	1.00	770	770	
		合計			1,330,216	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	川越町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	川越中学校自然教室
-----	-----------

7の（1）. 写真



写真1

自然観察



写真2

自然観察



写真3

自然観察



写真4

野外炊事



写真5

野外炊事

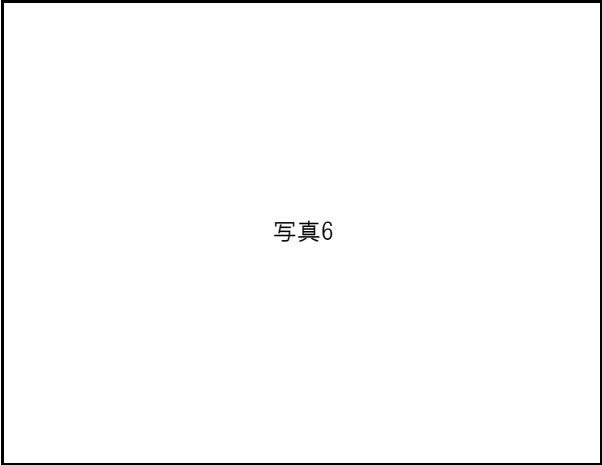


写真6

写真6

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	川越町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	川越中学校自然教室
-----	-----------

7 の（2）. その他資料

HP 抜粋

【1年生の保護者の皆さまへ「自然教室のお礼」】

昨日5月17日(水)～18日(木)の2日間にかけて実施した、1年生の自然教室を本日無事終了をいたしました。17日(水)は三重県内の気温が30度を超えるような暑さが予報される中、活動の実施等について、保護者の皆さまには大変ご心配いただきました。スポーツドリンクの持参。お昼のお弁当への配慮、帽子の用意等、大変お世話になりました。保護者の皆さまのご支援によって子どもたちは体調不良やケガ・事故等がほぼなく、2日間の日程を安心・安全に送ることができました。



第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	川越町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名					
2	川越北小学校自然教室					
事 業 費	799,808 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			387,000	0	412,808	

1. 事業の目的

集団生活の中で、自分の役割を果たし、互いに協力し合うことにより、仲間同士のつながりを深めるとともに、自然に親しみ自ら自然を大切にする人づくりを進める。

2. 事業実績概要

【事業内容】

小学5年生を対象に、四日市市で1泊2日の集団生活を送る中で、アスレチックや焼き杉づくりなど自然と触れ合う活動を実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

川越町

【実施個所及び箇所数】

1 箇所（四日市市少年自然の家）

【事業量】

自然教室 1 回

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

緑豊かな環境の中で、集団生活を通じて、社会性を育むことができ、さらに自然に触れ合うことで、身近な木や緑に親しむ習慣が身についた。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

屋外活動では、昼間は屋外での体験を中心に学習し、夕方は屋内で体験のふりかえりを行うことで一層の学習効果の向上を図った。

【新たな対策・視点及び改善点】

新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類に移行しているとはいえ、一定の感染症対策を講じたうえでの事業実施となった。今後も継続的に自然教室を実施することにより、森林や緑と接し、児童の心身ともに調和のとれた健全な育成を図ることを目的として実施する。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	川越町	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
2	川越北小学校自然教室				
事 業 費	799,808 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			387,000	0	412,808

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
直営				

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

直営のため該当しない。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	生徒79人
期待する波及効果	家族や友人などと自然と触れ合う機会を求めるきっかけとなる

【公的関与の必要性】

小学校の授業の一環であるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等でなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	町民
学校だより等掲載	実施後	生徒、保護者

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

自然教室を通じて、初めての体験や自然の中でしか味わえない爽快感を感じながら、仲間と協力する意識をもつことができ、充実したものとなった。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	川越町
事業名	川越北小学校自然教室		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
交通費	バス	台	3.00	88,000	264,000	
	バス 手数料	式	1.00	440	440	
宿泊費		泊	1.00	123,300	123,300	宿泊代・リネン代
食糧費		式	1.00	195,300	195,300	夕食・朝食・夜食 野外炊事費
活動費		式	1.00	215,998	215,998	創作活動（焼き杉） 薪・レクリエーション費等
振込手数料		式	1.00	770	770	
		合計			799,808	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	川越町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	川越北小学校自然教室
-----	------------

7の(1). 写真



写真1

焼き杉づくり



写真2

自然の中でアスレチック



写真3

焼き杉づくり



写真4

自然の中で朝のつどい



写真5

自然の中で朝のつどい



写真6

写真6

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	川越町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	川越北小学校自然教室
-----	------------

7の(2). その他資料

学校だより：メタセコイア

川越町立川越北小学校により

メタセコイア

心ゆくまでたくましく、自ら進んで学ぶ意欲にあふれた子どもの育成

令和5年12月4日 第19号

6年生 三浦小学校音楽会

11月17日(金)、6年生が学校代表として三浦小学校音楽会に出場しました。四日市市文化会館のステージに立ち、とても素敵な曲をつくりあげました。

6年生は、修学旅行、運動会など大きな行事に取り組んできた中で、この音楽会に向けた練習を集中して進めてきました。

そして、「たしかなこと」という曲の世界を、

第2回 学校関係者評

11月20日(月)、第2回学校関係者評価委員会委員の3名の先生に本校の教育活動等について、授業の様子や子どもたちの様子、学校で英語に触れている時代になった。保護者の皆さんが減少している。過重労働を軽減する。家庭教師の派遣や地域ぐるみで高めることも大

学校公開中止へのご理解とご協力、ありがとうございました。

11月はインフルエンザによる相次ぐ学年・学級閉鎖等でたいへんご心配をかけました。

11月20日(月)に予定していた学校公開も中止とさせていただきます。ご予定を調整して参加のご準備をさせていただいていた保護者の皆さま、たいへん申し訳ございませんでした。

つきましては、新しく、2024年1月24日(水)3・4限目を学校公開とさせていただきます。ご参観についてよろしくお願いします。

5年生 自然教室

5年生は11月28日(火)29日(水)、四日市市少年自然の家で自然教室を行いました。学年閉鎖等の影響で十分な準備ができなかった分、子どもたちはその時々状況にあわせて、自分で考え、周り相談して、助け合いながら活動をしていました。「みんなでスマイル」もたくさん見られ、大きく成長した二日間でした。

保護者の方々には準備物の用意などご協力ありがとうございました。

<自然教室スローガン>

心を一つに
最初で最後の自然教室
みんなで協力!
みんなでスマイル😊

1日目

アスレチック

焼き杉

星の広場で昼食

キャンプファイヤー

レク(モルック)

2日目

日の出ハイク

朝の集い

野外炊事

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	川越町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	川越北小学校自然教室
-----	------------

7 の（2）. その他資料

HP 抜粋

自然教室 焼杉体験

焼杉体験を行いました。
 木版の下絵をもとに、糸のこぎりで切り、かたちをつくります。
 ガスバーナーの火で杉板を焼きます。
 はじめはこわごわやっていますが、なれてくるとうまいものです。
 できあがりを楽しみます。

自然教室 1日目 昼食

自然の家に到着後、荷物を置いて「星の広場」へ移動しました。
 自然の中を歩いて、広場でお弁当を食べました。
 とても楽しい昼食タイムです。



第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	川越町	新規・継続の別	継続
番 号	事 業 名				
3	川越南小学校自然教室				
事 業 費	506,065 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			286,000	0	220,065

1. 事業の目的

集団生活の中で、自分の役割を果たし、互いに協力し合うことにより、仲間同士のつながりを深めるとともに、自然に親しみ自ら自然を大切にする人づくりを進める。

2. 事業実績概要

【事業内容】

小学5年生を対象に、四日市市で1泊2日の集団生活を送る中で、ウォークラリーや焼杉細工など自然と触れ合う活動を実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

川越町

【実施箇所及び箇所数】

1 箇所（四日市市少年自然の家）

【事業量】

自然教室 1 回

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

緑豊かな環境の中で、集団生活を通じて、社会性を育むことができ、さらに自然に触れ合うことで、身近な木や緑に親しむ習慣が身についた。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

屋外活動では、昼間は屋外での体験を中心に学習し、夕方は屋内で体験のふりかえりを行うことで一層の学習効果の向上を図った。

【新たな対策・視点及び改善点】

新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類に移行しているとはいえ、一定の感染症対策を講じたうえでの事業実施となった。今後も継続的に自然教室を実施することにより、森林や緑と接し、児童の心身ともに調和のとれた健全な育成を図ることを目的として実施する。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	川越町	新規・継続の別	継続
------	-------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
3	川越南小学校自然教室				
事 業 費	506,065 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			286,000	0	220,065

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
直営				

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

直営のため該当しない。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	生徒 64人
期待する波及効果	家族や友人などと自然と触れ合う機会を求めるきっかけとなる

【公的関与の必要性】

小学校の授業の一環であるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

施設整備等でなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
HP掲載	実施後	町民
学校だより等掲載	実施後	生徒、保護者

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

自然の中で木の枝・木の実を拾い創作活動をし、記念となる作品ができた。ウォークラリーも実施され、印象深い経験により、この先歳を重ねていくうえで、貴重な体験となった。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	川越町
事業名	川越南小学校自然教室		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
交通費	バス	台	2.00	88,000	176,000	
宿泊費		泊	1.00	87,680	87,680	宿泊代・リネン代
食糧費		式	1.00	129,540	129,540	夕食・朝食・夜食 2日目昼食
活動費		式	1.00	112,075	112,075	創作活動（焼き杉） 薪・レクリエーション費・消耗品費等
振込手数料		式	1.00	770	770	
		合計			506,065	

第11号様式(その2)(評価委員会資料)

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	川越町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	川越南小学校自然教室
-----	------------

7の(1). 写真



写真1

自然の中で昼食



写真2

焼き杉づくり



写真3

自然の中でウォークラリー



写真4

焼き杉づくり



写真5

自然の中でウォークラリー



写真6

自然の中でウォークラリー

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	川越町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	川越南小学校自然教室
-----	------------

7の(2). その他資料

学校だより：川越南小だより

川越南小だより



川越町立川越南小学校
令和5年12月5日発行
No. 13
学校教育目標（川越町教育基本方針）『豊かな心』をもつ子の育成 文責：校長 佐藤 顕一
めざす子どもの姿『一生懸命がんばる子』 めざす学校の姿『いじめを許さない学校』

11月21日（火）～22日（水）にかけて、6年生が修学旅行に行ってきました。天候にも恵まれ、1日目の最初の目的地は「関ヶ原の合戦」について、実際の場所を見学したりしながら、学習することができました。ついて学びました。その後、京都入り、初日ある花園会館に到着しました。2日目は、最初に金閣寺の見学です。かなりで待ったので、かなりスムーズに見学することができました。その後、東映太秦映画村での班別行動、で帰ってきました。紅葉の時期とも重なり、特に京都はかなりの中でしたが、6年生はみんなで協力し、早帰ってくることができました。今回の修学旅行。保護者の皆様、事前の準備や早朝・夕方



「三重郡子ども人権フォーラム」

11月28日（火）の午後、孤野町庁舎にて「三重郡子ども人権フォーラム」が開催されました。三重郡の小・中学校の代表が集い、人権について語り合う会です。川越南小学校からは、6年生の代表4名が参加しました。初めて会う子ばかりの中で話し合うため、最初の頃はみんな緊張気味ですが、自己紹介や簡単なゲームをするうちに次第に打ち解け、自分の考えをたくさん伝えることができたようです。この「三重郡子ども人権フォーラム」で学んだことについては、参加した代表から学年のみんなに報告してもらいます。



「5年生 自然教室」

11月30日（木）、12月1日（金）に、5年生が自然教室に行ってきました。場所は四日市市少年自然の家です。寒い時期ではありますが、子どもたちは元気いっぱい、ウォークラリーや焼杉細工、キャンプファイヤーや野外炊事など、自然の中で存分に活動を楽しむことができていました。小学校では初めての宿泊を伴う行事でしたが、友だちと協力して活動することの大切さや、集団行動でのルール・公共施設を利用するときのマナーなども学ぶことができました。今後の学校生活に生かしてもらいたいと思います。



第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	川越町	新規・継続の別	継続
------	-------------	-----	-----	---------	----

事業名	川越南小学校自然教室
-----	------------

7 の（2）. その他資料

HP 抜粋

自然教室

焼杉細工、完成しました。

自然教室

部屋長は部屋長会議、キャンプファイヤー係はファイヤーの準備をしています。



第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	川越町	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
4	川越北小学校図書室棚購入				
事 業 費	550,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			522,000	0	28,000

1. 事業の目的

川越北小学校の図書室の棚を整備し、利用する生徒に森林等の実情や問題について理解を深めてもらい関心をもってもらえる場をつくり木育学習を進めていく。

2. 事業実績概要

【事業内容】

図書室の棚を整備し、児童に森林等の実情や問題について理解を深めてもらい関心を持つような場をつくり木育学習を進めていく。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

川越町

【実施個所及び箇所数】

1 箇所（川越北小学校図書室）

【事業量】

木製書架（両面式） W1800×D480×H895 mm 3 台

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【事業実施により期待される効果】

県産材を使用することにより、木の温もり等の良さを感じてもらい、木材利用に対する理解が深まった。

【効果を発揮させるための工夫・取組】

児童が日常的に授業や休憩時間等で図書室を利用する際に県産材の木製品に触れる機会が増え森林や木材に対する親しみを感じ理解を深める。そのため、授業等で森林や木材について、学べる機会を設けた。今後、森林や木材に関する書籍について期間限定でのコーナーを設置し、みえ森と緑の県民税市町交付金を活用して整備された木製備品を紹介し、森林・木材に強い関心をもつような展開をしていく。

【新たな対策・視点及び改善点】

授業や休憩時間等で図書室を利用する際に、みえ森と緑の県民税市町交付金事業での整備をした棚を紹介してもらい、児童に森林や木材について学びふれあう場を創出する。

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり		市町名	川越町	新規・継続の別	新規
------	-------------------	--	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
4	川越北小学校図書室棚購入				
事 業 費	550,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			522,000	0	28,000

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
物品購入	木工製造業者			指名競争入札による

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

県内登録業者から県民税の契約実績のある業者を選定し、指名競争入札にて実施。

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	生徒513人
期待する波及効果	県産材利用の促進に寄与する。また、児童家族への普及効果も期待できる。

【公的関与の必要性】

公共施設であるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

公共施設であるため、転用等が想定されず、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
その他	実施後	図書室にて、備品整備に関連して、森や緑・自然に関係する書籍を展示した。
ロゴマーク掲示（シール・プレート等）	実施中・後	購入設置した備品本体にロゴマーク標示シールを設置。

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

実績のある事業者との契約により、品質もよく木製品の印象も良いものとなった。

第 11 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	川越町
------	-------------------	-----	-----

事業名	川越北小学校図書室棚購入
-----	--------------

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
木製書架	1800*480*895	式	1.00	522,500	522,500	3台
既存書架処分費		式	1.00	27,500	27,500	
		合計			550,000	

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	川越町	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	川越北小学校図書室棚購入
-----	--------------

7の（1）. 写真



写真1

図書室棚



写真2

図書室棚



写真3

図書室棚

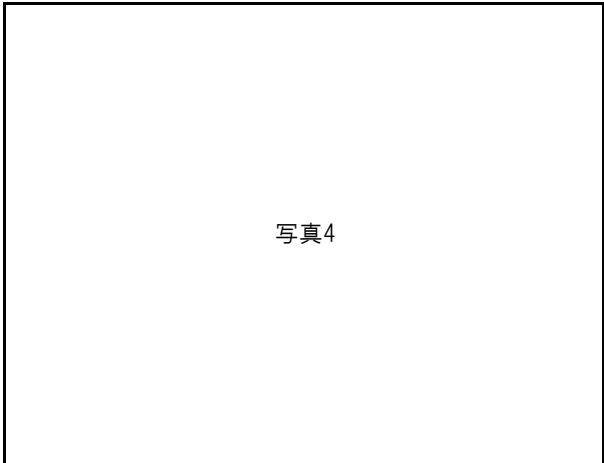


写真4

写真4



写真5

写真5



写真6

写真6

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

令和 5 年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	川越町	新規・継続の別	新規
番 号	事 業 名				
5	川越町ボランティア施設（仮称）建設工事				
事 業 費	117,128,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,835,000	0	113,293,000

1. 事業の目的
川越町の施設であり、幅広い年齢層が利用する川越町ボランティア施設（仮称）のホール及び活動室の一部を木質化し、町民を対象にした森林環境教育・木育を行う。
2. 事業実績概要
【事業内容】 床の木質化85.7㎡、腰壁の木質化33㎡ 【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 川越町 【実施箇所及び箇所数】 1 箇所（川越町ボランティア施設（仮称）） 【事業量】 床の木質化85.7㎡、腰壁の木質化33㎡
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】
【事業実施により期待される効果】 県産材を使用することにより、木の温もりや木の肌触りや香りを身近に感じることができ、木材利用に対する理解が深まった。 【効果を発揮させるための工夫・取組】 施設の利用者に対し、県産材で木質化された空間を肌で感じてもらい、森林や木材に対しての理解を深めるため、同施設内で県民税に関するパネル展示等を実施し、県民税の必要性や活用事例を紹介する。 【新たな対策・視点及び改善点】 木質化された空間の質感を維持し、木材の持つ長所・短所について考える場としても活用していく必要がある。

令和5年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	川越町	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

番 号	事 業 名				
5	川越町ボランティア施設（仮称）建設工事				
事 業 費	117,128,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,835,000	0	113,293,000

4. 効率性【事業目的を達成するため、事業実施に必要な経費が、効率的に活用されたか。】

【実施方法（委託（請負）先、補助対象者及びその選定理由）】

①実施方法	②主な委託先及び補助対象者等	③補助率・負担率等	④補助の上限及び定額補助の額	備考
工事請負	建設業者			一般競争入札による

【委託先及び補助対象者等の選定理由】

入札公告により応募のあった業者による一般競争入札による

【主な経費内訳】

(別紙のとおり)

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【受益者及び、期待する波及効果】

受益者	施設利用者
期待する波及効果	県産材利用の促進に寄与する。

【公的関与の必要性】

公共施設であるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

公共施設の内装木質化であり該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果を広く県民に周知することで、「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」への県民の理解が深められたか。】

【情報発信の内容】

手段	時期	情報発信の場所・対象・内容など（自由記載）
パネル展示	実施前	みえ森と緑の県民税を活用した取組の一環として、ホールにてパネルを展示する。
HP掲載	実施前	町民

7. 写真及びその他資料

別紙のとおり

8. その他特記事項（受益者の反応等）

新たにオープンする（令和6年5月1日）施設であり、完成からオープンまでの期間に視察された方の反応は良く、木質化された箇所への関心が高かった。木材の産地や、管理面に関する質問が多く出た。

第 1 1 号様式（その 2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	川越町
事業名	川越町ボランティア施設（仮称）建設工事		

4. 効率性：主な経費内訳

区分	仕 様	単位	数量	単価	金額	備 考
工事費						
直接仮設工事		式	1.00		1,316,184	
土工事		式	1.00		310,256	
地業工事		式	1.00		5,085,575	
鉄筋工事		式	1.00		1,328,831	
コンクリート工事		式	1.00		1,681,903	
型枠工事		式	1.00		613,306	
鉄骨工事		式	1.00		9,488,804	
防水工事		式	1.00		378,502	
石・タイル工事		式	1.00		121,576	
木工事		式	1.00		4,438,109	内交付金対象分：3,874,013
屋根及びとい工事		式	1.00		6,730,024	
金属工事		式	1.00		2,188,261	
左官工事		式	1.00		587,132	
建具工事		式	1.00		13,950,699	
塗装工事		式	1.00		245,347	
内外装工事		式	1.00		6,080,683	
ユニット・その他工事		式	1.00		5,116,430	
造成・外構工事		式	1.00		20,988,980	
発生材集積・運搬		式	1.00		11,107	
発生材処分		式	1.00		20,370	
諸経費		式	1.00		33,472,921	
消費税		式	1.00		11,415,500	
		合計			125,570,500	

上記金額については、変更設計書ベースの金額となります。当初設計金額は、114,131,000円（税抜）であり

請負金額は、106,480,000円であることから、落札率は93.3%となっています。

変更内容による請負額の変更はありません。

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	川越町	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	川越町ボランティア施設（仮称）建設工事
-----	---------------------

7の（1）．写真

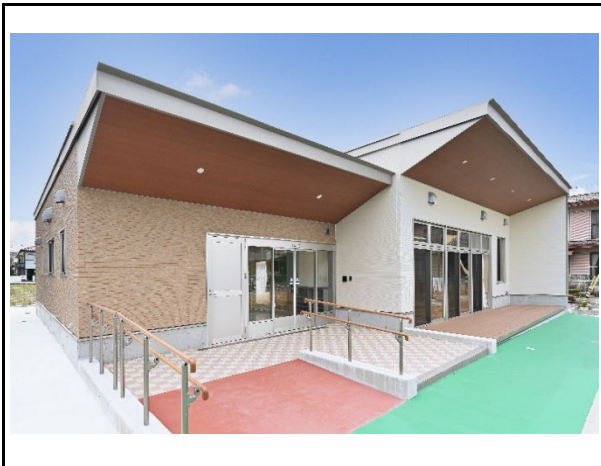


写真1

外観



写真2

外観

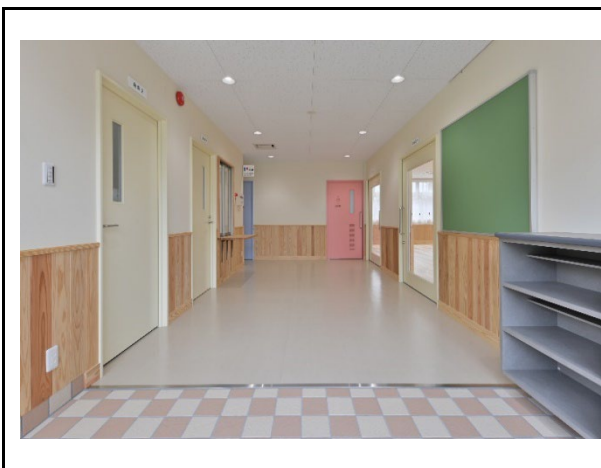


写真3

ホール腰壁木質化

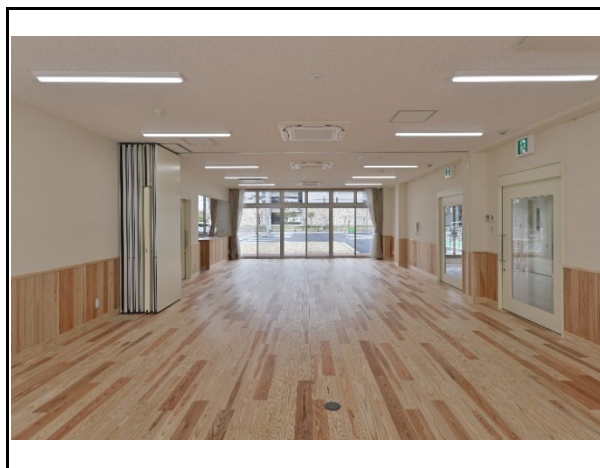


写真4

活動室腰壁・床木質化

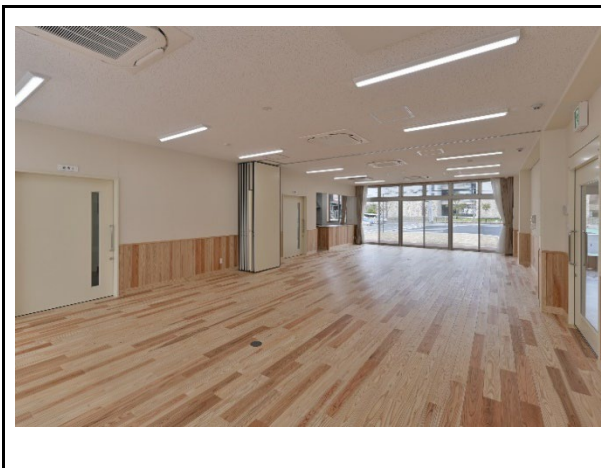


写真5

活動室腰壁・床木質化

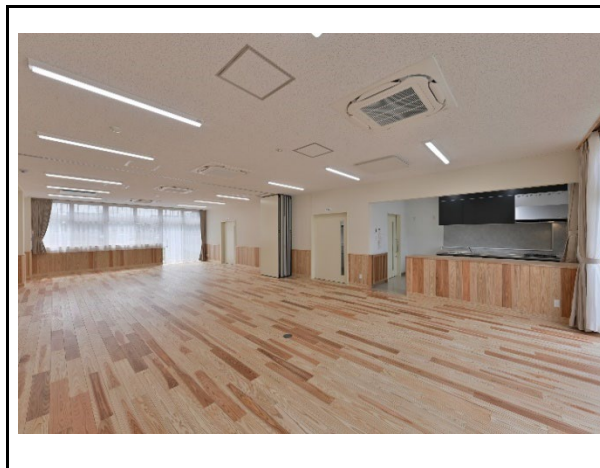


写真6

活動室腰壁・床木質化

第11号様式（その2）（評価委員会資料）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	川越町	新規・継続の別	新規
------	-------------------	-----	-----	---------	----

事業名	川越町ボランティア施設（仮称）建設工事
-----	---------------------

7の（2）. その他資料

施設案内パンフレット



3月末完成、5月1日オープンとなる施設であり、今後HP等での広報活動を行います。

